

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	解剖生理学(呼吸器)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	天本 保典
	Anatomical Physiology	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30	実務経験	○
コース	午前集中・美容スポーツ				1	開講区分	2セメ
						曜日・時限	

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

鍼灸治療は全身に散在している経穴に刺鍼または施灸していく。取穴の際のランドマークとなるのが解剖学的知識であり、治効理論として必要なのが生理学的知識である。また、刺鍼や施灸の際に危険を伴う部位もあり、リスクマネージメントの観点からも必要最小限で知っておかなければならない知識といえる。今後、勉強していかなければならない「臨床医学総論」「臨床医学各論」といった臨床系科目の基礎理論となる部分でもあり、資格取得までを体系的に考えた際には最も重要な教科ともいえる。本教科では人体の基本的な構造や働きについて理解していくことを目的とする。

・総論(主に細胞・組織の構造や働き)

※実務者経験

2003年より現在に至るまで訪問を中心とした鍼灸臨床経験を持っている。(西洋医学に基づく鍼灸治療)

【到達目標】

・呼吸器の構造と働きについての基礎知識を修得する。

<具体的な目標>

目標① 呼吸器系の構造について説明できる。

目標② 呼吸の生理作用について説明できる。

授業計画・内容

1回目	鼻腔・副鼻腔 : (目標①) 鼻腔・副鼻腔の構造について説明できる。
2回目	咽頭・喉頭 : (目標①) 咽頭・喉頭の構造について説明できる。
3回目	気管と気管支 : (目標①) 気管と気管支の構造について説明できる。
4回目	肺 : (目標①) 肺の構造について説明できる。
5回目	呼吸器 : (目標②) 呼吸器の基本的生理機能について説明できる。
6回目	換気とガス交換① : (目標②) 肺機能について説明できる。
7回目	換気とガス交換② : (目標②) ガス交換とガスの運搬について説明できる。
8回目	呼吸運動とその調節① : (目標②) 吸息・呼息の生理機能について説明できる。
9回目	呼吸運動とその調節② : (目標②) 胸腔内圧について説明できる。
10回目	呼吸運動とその調節③ : (目標②) 呼吸中枢・呼吸調節について説明できる。
11回目	呼吸運動とその調節④ : (目標②) 呼吸の異常について説明できる。
12回目	呼吸器系の総復習①
13回目	呼吸器系の総復習②
14回目	期末試験
15回目	期末試験の解答と解説

準備学習
時間外学習

(目標①) 東洋療法学校協会「解剖学」テキストを読んで、あらかじめ予習をしてください。
(目標②) 東洋療法学校協会「生理学」テキストを読んで、あらかじめ予習をしてください。

評価方法

定期試験にて、知識の到達評価を行います。(80%)
授業開始時に実施する小テストの結果(20%)

受講生への
メッセージ

人体と症状を知るには、解剖・生理の知識が必要不可欠となります。覚えることは多いですが、一緒に頑張りましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書: 河野 邦雄 伊藤 隆造 坂本 裕和 前島 徹 樋口 桂 著「解剖学 第2版」 医歯薬出版株式会社
教科書: 内田 さえ 原田 玲子 著「生理学 第3版」 医歯薬出版株式会社

2025年度 授業概要

学 科：鍼灸科

科目名 (英)	はりきゅう理論①	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	片山 雄二
	Theory of Acupuncture and Moxibustion	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	実務経験	○
コース	午前集中・美容スポーツ					開講区分	1セメ
						曜日・時限	

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
 整形外科病院等にて鍼灸治療に従事した教員が、この講義では鍼灸の治効理論について学習していく。治効理論を理解するためには神経生理学の基礎知識が必須となるため、表在感覚の伝導路や反射、自律神経についての復習を行いながら授業を進めていく必要がある。また、鍼灸でおこる鎮痛機構も改めて学習していく。本講義終了後には治効理論を基にした治療方法を構築できるようになり、鍼灸の治効のメカニズムを患者さんに対して簡潔に説明できるようになります。

※実務経験
 2005年から2007年まで久我原整形外科病院にて勤務。2007年より開業。現在に至る。(解剖生理学に基づく鍼灸治療)

【到達目標】
 古来より伝わるはり灸の用具や刺法についての知識を修得する。現行の鍼灸の施術方法、またリスク管理について理解し、方法論を修得する。鍼灸の適応となる疾患についての知識と過誤についての知識を基にリスク管理をしっかりとできるようにする。鍼灸の治効理論についての知識を獲得し、患者に説明できるようになる。

授業計画・内容	
1回目	鍼の基礎知識(用具)について説明できる。
2回目	鍼の基礎知識(古代九鍼)について説明できる。
3回目	刺鍼の方式と術式(刺鍼の方式、刺鍼の術式)について説明できる。
4回目	刺鍼の方式と術式(刺鍼の方式、刺鍼の術式)について説明できる。
5回目	刺鍼の方式と術式(刺鍼の方式、刺鍼の術式)について説明できる。
6回目	特殊鍼法について説明できる。
7回目	灸の基礎知識(灸の材料、線香)について説明できる。
8回目	灸術の種類(有痕灸、無痕灸)について説明できる。
9回目	鍼灸の臨床応用(刺激量、感受性、鍼灸療法の適応症)について説明できる。
10回目	鍼灸の臨床応用(鍼灸療法の禁忌)について説明できる。
11回目	リスク管理(リスク管理の基本、鍼療法の過誤と副作用)について説明できる。
12回目	リスク管理(鍼療法の過誤と副作用)について説明できる。
13回目	リスク管理(灸療法の過誤と副作用)について説明できる。
14回目	リスク管理(感染症対策)について説明できる。
15回目	期末テスト
準備学習 時間外学習	整理して覚えていくことで国家試験の頻出問題にも対応できるようになります。授業後にしっかりと復習をしてください。
評価方法	●小テスト(40%) ●定期テスト(60%) 割合で成績評価を行う。
受講生への メッセージ	古来より行われている日本の鍼灸がどのように変革し現行のものになっているかや現在も行われている特殊な鍼灸についての知見を広めることができます。また過誤の対処法や治効理論を学ぶことにより臨床で役立つ知識を得ることができます。 授業計画:この授業では学習した内容の範囲を次回の授業開始に小テストを行い確認します。授業内容の復習と整理をしておいてください。小テストは授業評価にもなりますので遅刻、欠席をしないようにしてください。
【使用教科書・教材・参考書】	
はりきゅう理論(株式会社 医道の日本社 公益社団法人 東洋療法学校協会編)	

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	運動学	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	福島 美沙紀
	Kinesiology					実務経験	○
コース	午前集中・美容スポーツ	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	開講区分	2セメ
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>解剖学の中の骨学・筋学を基礎中心に人間の正常な身体運動を科学的に学習を行う。特に運動器疾患の診察においては動作分析が正確な病態を把握するために必要なため動作分析やキネシオテーピングを使用した筋の走行の把握を重点に授業を進める。</p> <p>※実務経験 「にしお鍼灸院」(2018年5月～2020年3月)・「good鍼灸院」(2018年5月～2020年2月)にて、東洋医学的理論に基づく鍼灸治療を行っていた。</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>人間の正常な運動行動について分析、解析し理解をすることができる。国家試験に対応できる運動学の知識を得る。</p>							

授業計画・内容	
1回目	運動の目的、表し方について説明できる。
2回目	身体運動に関する力について説明できる。
3回目	骨、関節の構造と機能について説明できる。
4回目	骨格筋の構造と機能について説明できる。
5回目	神経の構造と機能について説明できる。
6回目	運動感覚(感覚と知覚)について説明できる。
7回目	反射の種類について説明できる。
8回目	随意運動について説明できる。
9回目	上肢帯、肩関節、肘関節、前腕、手関節の運動について説明できる。
10回目	股関節、膝関節、足関節、足部の運動について説明できる。
11回目	姿勢の種類と重心について説明できる。
12回目	歩行周期と歩行時の筋活動について説明できる。
13回目	乳幼児期の運動発達について説明できる。
14回目	運動技能学習の過程について説明できる。
15回目	期末テスト
準備学習 時間外学習	毎回の授業の復習が重要になるのでしっかり復習を行ってください。
評価方法	●期末テスト(100%)
受講生への メッセージ	運動器に関する総復習を行いつつ、身体運動について学んでいきます。筋の起始停止、支配神経、作用などの復習をすることが重要です。また主要な筋の走行を体表で確認するためにキネシオテーピングを使用したグループワークもありますので積極的に参加して下さい。
<p>【使用教科書・教材・参考書】</p> <p>配布資料にてすすめる。</p>	

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	あはきの適応 <small>Patient Assessment for Massage, Acupuncture and Moxibustion Treatments</small>	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	笠原 拓実
		授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 1	実務経験	○
コース	午前集中・美容スポーツ					開講区分	2セメ
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>身体へ鍼灸を用いた侵害刺激を行うことで得られる反応を観察し評価する。 侵害刺激の種類、量、時間の設定および反応の評価項目の設定を考察することで生体反応を適切に観察することが可能となる。 あはきの適応は、生体反応を適切に観察・評価することで受信者への説明能力の向上が期待される。 上記の内容を少人数のグループに分けチーム内での役割の重要性についても学ぶことができる。</p> <p>実務経験 2020年から2024年まで鍼灸接骨院にて勤務。現在に至る。(現代鍼灸医学に基づく鍼灸治療)</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>発想力、計画力、実行力、考察力、修正力、まとめる能力を獲得する。 (具体的な目標) 目標①鍼灸刺激が生体を与えることで予想される反応を列挙し研究計画を立てる。 目標②適切な刺激、適切な評価による観察および継続した観察と記録を行う。 目標③得られた結果に対する解剖学、生理学、病理学的な背景を生かして口頭での発表を行う。</p>							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション、過去の事例に対する到達目標の確認
2回目	(目標①)鍼灸刺激を与えることで得られる生体反応について(生理学・病理学・針きゅう理論)
3回目	(目標①)第2回目の授業で得られた生体反応に対する評価項目を含めた話し合い(実験・研究の流れ)
4回目	(目標①)第3回目の授業で得られた評価項目を用いて、計測可能な備品等も含め話し合う(実験・研究の流れ)
5回目	(目標①)第4回目の評価項目に対する観察事項の確認と介入刺激の確認
6回目	(目標②)対象者に対する刺激の種類・刺激量・場所の選定
7回目	(目標②)第6回目に設定した刺激に対する根拠
8回目	(目標②)対象者及び刺激の介入の開始1
9回目	(目標②)対象者及び刺激の介入の開始2
10回目	(目標②)対象者及び刺激の介入の開始3
11回目	(目標②)対象者及び刺激の介入の開始4
12回目	(目標②)対象者及び刺激の介入の開始5
13回目	(目標③)結果のまとめ
14回目	(目標③)発表準備
15回目	(目標③)発表準備
準備学習 時間外学習	本授業では、実技授業や臨床実習、座学授業で感じた鍼灸ができることを具体的に表す訓練を行います。 なぜ、どうしてという疑問を持ち続け、疑問を解消する思考方法を習得できるよう学習していきましょう。
評価方法	1, 2年生で行ってきた技能をもとに、感じた疑問点や鍼灸刺激を行うことで得られる反応の観察とまとめ、発表を行う 発表内容に関する考察や質問に対する対応を鑑み総合的に判断する。
受講生への メッセージ	この授業では、能動的に観察考察することが求められます。受け身で得られるものよりも積極的に授業に参加することで卒業後の臨床 力・臨床考察力を養うことを目的としています。
【使用教科書・教材・参考書】	
解剖学・生理学・病理学・はりきゅう理論	

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	臨床生理学	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	片山 雄二
	Clinical Histology	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 1	実務経験	○
コース	午前集中・美容スポーツ			開講区分	1セメ		
				曜日・時限			

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
 この授業でははりきゅう臨床における治効機序について、主に神経生理の観点で学習していく。
 本授業を受講することにより鍼灸痛のおこる機序、循環系、運動器系、消化器、泌尿器系、生体防御系に及ぼす鍼灸の作用機序について理解することができる。

※実務経験
 2005年から2007年まで久我原整形外科病院にて勤務。2007年より開業。現在に至る。(解剖生理学に基づく鍼灸治療)

【到達目標】
 鍼灸による鎮痛の機序について、専門用語を使用せず患者に分かりやすく説明ができるようになる。
 鍼灸によって起きる皮膚および筋の血流改善について、専門用語を使用せず患者に分かりやすく説明ができるようになる。
 鍼灸によって起きる免疫系への作用について、専門用語を使用せず患者に分かりやすく説明ができるようになる。

授業計画・内容	
1回目	ガイダンス 鍼灸痛の概要について学び、説明できる。
2回目	全身性鎮痛(ストレス誘発鎮痛)について学び、説明できる。
3回目	全身性鎮痛(下行性痛覚抑制系)について学び、説明できる。
4回目	全身性鎮痛(内因性オピオイド)について学び、説明できる。
5回目	全身性鎮痛(広汎性侵害抑制調節)について学び、説明できる。
6回目	脊髄分節性鎮痛(ゲート・コントロール説)について学び、説明できる。
7回目	末梢性鎮痛について学び、説明できる。
8回目	軸索反射について学び、説明できる。
9回目	鍼刺激による筋血流量の増加について学び、説明できる。
10回目	鍼刺激による動脈血圧の低下、鍼刺激による心拍数の低下について学び、説明できる。
11回目	鍼刺激による運動反射について学び、説明できる。
12回目	鍼刺激の消化管に対する作用について学び、説明できる。
13回目	鍼刺激の泌尿器系に対する作用について学び、説明できる。
14回目	鍼刺激の生体防御系に対する作用について学び、説明できる。
15回目	期末テスト
準備学習 時間外学習	解剖生理学の神経系、内分泌系の復習が必要になります。整理して覚えていくことで国家試験問題にも対応できるようになります。授業後にしっかりと復習をしてください。最終的には患者にはりきゅうの作用効果を説明できるようになることを目指しましょう。
評価方法	筆記試験(100%)
受講生への メッセージ	はりきゅうをするとなぜ痛みがなくなるのか、なぜ病気が治せるのかという疑問を解明し、その説明ができるようになります。鍼灸治療は神経系や内分泌系と密接に関わっていることが分かります。この授業の理解のためには解剖生理学の神経系や内分泌系の知識が必要です。復習を行いながら進んでいきますので神経や内分泌の知識も身につけていきましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
はりきゅう理論(株式会社 医道の日本社 公益社団法人 東洋療法学校協会編)	

2025年度 授業概要

学 科：鍼灸科

科目名 (英)	生体観察学 (Physical Examination)	必修 選択	必須	年次	3	担当教員	白木 芳弘・藤崎 舞椰
						実務経験	○
コース	午前集中、美容・スポーツ	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 1	開講区分	1セメ
						曜日・時限	
<p>【授業の学習内容】 教科書は「ボディナビゲーション～触ってわかる身体解剖～」を使用し、また骨標本を用いて触診の実技を進めていきます。すぐに触診するのではなく、まずはじっくり相手の身体を診て観察し、どうなっているのかを予測を立てて触診していきます。なるべく多くの身体を触診しそれぞれの違いを感じましょう。</p> <p>※実務経験 白木 芳弘……2011年～2021年：医療法人 中村整形外科医院で理学療法士としてリハビリ業務に従事 2021年～：白木整骨院、はる風整骨院ハルマチ(現代治療) 藤崎 舞椰……2012年～2017年までixas鍼灸マッサージ整骨院に勤務、2018年～2019年までゼロスポ鍼灸整骨院に勤務。</p>							
<p>【到達目標】 これまで学んできた解剖の知識を実際に触ることによってより理解出来るようになる。鍼灸治療の現場で必ず必要になる骨、関節、筋の構造を3次元的に理解し、体表から触診出来るようになる。また、個々の身体の違いに気づき、相手にも説明できるようになる。</p> <p>具体的な目標 ①構造の位置を探し出すこと ②構造の特徴に気づくこと ③治療法を決定できるように構造の質あるいは状態を評価すること</p>							
授業計画・内容							
1回目	(講義/実技)オリエンテーション、姿勢観察						
2回目	(講義/実技)姿勢観察、肩関節の骨触診						
3回目	(講義/実技)肩関節の骨触診						
4回目	(講義/実技)肩関節の軟部組織触診						
5回目	(講義/実技)肩関節の関節可動域、神経学的検査、特殊な検査						
6回目	(講義/実技)肘関節の骨触診						
7回目	(講義/実技)肘関節の軟部組織触診						
8回目	(講義/実技)肘関節の関節可動域、神経学的検査、特殊な検査						
9回目	(講義/実技)手関節の骨触診						
10回目	(講義/実技)手関節の骨触診						
11回目	(講義/実技)手関節の軟部組織触診						
12回目	(講義/実技)手関節の関節可動域、神経学的検査、特殊な検査						
13回目	(講義/実技)総まとめ						
14回目	(講義/実技)テスト前対策						
15回目	実技テスト						
準備学習 時間外学習	骨、筋、関節の名称、場所を理解しておく必要があります。						
評価方法	実技試験 100点						
受講生への メッセージ	身体の手触診は、臨床で重要になってきます。実技を通してたくさん経験して身につけていきましょう。						
<p>【使用教科書・教材・参考書】 ボディナビゲーション～触ってわかる身体解剖～ 配布資料、骨標本、角度計、マジックペン</p>							

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	臨床組織学	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	角 静香
	Clinical Histoigy	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 1	実務経験	○
コース	午前集中・美容・スポーツ					開講区分	2セメ
						曜日・時限	

【授業の学習内容】

特定の構造と機能をもった細胞が目的に応じて集し、機能上・構造上の合目的性を持ち、一つの有機体を形成したものを組織というのだが、この組織の組合せとして生体を研究する学問が組織学である。光学顕微鏡による組織切片の観察を通じて、身体の微細な構造をスケッチしながら、組織の構造について理解を深める。

※実務経験

歯科医師。九州大学歯学部附属病院・山田歯科にて臨床に携わる。

【到達目標】

顕微鏡の使い方からプレパラートを使用した各組織切片の観察方法の習得を目的とする。
顕微鏡を介した実際の組織切片の観察と解剖学・生理学・病理学の教科書を通して学んだ教科書上での組織構造とを比較して、その差異を認識することにより、組織への造詣を深めたり、臨床医学総論や臨床医学各論といった臨床系科目の基礎知識の構築へ寄与する。

授業計画・内容

1回目	オリエンテーション(ガイダンス・使用方法・注意事項など)を通して、顕微鏡について知識を習得することが出来る。
2回目	血液細胞を正確に分類し、スケッチをすることが出来る。
3回目	血液細胞を正確に分類し、スケッチをすることが出来る。
4回目	骨格筋を正確に分類し、スケッチをすることが出来る。
5回目	心筋を正確に分類し、スケッチをすることが出来る。
6回目	平滑筋を正確に分類し、スケッチをすることが出来る。
7回目	消化管1を正確に分類し、スケッチをすることが出来る。
8回目	消化管2を正確に分類し、スケッチをすることが出来る。
9回目	消化管3を正確に分類し、スケッチをすることが出来る。
10回目	消化器系を正確に分類し、スケッチをすることが出来る。
11回目	泌尿器系を正確に分類し、スケッチをすることが出来る。
12回目	神経系を正確に分類し、スケッチをすることが出来る。
13回目	循環器系を正確に分類し、スケッチをすることが出来る。
14回目	まとめ
15回目	期末テスト

**準備学習
時間外学習**

授業で扱う組織に関しては、予め「解剖学」「生理学」の教科書を読んでおいてください。

評価方法

口頭試問(50点)、実習レポート(50点)

**受講生への
メッセージ**

組織標本を実際に観察することにより解剖生理学への理解を深めていきましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

「解剖学」「生理学」教科書(医歯薬出版)、色鉛筆、双眼実体顕微鏡

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	病態生理学	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	片山 雄二
	Clinical Physiology					実務経験	○
コース	午前集中・美容スポーツ	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 1	開講区分	2セメ
						曜日・時限	

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

この講義では、解剖学と生理学に焦点を絞り、人体を体表面から内部に向かって行き、そこに何が存在し、どのような作用をしているかなどを改めて理解することを目的とする。臨床に出て患者に接する際にも解剖生理学の知識は必須となるので、医師や看護師など患者を包括ケアしているコメディカルスタッフと患者の状態について情報交換したり、家族や患者本人に説明できるようになることは臨床家としても重要な技術となる。

※実務経験

2005年から2007年まで久我原整形外科病院にて勤務。2007年より開業。現在に至る。(解剖生理学に基づく鍼灸治療)

【到達目標】

解剖学、生理学の基本的な知識を修得する。人体を構成する要素を学び、それらがどのような作用をしいながら生命活動をしているのかを理解し、一般の方に説明できるようになる。

<具体的な目標>

目標①生理学、解剖学の基礎を再確認し、習熟度を高める。

目標②活動時に人体で何が起きているかを説明できる。

目標③国試問題で正解数を増やす。

授業計画・内容	
1回目	消化器の構造・機能について説明できる。
2回目	消化器の構造・機能について説明できる
3回目	消化器の構造・機能について説明できる
4回目	循環器の構造・機能について説明できる
5回目	循環器の構造・機能について説明できる
6回目	循環器の構造・機能について説明できる
7回目	呼吸器の構造・機能について説明できる
8回目	呼吸器の構造・機能について説明できる
9回目	泌尿生殖器の構造・機能について説明できる
10回目	泌尿生殖器の構造・機能について説明できる
11回目	泌尿生殖器の構造・機能について説明できる
12回目	神経系の構造・機能について説明できる
13回目	神経系の構造・機能について説明できる
14回目	神経系の構造・機能について説明できる
15回目	まとめ
準備学習 時間外学習	(目標①)解剖学、生理学について予習が必要です。 (目標②)講義内容について復習をし、内容を理解することが必要です。
評価方法	出席率にて評価する
受講生への メッセージ	解剖生理学は国試合格だけでなく、臨床に出た際でも必須の知識となります。 過去学習した内容を思い出し、忘れていた部分を再度勉強修得しましょう。 身体の正常な反応を理解することで、異常(疾患、疾病など)を見つけることが可能になり、治療へ用いることができますので、国試だけでなく、その後の臨床を見据えて勉強していくようにしましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
配布プリント	

2025年度 授業概要

学 科：鍼灸科

科目名 (英)	総合領域⑧	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	平山 紘成
	Synthesis Realms					実務経験	○
コース	午前集中・美容スポーツ	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	開講区分	2セメ
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>この授業はリハビリテーション医学、病理学を中心とした国家試験対策に主眼を置いて講義を行っていく。1、2年次に学習した内容の中で国家試験の頻出項目の中から大事なポイントを確認しながらすすめていく。ポイントを確認した後に実際に模擬問題を解き、間違った問題を確認することで覚えるべきポイントと理解しなければならないことがさらに明確になる。この授業の後には類似問題が出題された場合には正解を導き出すことができるようになる。</p> <p>※実務経験 2018年から2020年まで沖縄統合医療学院付属鍼灸院にて勤務。現在に至る。(中医学・現代鍼灸医学に基づく鍼灸治療)</p> <p>【到達目標】 リハビリテーション医学、病理学の国家試験過去問題に正解できるようになる。国家試験関連問題に対しても正答率7割以上をとれるようになる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	リハビリテーション医学の脳卒中に関する国家試験関連問題を解けるようになる。
2回目	リハビリテーション医学の脊髄損傷に関する国家試験関連問題を解けるようになる。
3回目	リハビリテーション医学の切断に関する国家試験関連問題を解けるようになる。
4回目	リハビリテーション医学の小児麻痺に関する国家試験関連問題を解けるようになる。
5回目	リハビリテーション医学の関節リウマチに関する国家試験関連問題を解けるようになる。
6回目	リハビリテーション医学のパーキンソン病に関する国家試験関連問題を解けるようになる。
7回目	リハビリテーション医学の呼吸器の関する国家試験関連問題を解けるようになる。
8回目	疾病(病気)について病理学をまとめる。疾病(病気)に関する国家試験問題を解けるようになる。
9回目	病因について病理学をまとめる。病因に関する国家試験問題を解けるようになる。
10回目	循環障害について病理学をまとめる。循環障害に関する国家試験問題を解けるようになる。
11回目	退行性変性について病理学をまとめる。退行性変性に関する国家試験問題を解けるようになる。
12回目	進行性病変について病理学をまとめる。進行性病変に関する国家試験問題を解けるようになる。
13回目	炎症について病理学をまとめる。炎症に関する国家試験問題を解けるようになる。
14回目	腫瘍について病理学をまとめる。免疫異常・アレルギーに関する国家試験問題を解けるようになる。
15回目	先天性異常について病理学をまとめる。先天性異常に関する国家試験問題を解けるようになる。
準備学習 時間外学習	授業後に復習、問題演習を行って知識を定着させてください。
評価方法	出席点 100点(1回欠席ごとに-8点、1回遅刻ごとに-4点)
受講生への メッセージ	国家試験に向けてがんばっていきましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
公益財団法人東洋療法学校協会編 新版リハビリテーション医学、公益財団法人東洋療法学校協会編 病理学	

2025年度 授業概要

学 科：鍼灸科

科目名 (英)	解剖生理学(泌尿生殖器)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	姪原 裕子
	Anatomical Physiology	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30	実務経験	○
コース	午前集中・美容・スポーツ				1	開講区分	3セメ
						曜日・時限	

【授業の学習内容】

本講義では、尿を生成し体外に排出する泌尿器系、子どもづくり種族を維持する役割を担っている生殖器系について学習していく。
 まずは医学的な専門用語の把握から始まり、その生理機能については教科書に沿った資料を基に模式図や説明文の両方から頭の中で総合的にイメージすることによって内容理解に努めます。
 知識の定着を図るためのアウトプット作業として、国家試験の過去問題にも挑戦してもらおう。

※実務経験

訪問治療を中心に行っており、2022年8月「姪原鍼灸院」を開業

【到達目標】

泌尿・生殖器の範囲について国家試験に対応できる知識を身につける。
 臨床現場で知識を活用し、治療ができるようになる。

<具体的な目標>

泌尿生殖器系についての主な解剖学的名称を説明できる。
 泌尿生殖器系のそれぞれの働きを説明できる。

授業計画・内容

1回目	授業の進め方について
2回目	泌尿器:腎臓の解剖学的名称を述べるができる。
3回目	泌尿器:腎臓の生理学的知識を学び、説明することができる。
4回目	泌尿器:尿路の解剖学的名称を述べるができる。
5回目	泌尿器:尿生成の生理学的知識を学び、説明することができる。
6回目	泌尿器:体液調節・蓄尿と排尿の生理学的知識を学び、説明することができる。
7回目	生殖器:男性生殖器の解剖学的名称を述べるができる。
8回目	生殖器:男性生殖器の生理学的知識を学び、説明することができる。
9回目	生殖器:女性生殖器の解剖学的名称を述べるができる。
10回目	生殖器:女性生殖器の生理学的知識を学び、説明することができる。
11回目	受精・発生の解剖学的名称を述べるができる。
12回目	妊娠・出産の解剖学的名称を述べるができる。
13回目	生長・老化の生理学的知識を学び、説明することができる。
14回目	まとめ
15回目	学期末テスト
準備学習 時間外学習	知識の定着には繰り返しの学習が必要です。 習った範囲については、常に復習することを心がけ知識を短期記憶から長期記憶にできるようにしていきましょう。
評価方法	学期末テストにて知識の到達評価を行う。 ●定期試験(100%) の割合で成績評価を行う。
受講生への メッセージ	解剖生理学の知識は他の教科、特に臨床医学各論・病理学・東洋医学臨床論などを勉強する上では必要不可欠なものになります。 西洋医学の専門知識をしっかりと身につけて、応用できるように一緒に頑張ってください。 そして、国家試験合格に向けても、一緒に学んでいきましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書:『解剖学』(社団法人東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社)
 『生理学』(社団法人東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社)

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	美容はり1	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	岡本真理 宮元真保 藤崎舞椰
	Acupuncture and Moxibustion Beauty Skills 1					実務経験	○
コース	美容スポーツコース 美容専攻	授業形態	講義実技	総時間 (単位)	30 2	開講区分	1セメ
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>美容鍼灸の施術をおこなううえで必要となる皮膚の構造、顔の筋肉や皮膚のトラブル、栄養素など美容に関する全般的な基礎知識の講義を行う。顔のリフトアップ、や肌の改善を目的とした顔面部への刺鍼についての講義を行う。リスク管理・お客様へのカウンセリング法・刺鍼テクニックなどの実践力を高める講義。立体造顔美容鍼を元に講義を行う。</p> <p>※実務者経験(藤崎): 2012年～2017年までixes鍼灸マッサージ整骨院に勤務、2018年～2019年までゼロスポ鍼灸整骨院に勤務。</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>美容鍼灸を行う上で必要な基礎知識をつけ、お客様のお悩みに合わせた施術、アフターケアまでの流れを実践できるようになる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	美容鍼灸の概要を説明する事ができる。
2回目	美容鍼灸の概要を説明する事ができる。
3回目	立体造顔美容鍼①
4回目	立体造顔美容鍼②
5回目	立体造顔美容鍼③
6回目	立体造顔美容鍼④
7回目	立体造顔美容鍼⑤
8回目	立体造顔美容鍼⑥
9回目	立体造顔美容鍼⑦
10回目	立体造顔美容鍼⑧
11回目	頭部をほぐし、片手挿管を使用し美容鍼の施術をクラスメイトに実践する事ができる。
12回目	頭部をほぐし、片手挿管を使用し美容鍼の施術をクラスメイトに実践する事ができる。
13回目	鍼管を使用せずに美容鍼の施術をクラスメイトに実践することが出来る
14回目	鍼管を使用せずに美容鍼の施術をクラスメイトに実践することが出来る
15回目	実技試験
準備学習 時間外学習	クラスメイトや家族の協力のもと、実践を重ねる事が大事です。自分のお肌の悩みにも真剣に向き合い自分への実践も、理解や上達の早速です。
評価方法	出席率(50%)、実技試験(50%)
受講生への メッセージ	美容のスペシャリストになるために、基礎をしっかり学びたくさん実践して下さい。
【使用教科書・教材・参考書】	
立体造顔美容鍼のテキスト	

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	美容はり2	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	鈴木 琴音
	Acupuncture and Moxibustion Beauty Skills					実務経験	○
コース	美容スポーツコース 美容専攻	授業形態	演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	2セメ
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) 美容鍼灸の施術をおこなううえで必要となる皮膚の構造、顔の筋肉や皮膚のトラブル、栄養素など美容に関する全般的な基礎知識の講義を行う。顔のリフトアップ、や肌の改善を目的とした顔面部への刺鍼についての講義を行う。リスク管理・お客様へのカウンセリング法・刺鍼テクニックなどの実践力を高める講義。 実務経験: salon de 美的ラボ(2018年4月～2020年5月)、Coto鍼灸院(2020年10月)を開業し、現在に至る。</p>							
<p>【到達目標】 美容鍼灸を行う上で必要な基礎知識をつけ、お客様のお悩みに合わせた施術、アフターケアまでの流れを実践できるようになる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	お顔の構造を把握した上で美容鍼施術をおこなうことができる
2回目	お顔の構造を把握した上で美容鍼施術をおこなうことができる
3回目	顔面部の動静脈を理解し、内出血のリスク管理をすることができる
4回目	顔面部の動静脈を理解し、内出血のリスク管理をすることができる
5回目	神経の走行を理解した上で、パルスを使いアプローチすることができる
6回目	頭部への通電治療を行うことができる
7回目	化粧品の構造を理解し、スキンケアの基本知識を説明することができる
8回目	ニキビの原因を理解して適切なアプローチを説明することができる
9回目	美容鍼をする上で知っておくべき主要な美容医療を把握した上での美容鍼施術がおこなうことができる
10回目	症状別に美容鍼の施術をクラスメイトに実践する事ができる
11回目	症状別に美容鍼の施術をクラスメイトに実践する事ができる
12回目	カウンセリング・同意書の説明ができる、お悩みに合わせた美容鍼施術を行うことができる
13回目	カウンセリング・同意書の説明ができる、お悩みに合わせた美容鍼施術を行うことができる
14回目	カウンセリング・同意書の説明ができる、お悩みに合わせた美容鍼施術を行うことができる
15回目	カウンセリング・同意書の説明ができる、お悩みに合わせた美容鍼施術を行うことができる
準備学習 時間外学 習	クラスメイトや家族の協力のもと、実践を重ねる事が大事です。自分のお肌の悩みにも真剣に向き合い自分への実践も、理解や上達の早道です。
評価方法	出席率(70%)、授業態度意欲(30%)
受講生への メッセージ	美容のスペシャリストになるために、基礎をしっかり学びたくさん実践して下さい。
【使用教科書・教材・参考書】	
経絡経穴理論教科書、美容薬学検定テキスト、日本化粧品検定テキスト	

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	美容はり3 Acupuncture and Moxibustion Beauty Skills	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	大田 未来
	コース	美容スポーツコース 美容専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	実務経験 開講区分 曜日・時限
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) 外的な美容には内的な健康が不可欠である。そのためカウンセリング等も大事なものになる。本講義ではカウンセリングにて悩みを相手から聞き出し東洋的なアプローチで全身の調節を行い、また筋肉、皮下組織にもアプローチできるような講義を行う。</p> <p>※実務者経験:</p>							
<p>【到達目標】 美容医療の基礎知識をつけ、カウンセリングを実施し個人にあったメニューを作成でき施術できるようになる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	美容鍼をする上で知っておくべき主要な美容医療
2回目	美容鍼をする上で知っておくべき主要な美容医療
3回目	フェイシャル・モデリングパック、美容鍼をクラスメイトに実施する
4回目	フェイシャル・モデリングパック、美容鍼をクラスメイトに実施する
5回目	表情筋、咀嚼筋に対するの鍼通電治療
6回目	表情筋、咀嚼筋に対するの鍼通電治療
7回目	全身の調節と美容鍼をクラスメイトに実施する
8回目	全身の調節と美容鍼をクラスメイトに実施する
9回目	全身の調節と美容鍼をクラスメイトに実施する
10回目	全身の調節と美容鍼をクラスメイトに実施する
11回目	全身の調節と美容鍼をクラスメイトに実施する
12回目	目的に応じた遠隔部の経穴を取穴できる。クラスメイトに実践できる。
13回目	目的に応じた遠隔部の経穴を取穴できる。クラスメイトに実践できる。
14回目	目的に応じた遠隔部の経穴を取穴できる。クラスメイトに実践できる。
15回目	テスト
準備学習 時間外学習	機会があるのであれば、顔面部への施術を患者として体験しておくこと、理解や上達も早いと思います。また、将来のビジョンも描きやすいです。
評価方法	実技試験による定期テスト(100%)
受講生への メッセージ	美容鍼のスペシャリストとなるように、基礎をしっかりと学んでいきましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	メイク1 Make-up 1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	星川 亜輝子
	コース	美容スポーツコース 美容専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	実務経験 開講区分 曜日・時限
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) 次世代の美容のプロ育成のための専門学校運営に力を注いだ講師が、メイク技法の根本を伝授しながら、女性心理の解析とそれを形にする(メイク)技術を学ぶ授業。 ※実務者経験:2017年～2018年 個人で鍼灸院を開業。その傍、アロマトリートメントサロンも経営。</p>							
<p>【到達目標】 心理学に基づいたメイクセラピー技法を知り、相手のオーダー(要望)を聞き、それに沿ったフルメイクが出来るようになる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	メイク道具に触れ、顔のパーツとその役割使い方を実践できる。
2回目	メイクセラピーを実践できる。
3回目	メイクの基本を実践できる。 ベースメイクレッスン1
4回目	メイクの基本を実践できる。 ベースメイクレッスン2と制限時間
5回目	色彩学について タイプ別のメイクについて実践できる。
6回目	色彩学に基づくコントロールカラーを使って理解を深める。
7回目	皮膚科学に關しての知識(UV、しみ)→コンシーラ等で肌悩みを隠す技術を身につける。
8回目	ポイントメイクを理解し実践できる。
9回目	制限時間30分間のフルメイクができる。
10回目	筆記試験対策1(3級・2級テキストより)
11回目	苦手とするメイク技法の習得と練習1
12回目	トータルコーデ(ヘアアレンジ)とメイクの調和实践1
13回目	知らない方(当社スタッフ)にメイクを施す難しさを体感しよう1
14回目	オーダーメイクを20分間で実施できるようになる。
15回目	定期試験個別評定のマイナス点の克服
準備学習 時間外学習	メイクについて確かな技術を身につけるには、授業ごとに講義内容の整理・確認を行い、技術の練習を行うことが不可欠です。
評価方法	制限時間20分間でオーダーメイクを仕上げる実技試験(100%)
受講生への メッセージ	メイクの楽しさを知る事が一番です。一緒に頑張っていきましょう。

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	メイク2 Make-up 2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員 実務経験	山崎 裕美 ○
コース	美容スポーツコース 美容専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分 曜日・時限	1セメ 曜日・時限
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) 次世代の美容のプロ育成のための専門学校の運営に力を注いでいる講師が、メイク技法の根本を伝授しながら、自分の悩みや顔を分析し、理想のイメージやTPOに合わせたメイクアップを施すことができる技術を習得する授業を行う。</p> <p>※実務者経験：美容クリエイター・ヘアメイクアップアーティスト。26年以上のキャリアを積み、ブライダル、ビューティショー、撮影、講師業、内面・外面・精神面を整える三面美容を主としたサロンを運営するなど幅広く活動。またメイクアップ技術検定協会の認定講師や日本化粧品検定協会コスメコンシェルジュインストラクター、アロマケア、リンパケア、腸セラピスト、メンタル美容セラピスト、美容師免許などの資格も有する。</p>							
<p>【到達目標】 美容において必要な基礎知識を習得する。(美容とは、メイクアップの基礎知識) 悩み別メイクアップ技術、TPO、イメージに合わせたメイクアップ技術を習得しメイクアップによるセルフプロデュースができるようになる。</p>							

授業計画・内容

1回目	好印象を与える現場に合うメイクとは何か、自分の顔のバランス(ゴールデンプロポーション)を理解する
2回目	化粧品の基礎知識、スキンケアやメイクアップの目的を理解する
3回目	メイクの基本を実践できる① ベースメイク (顔型の補正、肌色の補正、肌トラブルのカバーの仕方を習得する)
4回目	メイクの基本を実践できる② 復習+アイブロウ (眉のイメージ、自分に合った眉の描き方と左右対称、ムラなく自然に仕上げる修正技術習得する)
5回目	メイクの基本を実践できる③ 復習+アイメイク (目幅(縦、横)、目と目の間隔のバランス、つり目・たれ目の補正、イメージ別アイメイク技術を習得する)
6回目	メイクの基本を実践できる④ 復習+チーク・リップ (バリエーションを理解しテクニックを習得する・形と色とイメージの違いについて説明ができる)
7回目	メイクの基本を実践できる⑤ 各悩み別、理想やイメージ別メイクを習得する
8回目	イメージ別メイクの特徴を理解する① (キュート・フレッシュ)
9回目	イメージ別メイクの特徴を理解する② (エレガント・クール)
10回目	トータルコーディネート① カラーと顔タイプを理解しメイクアップに活かすことができる
11回目	トータルコーディネート② 理想のイメージをデザイン画に起こす技術を習得する
12回目	トータルコーディネート③ ヘアアレンジの技術を習得する
13回目	トータルコーディネート④ ヘアアレンジとメイクの調和実践
14回目	定期試験 (今まで習得した知識、技術を活用し、理想のイメージに合わせたセルフメイクアップを施すことができる)
15回目	試験のフィードバック・苦手部分を克服し習得する
準備学習 時間外学習	メイクについて確かな技術を身につけるには、授業ごとに講義内容の整理・確認を行い、技術の練習を行うことが不可欠です。毎回授業の復習を行って下さい。自分の毎日のお手入れに取り入れるようにして下さい。自分の顔分析をし、長所・短所を客観的に捉えられる必要があります。理想の顔やなりたいイメージを明確に持つように心がけて下さい。
評価方法	制限時間40分間でイメージに合わせた好印象を与えるメイクアップを仕上げる実技試験(100%)
受講生への メッセージ	配布したプリント類はファイリングしておいて下さい。 講義やデモンストレーション、指示した内容については必ずノートやメモを取る。いつでも見直せる様にしておいて下さい。 実習がメインとなる授業ため忘れ物、遅刻欠席は出来るだけせず、苦手部分などの練習や復習をして授業に臨んでほしい。 メイクの楽しさを知り今後の自分に役立てて下さい。 一緒に頑張っていきましょう。

2025年度 授業概要

2025年度 授業概要						学 科 :	
科目名 (英)	ネイル	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	君波 浩
	nail					実務経験	有
コース	美容スポーツコース 美容専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30	開講区分	3セメ
						曜日・時限	木曜日 1-2限
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>爪の構造からネイルケアの大切さを知り、日々のお手入れをすることにより強やかに爪を育てる知識・技術についての講義と実技。教員のデモンストレーションを見て参考にしながら、クラスメイト同士でペアで練習して知識・技術を身につけていく。また創造力をネイルアートで表現できるよう、使用する道具の知識・技術に関する講義を行う。教員が内容を常に確認しながら知識・技術を身につけていく。</p> <p>※実務者経験：ネイルサロン勤務経験を経てネイル講師として従事している。</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>爪の構造、ネイルケアの大切さ、基礎知識、道具の正しい使用方法技術を習得する。またネイルアートを通じて想像力、個性を形に表現できるようになる。</p>							
授業計画・内容							
1回目	ネイルケアについて【道具の名称、手順、衛生管理など】の知識を身につける						
2回目	相モデルにて技術練習を行い、ネイルケア・カラーリングの技術を身につける						
3回目	フットケアについて、ハンドケアとフットケアの違いを学びながら知識を身につける						
4回目	相モデルにて技術練習を行い、フットケア・カラーリングの技術を身につける						
5回目	ジェルネイルについて【ジェルネイルの基礎知識、手順、ワンカラーの工程】の知識を身につける						
6回目	ジェルネイルについて【基礎アート(グラデーション、ラメグラデーション、フレンチ)】の知識を身につける。チップにて技術練習を行い、技術を身につける						
7回目	ジェルネイルについて【応用アート(ミラーネイル、オーロラパウダー、カラーバレット、立体アート)】の知識を身につける。チップにて技術練習を行い、技術を身につける						
8回目	ジェルネイルについて【トレンドアート】SNSでトレンドを調査し、作成したいアートデザインを作成する						
9回目	ジェルネイルについて【トレンドアート】デザインを元にネイルチップを作成する						
10回目	ジェルネイルについて【トレンドアート】デザインを元にネイルチップを作成する						
11回目	小テストを行い、理解度を確認を行う。						
12回目	テーマを決めてジェルネイルののアートチップ作成を行い、技術を身につける。						
13回目	相モデルでデザインを作成し合い、お互いのデザインをネイルチップに再現する。						
14回目	定期試験						
15回目	定期試験のフィードバック、復習						
準備学習 時間外学習	トレンドは随時変わっていくので空いた時間等にSNSでトレンドのネイルデザインを調べておいてください。						
評価方法	定期試験60%、小テスト10%、授業態度、出席率30%						
受講生への メッセージ	セルフネイルが増えている中、この授業ではプラスαの知識、技術を習得できるように行っていきます。授業内容では板書やメモを取る事もあるので専用のノート、筆記用具を準備しておいてください。						
<p>【使用教科書・教材・参考書】 ありません。</p>							

2025年度 授業概要

学 科：鍼灸科

科目名 (英)	一般教養4 General Education 4	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	吉田 光志
						実務経験	○
コース	午前集中・美容スポーツ	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	2セメ
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) AI化・機械化などの影響で運動量が減少していく現代において、生涯スポーツの習慣が必要となってきている。生涯スポーツの習慣を身につけることにより、心身ともに健康なからだづくりができるようにする。</p> <p>※実務者経験：高校体育教員免許所持。福岡市レクリエーション協会などの派遣にてレクリエーション活動を行う。保健体育教員。レスリング・相撲などのスポーツ教室の開催。</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>生涯スポーツと健康 <具体的な目標></p> <p>①からだほぐし・健康運動を実践し生活習慣に取り入れることができる ②競技スポーツ競技スポーツを体験し、生涯スポーツとして実践することができる ③人生設計と健康・スポーツの計画が立てられる</p>							

授業計画・内容

1回目	「ガイダンス」生涯スポーツと健康の関係について説明できる
2回目	「アイスペイキング(実習)」からだほぐしのアイスペイクの実習を行う
3回目	「ボウリング実習①(実習)」生涯スポーツとして身近なボウリング実習を行う
4回目	「ボウリング実習②(実習)」生涯スポーツとして身近なボウリング実習を行う
5回目	「生涯スポーツの理論①(講義)」自身のスポーツや身体活動の振り返りを行う
6回目	「健康運動の実践①(実習)」個人でできる運動・トレーニングの実習を行う
7回目	「競技スポーツの実践①(実習)」集団で行うスポーツ種目を行う
8回目	「競技スポーツの実践②(実習)」集団で行うスポーツ種目を行う
9回目	「競技スポーツと生涯スポーツの理論(講義)」生涯スポーツにおける競技スポーツの関わり方について説明できる
10回目	「スポーツ脳トレーニングの実践①(講義)」スポーツ脳トレーニングの実習を行う
11回目	「スポーツ脳トレーニングの実践②(講義)」スポーツ脳トレーニングの実習を行う
12回目	「健康運動の実践②(実習)」個人でできる運動・トレーニングの実習・評価を行う
13回目	「競技スポーツの実践③(実習)」集団で行うスポーツ種目を行う
14回目	「競技スポーツの実践④(実習)」集団で行うスポーツ種目を行う
15回目	「人生設計における生涯スポーツ計画(講義)」人生設計と目標達成のための健康づくりや生涯スポーツ計画の作成ができる
準備学習 時間外学習	体調管理を行う 生涯スポーツ・健康づくりの習慣づくり
評価方法	実習中の動きや振り返りシートで理解度を判定する 人生設計における生涯スポーツ計画シートにおいて健康と生涯スポーツの関わりについて理解度を評価する
受講生への メッセージ	生涯スポーツの役割として健康づくりが挙げられます。自身の人生の目標達成には心身の健康が土台となる必要があります。楽しく生涯スポーツの習慣を身につけていきましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	関係法規 Regulations	必修 選択	必修	年次	3	担当教員 実務経験	片山 雄二 ○
コース	午前集中・美容スポーツ	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	開講区分 曜日・時間	1セメ
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) この授業ではあん摩マッサージ指圧師はり師きゆう師に関する法律を中心に講義をして学んでいく。また、その他の医事法規や医療従事者としての倫理についても講義にて学習していく。本授業を受講することにより、はり師きゆう師として、医療従事者として法規上行ってよいことと悪いことが判別できるようになり、適切な業務を行うことができるようになります。</p> <p>※実務者経験：2005年から2007年まで久我原整形外科病院にて勤務。2007年より開業。現在に至る。(解剖生理学に基づく鍼灸治療)</p>							
<p>【到達目標】 法の沿革と鍼灸の現状について学習し、伝統医学としての鍼灸の成り立ちを把握できる。将来業務を行う際に遵守しなければならない法規についての知識を獲得する。また広告や罰則についての知識も獲得する。また、施術所の開設や訪問治療を始める際の必要条件や申請方法についてのするために必要な知識を得、開設の際に対応できるようになる。医事法規について幅広く学習し、国家試験に対応できる知識を身につける。</p>							

授業計画・内容

1回目	ガイダンス あはき師法の沿革の概要について学び、説明できる。
2回目	免許の資格要件について説明できる。
3回目	名簿の登録事項について説明できる。
4回目	免許証の意味と返納期限について説明できる。
5回目	業務の範囲について説明できる。
6回目	随検検査と業務に関する指示を行う者について説明できる。
7回目	施術所の届け出事項について説明できる。
8回目	施術所の備えるべき要件について説明できる。
9回目	広告しうる事項について説明できる。
10回目	鍼灸に関する罰則について説明できる。
11回目	医事法規の種類と概要について学び、説明できる。
12回目	薬事法規の概要について学び、説明できる。
13回目	衛生関係法規の種類について説明できる。
14回目	社会福祉関係法規、社会保険関係法規について概要を学び、説明できる。
15回目	期末テスト
準備学習 時間外学習	国家試験対策の重要ポイントを各授業でまとめていますので授業内容の復習と整理をしてください。
評価方法	●小テスト(40%) ●定期テスト(60%) 割合で成績評価を行う。
受講生への メッセージ	この授業では学習した内容の範囲を次回の授業開始に小テストを行い確認します。小テストは授業評価にもなりますので遅刻、欠席をしないようにしてください。
関係法規(医歯薬出版株式会社 公益社団法人 東洋療法学校協会編)	

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	エステティック技法①	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	星川 亜輝子
	Esthetic Technique 1					実務経験	○
コース	美容スポーツコース 美容専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	1セメ
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) フェイシャル、デコルテを含めた全身オイルトリートメントを行う。部位ごとに実技、練習を行う。実技練習は生徒をモデルとして生徒同士でペアを組み行っていく。</p> <p>実務経験:2017年～2018年 個人で鍼灸院を開業。その傍、アロマトリートメントサロンも経営。</p>							
<p>【到達目標】 セラピストとして、オイルを使ってフェイシャルを含め、全身のオールハンドトリートメントを行うことができ、それをお客様へ提供できるレベルまで、スキルを習得することを目標とする。</p>							

授業計画・内容

1回目	セラピストオリエンテーション
2回目	お腹のオイルトリートメントについてデモンストレーションを参考に注意点を理解し、練習を行う。
3回目	上肢のオイルトリートメントについてデモンストレーションを参考に注意点を理解し、練習を行う。
4回目	デコルテのオイルトリートメントについてデモンストレーションを参考に注意点を理解し、練習を行う。
5回目	デコルテのオイルトリートメントについてデモンストレーションを参考に注意点を理解し、練習を行う。
6回目	下肢後面のオイルトリートメントについてデモンストレーションを参考に注意点を理解し、練習を行う。
7回目	フェイシャルオイルトリートメントについて概要を説明できる。
8回目	フェイシャル・デコルテオイルトリートメントを実践できる。
9回目	フェイシャル・デコルテオイルトリートメントを実践できる。
10回目	フェイシャル・デコルテオイルトリートメントを実践できる。
11回目	フェイシャル・デコルテオイルトリートメントを実践できる。
12回目	テスト(タオルワーク、案内)
13回目	テスト(フェイシャル・デコルテオイルトリートメント)
14回目	フットバス、ハンドバスについてデモンストレーションを参考に注意点を理解し、練習を行う。
15回目	下肢後面のオイルトリートメントについてデモンストレーションを参考に注意点を理解し、練習を行う。
準備学習 時間外学習	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ● 平常点(着席の授業態度、出欠、忘れ物の有無) ● 修了試験 上記を総合評価
受講生への メッセージ	<p>リラクゼーション業界に携わって10年以上の経験を、成功事例や症例別、失敗事例まで、皆様には惜しみなく、実技の授業の中でお話していきます。この授業で学ぶ技術はあくまでもリラクゼーション目的ですが、鍼灸師としての見方も同時にお伝えしていきます。タオルワークや接客技術に関しては、これからの時代、鍼灸院でも、接客スキルはかなり問われますし、サービスの面でも必須になってきます。鍼灸師としても、ワンランク上の接客スキルも身につけることができる授業にしたいと思っています。お一人お一人技術に差は必ずありますが、授業の中で、お一人お一人みていきますので、安心して授業を受けていただけます。皆様にお会いできることを楽しみにしております</p>
【使用教科書・教材・参考書】	
教科書:アロマ環境協会アロマセラピストの技術に準じる 副読本:アロマテラピーコンプリートブック下巻	

2025年度 授業概要

学 科：鍼灸科

科目名 (英)	エステティック技法②	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	星川 亜輝子
	Esthetic Technique 2	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	実務経験	○
コース	美容スポーツコース 美容専攻			開講区分	1セメ		
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) フェイシャル、デコルテを含めた全身オイルトリートメントを行う。部位ごとに実技、練習を行う。実技練習は生徒をモデルとして生徒同士でペアを組み行っていく。 実務経験：2017年～2018年 個人で鍼灸院を開業。その傍、アロマトリートメントサロンも経営。</p>							
<p>【到達目標】 セラピストとして、オイルを使ってフェイシャルを含め、全身のオールハンドトリートメントを行うことができ、それをお客様へ提供できるレベルまで、スキルを習得することを目標とする。</p>							

授業計画・内容	
1回目	タオルワークについて注意点を説明できる。タオルワークを実践できる。
2回目	腹部のオイルトリートメントについて注意点を説明できる。腹部のオイルトリートメントを実践できる。
3回目	上肢のオイルトリートメントについて注意点を説明できる。上肢のオイルトリートメントを実践できる。
4回目	デコルテのオイルトリートメントについて注意点を説明できる。デコルテのオイルトリートメントを実践できる。
5回目	デコルテのオイルトリートメントについて注意点を説明できる。デコルテのオイルトリートメントを実践できる。
6回目	下肢後面のオイルトリートメントについて注意点を説明できる。下肢後面のオイルトリートメントを実践できる。
7回目	デコルテ・フェイシャルのオイルトリートメントについて注意点を説明できる。デコルテとフェイシャルのオイルトリートメントを実践できる。
8回目	デコルテ・フェイシャルのオイルトリートメントについて注意点を説明できる。デコルテとフェイシャルのオイルトリートメントを実践できる。
9回目	デコルテ・フェイシャルのオイルトリートメントについて注意点を説明できる。デコルテとフェイシャルのオイルトリートメントを実践できる。
10回目	デコルテ・フェイシャルのオイルトリートメントについて注意点を説明できる。デコルテとフェイシャルのオイルトリートメントを実践できる。
11回目	デコルテ・フェイシャルのオイルトリートメントについて注意点を説明できる。デコルテとフェイシャルのオイルトリートメントを実践できる。
12回目	テスト(タオルワーク、案内)
13回目	テスト(デコルテ・フェイシャルオイルトリートメント)
14回目	フットバス・ハンドバスについて注意点を説明できる。フットバスとハンドバスのオイルトリートメントを実践できる。
15回目	下肢後面のオイルトリートメントについて注意点を説明できる。下肢後面のオイルトリートメントを実践できる。
準備学習 時間外学習	
評価方法	各回の授業態度、出欠、忘れ物、修了試験を総合評価
受講生への メッセージ	リラクゼーション業界に携わって10年以上の経験を、成功事例や症例別、失敗事例まで、皆様には惜しみなく、実技の授業の中でお話ししていきます。この授業で学ぶ技術はあくまでもリラクゼーション目的ですが、鍼灸師としての見方も同時にお伝えしていきます。タオルワークや接客技術に関しては、これからの時代、鍼灸院でも、接客スキルはかなり問われますし、サービスの面でも必須になってきます。鍼灸師としても、ワンランク上の接客スキルも身につけることができる授業にしたいと思っています。お一人お一人技術に差は必ずありますが、授業の中で、お一人お一人みていきますので、安心して授業を受けていただけます。皆様にお会いできることを楽しみにしております
【使用教科書・教材・参考書】	
教科書：アロマ環境協会アロマセラピストの技術に準じる 副読本：アロマテラピーコンプリートブック下巻	

2025年度 授業概要

学 科：鍼灸科

科目名 (英)	アロマ Aromatherapy	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	倉本 寿子
	コース	美容スポーツコース 美容専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	実務経験
						開講区分	2セメ
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) AEAJ認定アロマセラピーインストラクターの講師が美容業界や学校の現場で培ってきた経験を活かし、日常生活や仕事で活用できる知識と技術を習得する。実技を多く取り入れ、アロマセラピーを身近に感じていただく。</p> <p>※実務者経験：現在もフリーランスにて、アロマセラピーのセラピスト・インストラクターとして従事している。</p>							
<p>【到達目標】 ストレス社会と言われる現代、植物の自然な香りを使って心身を癒す方法を学ぶ。香りの特徴やメカニズム、安全で正しい方法を理解し、AEAJアロマセラピー検定1級取得を目指す。</p>							

授業計画・内容	
1回目	AEAJアロマセラピー検定、アロマセラピーの定義と目的について説明できる。 / 香りのイメージ体験を通して理解を深める。 / 精油のプロフィール①②
2回目	精油の性質、注意事項や安全性、芳香浴法について説明できる。 / 芳香浴法を実践できる。 / 精油のプロフィール③④⑤
3回目	精油の作用、抽出法、沐浴法について説明できる。 / 精油のプロフィール⑥⑦⑧
4回目	吸入法、湿布法、その他の利用法について説明できる。 / 吸入法を実践できる。 / 精油のプロフィール⑨⑩⑪
5回目	アロマセラピーメカニズムについて説明できる。 / 精油のプロフィール⑫⑬⑭
6回目	アロマで役立つ素材、濃度計算法について説明できる。 / 精油のプロフィール⑮⑯⑰
7回目	オリジナルのアロマスプレーを作製することができる。 / 精油のプロフィール4種類
8回目	美容と健康にアロマを活用する方法、関連法規について説明できる。 / 精油のプロフィール3種類
9回目	アロマの歴史について説明できる。 / 精油のプロフィール3種類
10回目	総まとめ / 精油のプロフィール
11回目	アロマの活用法について理解を深め実践できる。
12回目	オリジナルのトリートメント(マッサージ)オイルを作製することができる。 / ①ハンドトリートメントの基本が実践できる。
13回目	②ハンドトリートメントの基本が実践できる。
14回目	クレイの性質や特徴について説明できる。 / クレイパック体験を通して実践できる。
15回目	定期試験
準備学習 時間外学習	
評価方法	定期試験 100%
受講生への メッセージ	自分自身を癒し、大切な人も癒せるアロマセラピーの基礎知識を楽しく学びましょう。
【使用教科書・教材・参考書】アロマセラピー検定公式テキスト、アロマセラピー検定公式問題集	

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	経絡経穴概論①	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	榎島 美沙紀
	Outline of the Meridian and Acupuncture Points					実務経験	○
コース	午前集中・美容・スポーツ	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	開講区分	1セメ
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) 整骨院にて東洋医学に基づく鍼灸治療に従事した教員が、鍼灸師として働いていくために必要不可欠な経絡経穴概論について、督脈から手の陽明大腸経までの経穴を記述することが出来る、また全経絡の暗唱をすることが出来るよう教授する。</p> <p>※実務者経験:「にしお鍼灸院」(2018年5月～2020年3月)・「good鍼灸院」(2018年5月～2020年2月)にて、東洋医学的理論に基づく鍼灸治療を行っていた。</p>							
<p>【到達目標】 十二経絡の概要、流注、接続部、経穴の概要を学ぶ。また督脈から手の陽明大腸経までの経穴を記述することが出来るようになる。 <具体的な目標> 目標①督脈から手の陽明大腸経まで記述することが出来る。 目標②督脈から大腸経までの要穴表全てを暗記出来る。 目標④正経十二経絡の流注接続部を記述することが出来る。</p>							

授業計画・内容	
1回目	経絡・経穴とは何か説明できる
2回目	経穴の概要、十二経絡の種類について説明ができる
3回目	十二経脈の接続部について説明ができる
4回目	様々な種類の経穴・体表指標について説明ができる
5回目	経絡経穴の総論部分について確認テストを行う
6回目	督脈の概要について説明することが出来る
7回目	督脈にある経穴を記述することが出来る
8回目	督脈を暗唱しながら場所を示すことが出来る
9回目	任脈にある経穴を記述することが出来る
10回目	任脈を暗唱しながら場所を示すことが出来る
11回目	手の太陰肺経の概要を理解することが出来る
12回目	手の陽明大腸経を記述することが出来る
13回目	手の太陰肺経を暗唱しながら場所を示すことが出来る
14回目	督脈から手の太陰肺経までの経穴を全て記述することが出来る
15回目	期末試験
準備学習 時間外学習	目標①前提:この授業を受けるには、漢字の読み書きが不可欠です。さらに解剖学(骨・筋肉)について予習が必要です。 目標②全経絡の暗唱の為、自習が必要です。
評価方法	期末テストにて知識の到達評価を行う。 ●期末テスト(100%)
受講生への メッセージ	魅力:経絡経穴概論は鍼灸師しか勉強する事が出来ない科目です。このような疾患にはこの経穴を使うとよいなどの知識を得ることもできます。将来患者さんになぜこの経穴を使うのか説明することが出来るようになる為、身に着けるべき知識のひとつです。 授業計画:暗唱が大変だと思いますので、早めから対策を行って下さい。
【使用教科書・教材・参考書】	
教科書:新版 経絡経穴概論 第2版:日本理療科教員連盟 公益社団法人 東洋療法学校協会編 医道の日本社出版 参考書:経穴インパクト:原田晃著 医道の日本社出版 針灸学(経穴篇) 日中共同編纂 東洋学術出版社	

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	経絡経穴概論②	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	福島 美紗紀
	Outline of the Meridian and Acupuncture Points	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	実務経験	○
コース	午前集中・美容・スポーツ			開講区分	2セメ		
				曜日・時限			

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
 経絡経穴概論は鍼灸師として働いていくために必要不可欠な教科と言える。
 この経絡経穴概論②の授業では、足の陽明胃経から手太陽小腸経までの経穴を記述することが出来、また全経絡の暗唱をすることが出来るようになる。
 ※実務者経験:「にしお鍼灸院」(2018年5月～2020年3月)・「good鍼灸院」(2018年5月～2020年2月)にて、東洋医学的理論に基づく鍼灸治療を行っていた。

【到達目標】
 十二経絡の概要、流注、接続部、経穴の概要を学び、すべての五腧穴・五輸穴を暗記を行う。また足の陽明胃経から手太陽小腸経までの経穴を記述することが出来、全経絡を10分で暗唱することが出来るようになる。
 <具体的な目標>
 目標①足の陽明胃経から手太陽小腸経まで記述することが出来る。
 目標②足の陽明胃経から手太陽小腸経まで流注を理解する。

授業計画・内容	
1回目	手の陽明大腸経の概要を理解することが出来る
2回目	手の陽明大腸経を記述することが出来る
3回目	手の陽明大腸経を暗唱しながら場所を示すことが出来る
4回目	足の陽明胃経の概要を理解することが出来る
5回目	足の陽明胃経を記述することが出来る
6回目	足の陽明胃経を暗唱しながら場所を示すことが出来る
7回目	足の陽明胃経を暗唱しながら場所を示すことが出来る
8回目	足の太陰脾経の概要を理解することが出来る
9回目	足の太陰脾経を記述することが出来る
10回目	足の太陰脾経を暗唱しながら場所を示すことが出来る
11回目	手の少陰心経の概要を理解することが出来る
12回目	手の少陰心経を記述することが出来る
13回目	手の少陰心経を暗唱しながら場所を示すことが出来る
14回目	手の陽明大腸経から手の少陰心経の要穴を記述することが出来る
15回目	期末試験
準備学習 時間外学習	目標①前提:この授業を受けるには、漢字の読み書きが不可欠です。さらに解剖学(骨・筋肉)について予習が必要です。 目標②全経絡の暗唱の為、自習が必要です。
評価方法	期末テスト・小テストにて知識の到達評価を行う。 ●期末テスト(80%) ●小テスト(20%)
受講生への メッセージ	魅力:経絡経穴概論は鍼灸師しか勉強する事が出来ない科目です。このような疾患にはこの経穴を使うとよいなどの知識を得ることもできます。将来患者さんになぜこの経穴を使うのか説明することが出来るようになる為、身に着けるべき知識のひとつです。 授業計画:見慣れない文字が多く大変だと思いますので早めに試験勉強等取り掛かってください。
【使用教科書・教材・参考書】	
科書:新版 経絡経穴概論 第2版:日本理療科教員連盟 公益社団法人 東洋療法学校協会編 医道の日本社出版 参考書:経穴インパクト:原田晃著 医道の日本社出版 針灸学(経穴篇) 日中共同編集 東洋学術出版社	

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	経絡経穴概論③ <small>Outline of the Meridian and Acupuncture Points</small>	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	福島 美沙紀
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	実務経験	○
コース	午前集中・美容・スポーツ					開講区分	3セメ
						曜日・時限	

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
 経絡経穴概論は鍼灸師として働いていくために必要不可欠な教科と言える。
 この経絡経穴概論③の授業では、足の少陰腎経から足の厥陰肝経までの経穴を記することが出来、また全経絡の暗唱をすることが出来るようになる。
 ※実務者経験:「にしお鍼灸院」(2018年5月～2020年3月)・「Good鍼灸院」(2018年5月～2020年2月)にて、東洋医学的理論に基づく鍼灸治療を行っていた。

【到達目標】
 十二経絡の概要、流注、接続部、経穴の概要を学び、すべての五要穴・五俞穴を暗記を行う。また足の少陰腎経から足の厥陰肝経までの経穴を記することが出来、全経絡を10分で暗唱することが出来るようになる。
 <具体的な目標>
 目標①足の少陰腎経から手の少陰三焦経まで記することが出来る。
 目標②要穴表全てを暗記出来る。

授業計画・内容

1回目	手の太陽小腸経の概要を理解することが出来る
2回目	手の太陽小腸経を記することが出来る
3回目	手の太陽小腸経を暗唱しながら場所を示すことが出来る
4回目	足の太陽膀胱経の概要を理解することが出来る
5回目	足の太陽膀胱経を記することが出来る
6回目	足の太陽膀胱経を暗唱しながら場所を示すことが出来る
7回目	足の太陽膀胱経を暗唱しながら場所を示すことが出来る
8回目	足の少陰腎経を記することが出来る
9回目	足の少陰腎経の要穴を取穴することが出来る
10回目	足の少陰腎経を暗唱しながら場所を示すことが出来る
11回目	手の厥陰心包経の概要を説明でき記することが出来る
12回目	手少陰三焦経の概要を説明することが出来る
13回目	手の少陰三焦経を記することが出来る
14回目	手少陰三焦経の要穴を取穴出来、暗唱しながら場所を示すことが出来る
15回目	期末試験

**準備学習
時間外学習**
 目標①前提:この授業を受けるには、漢字の読み書きが不可欠です。さらに解剖学(骨・筋肉)について予習が必要です。
 目標②要穴表全てを暗記する為に、毎回の宿題を提出する事が必要です。
 目標③全経絡の暗唱の為、自習が必要です。

評価方法
 期末テスト・小テストにて知識の到達評価を行う。
 ●期末テスト(80%)
 ●小テスト(20%)

**受講生への
メッセージ**
 魅力:経絡経穴概論は鍼灸師しか勉強する事が出来ない科目です。このような疾患にはこの経穴を使うとよいなどの知識を得ることもできます。将来患者さんになぜこの経穴を使うのか説明することが出来るようになる為、身に着けるべき知識のひとつです。
 授業計画:見慣れない文字が多く大変だと思いますので早めに試験勉強等取り掛かってください。

【使用教科書・教材・参考書】
 科書:新版 経絡経穴概論 第2版:日本理療科教員連盟 公益社団法人 東洋療法学校協会編 医道の日本社出版
 参考書:経穴インパクト 原田栄著 医道の日本社出版
 針灸学(経穴編) 日中共同編集 東洋学術出版社

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	総合領域①	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	天本 保典
	Synthesis Realms	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	実務経験	○
コース	午前集中・美容・スポーツ					開講区分	1セメ
						曜日・時限	月曜1・3限

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

資格取得に向けて、各科目の学習によって得られた知識をさらに総合し、応用力を養う授業とする。

資格取得者として活動する際にモラルやマナーを備えたホスピタリティを発揮するための基本的要素もあわせて教示する。

実務者経験: 2003年より現在に至るまで訪問を中心とした鍼灸臨床経験を持っている。(西洋医学に基づく鍼灸治療)

【到達目標】

自己を見つめ直し、生活を改善することにより、学習する環境を整えるとともに社会との関わり方を学んでいく。グループ学習などを通じて資格取得者として活動する際にモラルやマナーについて知見を深める。最終到達目標として『コミュニケーション・スキル・アップ検定』の取得を目指す。

〈具体的な目標〉

目標①自己を見つめ直し、生活環境を整える。

目標②社会人としてのモラルやマナーを身に付ける

目標③コミュニケーション・スキル・アップ検定を取得する。

授業計画・内容

1回目	目標①オリエンテーション(自己紹介)
2回目	目標①生活習慣の見直し(安全講習会)
3回目	目標①個人目標の作成
4回目	目標②社会人としてのモラル・マナー
5回目	目標②社会人としてのモラル・マナー
6回目	目標②社会人としてのモラル・マナー
7回目	目標②社会人としてのモラル・マナー
8回目	目標②社会人としてのモラル・マナー
9回目	目標②社会人としてのモラル・マナー
10回目	目標③患者目線の臨床現場(コミュニケーション)
11回目	目標③患者目線の臨床現場(コミュニケーション)
12回目	目標③患者目線の臨床現場(ホスピタリティ)
13回目	目標③患者目線の臨床現場(ホスピタリティ)
14回目	期末テスト
15回目	テスト解説・見直し
準備学習 時間外学習	特に必要なし
評価方法	筆記試験(100点)
受講生への メッセージ	他の授業と違い、週によって科目が変わるので戸惑うかもしれませんが、気楽に受けてください。一緒に頑張ってください。

【使用教科書・教材・参考書】

コミュニケーションスキルアップ検定(滋産教育科学研究所監修)

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	総合領域② Synthesis Realms	必修 選択	必修	年次	1	担当教員 実務経験	笠原 拓実 ○
コース	午前集中・美容スポーツ	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	開講区分 曜日・時限	3セメ
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) 医療の基礎である解剖学のうち、運動器である骨、筋、関節、またそれに付随する局所解剖について学習を行う。骨模型や筋模型などを用いた講義にて授業を進めていく。授業においては骨学を復習を行う。そして、筋名、起始停止、支配神経、各筋の作用を学びつつ、関節の構造、関節分類、関節運動など運動学的要素も学習を進める。この授業終了後には医療系においての基礎となる骨筋の専門用語を使って身体各所の説明ができたり、身体運動についての表現ができるようになる。</p> <p>実務経験:2020年から2024年まで鍼灸接骨院にて勤務。現在に至る。(現代鍼灸医学に基づく鍼灸治療)</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>①医学用語を使用し、体表部位名・全身の骨格の構成について説明できる。 ②主要な筋内を触診を行うことができる。 ③国家試験過去問題を理解することができる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	筋の総論 筋の種類、骨格筋の概要を説明できる。
2回目	体幹の筋(浅胸筋)について説明できる。
3回目	体幹の筋(深胸筋、横隔膜)について説明できる。
4回目	体幹の筋(腹筋)について説明できる。
5回目	腹部の局所解剖(尿管と通過するもの)について説明できる。
6回目	上肢帯の筋について説明できる。
7回目	ローテーターカフについて説明できる。
8回目	上腕屈筋について説明できる。
9回目	上腕伸筋について説明できる。
10回目	前腕屈筋(橈側手根屈筋、尺側手根屈筋、長掌筋、円回内筋、方形回内筋)について説明できる。
11回目	前腕屈筋(深指屈筋、浅指屈筋、長母指屈筋)について説明できる。
12回目	前腕伸筋(腕橈骨筋、回外筋、長・短橈側手根伸筋、尺側手根伸筋)について説明できる。
13回目	前腕の筋(長・短母指伸筋、示指伸筋、小指伸筋)について説明できる。
14回目	前腕の局所解剖(手根管、ギヨン管)について説明できる。
15回目	期末テスト
準備学習 時間外学習	毎回の授業のはじめには動画学習したことの確認テストを行って特に重要な事項の確認を行っていきます。しっかり授業後の復習をお願いします。
評価方法	●小テスト(10%) ●定期テスト(90%) 割合で成績評価を行う。
受講生への メッセージ	はり・きゅうを行うためには非常に重要な教科になります。覚えるべき用語が非常に多いので授業終了後は必ず復習を行って下さい。結診のグループワークを行う際は積極的な参加をお願いします。
【使用教科書・教材・参考書】	
解剖学(医歯薬出版株式会社 社団法人 東洋療法学校協会編)	

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	一般教養 1	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	山田 大介
	General Education 1					実務経験	○
コース	午前集中・美容・スポーツ	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	開講区分	1セメ
<p>【授業の学習内容】</p> <p>一般教養では、スポーツ生理学の基礎知識について学ぶ。体表観察や関節モビライゼーションなどを通じて、運動に関する生理機能についての知識を獲得することが狙いである。</p> <p>授業は、参考図書より引用した資料などを解説することで学習していく。</p> <p>※実務者経験：2005年よりフリーランスにてプロ野球選手をはじめ、多種アスリート選手のパーソナルトレーナーとして現在も活動中である。</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>身体の基本的機能に関する知識を学び、臨床に生かせる実践方法について授業を行う。</p> <p>(具体的な目標)</p> <p>目標①基本的な筋及び関節の名称、機能を理解する 目標②ストレッチによる効果と実践方法を理解する 目標③エクササイズによる効果と実践方法を理解する</p>							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション・授業に関する説明
2回目	骨盤帯の解剖について理解し触診を行う
3回目	下肢の筋肉を理解し下肢のストレッチを実践する(大臀筋、中臀筋、大腿二頭筋、半腱様筋、半膜様筋、股関節内転筋群)
4回目	下肢の筋肉を理解し下肢のストレッチを実践する(腸腰筋、大腿四頭筋、腓腹筋、ヒラメ筋、深層外旋六筋、大腿筋膜張筋)
5回目	肩甲骨の解剖について理解し触診を行う
6回目	上肢の筋肉を理解し上肢のストレッチを実践する(大胸筋上部/中部/下部、三角筋前部/中部/後部、広背筋、僧帽筋上部/中部/下部)
7回目	上肢の筋肉を理解し上肢のストレッチを実践する(上腕二頭筋、上腕三頭筋、棘上筋、棘下筋、小円筋、肩甲下筋)
8回目	解剖学の確認テスト及びストレッチの復習により理解を深める(筆記テスト)
9回目	脊柱の解剖について理解し触診を行う
10回目	体幹の筋肉を理解し体幹のストレッチを実践する(腹直筋、内外腹斜筋、脊柱起立筋、腰方形筋)
11回目	体幹のエクササイズを実践する(PRI/呼吸法)
12回目	体幹のエクササイズを実践する(ピラティス/呼吸法)
13回目	下肢のPNFストレッチングを実施する
14回目	上肢のPNFストレッチングを実践する
15回目	実技テスト(ストレッチ)
準備学習 時間外学習	この授業を受けるには解剖学の理解が不可欠です。不明な点や覚え違いをしていた点などの確認のため、各自解剖学のテキストを読むことが必要となります。説明することを暗記しても忘れてしまいます。理解して納得できることが求められます。
評価方法	筆記テスト50%/実技テスト50%
受講生への メッセージ	受講において、疑問点を持つ姿勢を忘れないでください。なお、わからないことは恥ではありません。授業の中でクラスメイトと話す時間もありません。積極的に取り組んでください。広範囲を網羅するため欠席は抜け落ちてしまう臓器が出てきてしまいます。体調管理に気を付けて欠席の内容にしてください。
【使用教科書・教材・参考書】	
随時資料配布	

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	一般教養 2	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	山田 大介
	General Education 2					実務経験	○
コース	午前集中・美容・スポーツ	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	開講区分	2セメ
						曜日・時限	

【授業の学習内容】

一般教養では、スポーツ生理学の基礎知識について学ぶ。体表観察や関節モビライゼーションなどを通じて、運動に関する生理機能についての知識を獲得することが狙いである。

授業は、参考図書より引用した資料などを解説することで学習していく。

※実務者経歴：2005年よりフリーランスにてプロ野球選手をはじめ、多種アスリート選手のパーソナルトレーナーとして現在も活動中である。

【到達目標】

身体の基本的機能に関する知識を学び、臨床に生かせる実践方法について授業を行う。

〈具体的な目標〉

目標①スポーツマッサージによる効果と実践方法を理解する

目標②ストレッチやスポーツマッサージ以外の実践的なアプローチ法を理解する

目標③動作改善を目的としたエクササイズの実践方法を理解する

授業計画・内容

1回目	オリエンテーション・授業に関する説明・1セメの復習テスト
2回目	スポーツマッサージの方法、注意点、手技について理解する
3回目	足部、下腿のスポーツマッサージを実践する
4回目	大腿部、臀部のスポーツマッサージを実践する
5回目	腰部・背部のスポーツマッサージを実践する
6回目	頭部・肩部・腕部のスポーツマッサージを実践する
7回目	スポーツマッサージの確認テストにより理解を深める(実技テスト)
8回目	股関節のモビライゼーションを実施する
9回目	肩関節のモビライゼーションを実施する
10回目	徒手や器具を用いた下肢の筋膜リリースを実践する
11回目	徒手や器具を用いた上肢の筋膜リリースを実践する
12回目	股関節の動きの改善を目的としたコレクティブエクササイズを実践する
13回目	肩関節の動きの改善を目的としたコレクティブエクササイズを実践する
14回目	脊柱及び全身の動きの改善を目的としたコレクティブエクササイズを実践する
15回目	筆記テスト
準備学習 時間外学習	この授業を受けるには解剖学の理解が不可欠です。不明な点や覚え違いをしていた点などの確認のため、各自解剖学のテキストを読むことが必要となります。 説明することを暗記しても忘れてしまいます。理解して納得できることが求められます。
評価方法	筆記テスト50%/実技テスト50%
受講生への メッセージ	受講において、疑問点を持つ姿勢を忘れないでください。なお、わからないことは恥ではありません。授業の中でクラスメイトと話す時間もあります、積極的に取り組んでください。 広範囲を網羅するため欠席は抜け落ちてしまう箇所が出てきてしまいます。体調管理に気を付けて欠席の内容にしてください。

【使用教科書・教材・参考書】

随時資料配布

2025年度 授業概要

学 科：鍼灸科

科目名 (英)	一般教養3 General Education 3	必修 選択	必修	年次	1	担当教員 実務経験	吉田 光志 ○
コース	午前集中・美容スポーツ	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分 曜日・時限	1セメ
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) AI化・機械化などの影響で運動量が減少していく現代において、生涯スポーツの習慣を身につけることにより、心身ともに健康なからだづくりができるようにする。またレクリエーション運動を実践することで気軽にできる運動やコミュニケーションの手段として活用できるようにする。</p> <p>※実務者経験:高校体育教員免許所持。福岡市レクリエーション協会などの派遣にてレクリエーション活動を行う。保健体育教員。レスリング・相撲などのスポーツ教室の開催。</p>							
<p>【到達目標】 生涯スポーツとレクリエーション ＜具体的な目標＞ ①レクリエーション運動を体験し、集団の中での役割分担やコミュニケーションがとれる ②レクリエーション支援の理論を学び、プログラムが作成できる ③レクリエーションプログラムが実践できる</p>							

授業計画・内容	
1回目	「ガイダンス」生涯スポーツとレクリエーションの必要性について説明できる
2回目	「アイスブレイキング(実習)」レクリエーション運動を使ったアイスブレイキングでコミュニケーションが取れる
3回目	「イニシアティブゲーム①(実習)」イニシアティブゲームで集団での役割分担を観察できる
4回目	「イニシアティブゲーム②(実習)」イニシアティブゲームにおいて積極的にコミュニケーションが取れる
5回目	「イニシアティブゲームの理論①(講義)」イニシアティブゲームの振り返りを行い役割分担を確認し合うことができる
6回目	「レクリエーション運動の実践①(実習)」個人でできる運動を実習を行う
7回目	「レクリエーション運動の実践②(実習)」集団で行う運動を行う
8回目	「レクリエーション運動の実践③(実習)」集団で行う運動を行う
9回目	「レクリエーション運動の理論(講義)」レクリエーション支援の理論について説明できる
10回目	「レクリエーションプログラムの作成①(講義)」グループでレクリエーションプログラムを作成できる
11回目	「レクリエーションプログラムの作成②(講義)」グループでレクリエーションプログラムを作成できる
12回目	「レクリエーションプログラムの実践①(実習)」グループで作成したレクリエーションプログラムを発表・実践できる
13回目	「レクリエーションプログラムの実践②(実習)」グループで作成したレクリエーションプログラムを発表・実践できる
14回目	「レクリエーションプログラムの実践③(実習)」グループで作成したレクリエーションプログラムを発表・実践できる
15回目	「レクリエーションプログラムの実践と支援(講義)」グループで作成したレクリエーションプログラムを振り返り改善できる
準備学習 時間外学習	体調管理を行う レクリエーションプログラムが作成の話合いや実践の準備作業をグループで行う
評価方法	実習中の動きや振り返りシートで理解度を判定する グループでのレクリエーションプログラム発表において相互評価を行う
受講生への メッセージ	レクリエーションには「つくりなおよす」という訳があり、普段の生活の肉体的・精神的疲労を回復するために休養を取ったり娯楽を行うことという意味があります。普段行わない運動でリフレッシュできるようにしていきます。
【使用教科書・教材・参考書】	

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	解剖生理学(総論) Anatomical Physiology	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	天本 保典
コース	午前集中・美容スポーツ	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	実務経験	○
						開講区分	1セメ
						曜日・時間	

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
 鍼灸治療は全身に散在している経穴に刺鍼または施灸していく。取穴の際のランドマークとなるのが解剖学的知識であり、治効理論として必要なのが生理学的知識である。また、刺鍼や施灸の際に危険を伴う部位もあり、リスクマネージメントの観点からも必要最小限で知っておかなければならない知識といえる。今後、勉強していかなければならない「臨床医学総論」・「臨床医学各論」といった臨床系科目の基礎理論となる部分でもあり、資格取得までを体系的に考えた際には最も重要な教科ともいえる。本教科では人体の基本的な構造や働きについて理解していくことを目的とする。
 ・総論(主に細胞・組織の構造や働き)

実務者経験: 2003年より現在に至るまで訪問を中心にした鍼灸臨床経験を持っている。(西洋医学に基づく鍼灸治療)

【到達目標】

- ・細胞・組織の構造と働きについての基礎知識を修得する。
- <具体的な目標>
 目標① 人体の構成について説明できる。
 目標② 生理学の基礎について説明できる。

授業計画・内容

1回目	人体の構成(細胞) : (目標①) 細胞の種類について説明できる。
2回目	人体の構成(組織①) : (目標①) 上皮組織・結合組織の種類について説明できる。
3回目	人体の構成(組織②) : (目標①) 筋組織・神経組織の種類について説明できる。
4回目	人体の構成(体表構造①) : (目標①) 皮膚の構造について説明できる。
5回目	人体の構成(体表構造②) : (目標①) 皮膚の構造について説明できる。
6回目	人体の構成(人体の区分と方向) : (目標①) 皮膚の構造について説明できる。
7回目	生理学の基礎(生理機能の特徴) : (目標②) 基本的生理機能について説明できる。
8回目	生理学の基礎(細胞の構造と機能①) : (目標②) 細胞の構造・機能について説明できる。
9回目	生理学の基礎(細胞の構造と機能②) : (目標②) 細胞の構造・機能について説明できる。
10回目	生理学の基礎(物質代謝①) : (目標②) 物質代謝について説明できる。
11回目	生理学の基礎(物質代謝②) : (目標②) 物質代謝について説明できる。
12回目	生理学の基礎(体液の組成と働き) : (目標②) 体液の組成と働きについて説明できる。
13回目	生理学の基礎(物質移動) : (目標②) 物質移動について説明できる。
14回目	期末試験
15回目	期末試験の解答と解説

準備学習
時間外学習
(目標①) 東洋療法学校協会「解剖学」テキストを読んで、あらかじめ予習をしてください。
 (目標②) 東洋療法学校協会「生理学」テキストを読んで、あらかじめ予習をしてください。

評価方法
定期試験にて、知識の到達評価を行います。(80%)
 授業開始時に実施する小テストの結果(20%)

受講生への
メッセージ
人体と症状を知るには、解剖・生理の知識が必要不可欠となります。覚えることは多いですが、一緒に頑張りましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書: 河野邦雄 伊藤 隆造 坂本 裕和 前島 敏 樋口 桂 著「解剖学 第2版」 医歯薬出版株式会社
 教科書: 内田 さえ 原田 玲子 著「生理学 第3版」 医歯薬出版株式会社

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	解剖生理学(消化器)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	藤崎 舞椰
	Anatomical Physiology	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	実務経験	○
コース	午前集中・美容スポーツ					開講区分	1セメ
						曜日・時限	

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
 消化器系は消化管と消化腺よりなり、食物中の栄養素を吸収可能な形に分解し、体内に取り込む働きを担う。消化器系の各器官における消化の特徴や吸収の仕組みについて学ぶ。基礎理論として、部位名や生理機能に関する用語を学んで理解し、臨床医学各論における内科疾患へと繋げていく。

※実務者経験: 2012年～2017年までixas鍼灸マッサージ整骨院に勤務、2018年～2019年までゼロスポ鍼灸整骨院に勤務。

【到達目標】
 消化器系の構造を理解した上で、消化作用と吸収作用についての知識を深める。外分泌と内分泌の違い、機械的消化作用と化学的消化作用の違い、消化酵素の基質特異性や最適温度・最適pHなど消化器系の生理機能について説明できるようになる。

〈具体的な目標〉
 (目標①)消化器系の構造について説明することができる。
 (目標②)消化作用について説明することができる。
 (目標③)吸収作用について説明することができる。

授業計画・内容

1回目	(目標①)消化管の基本構造・口腔の構造について学び理解することができる。
2回目	(目標①)咽頭・食道の構造について学び理解することができる。
3回目	(目標①)胃の構造について学び理解することができる。
4回目	(目標①)小腸の構造について学び理解することができる。
5回目	(目標①)大腸の構造について学び理解することができる。
6回目	(目標①)肝臓・胆嚢の構造について学び理解することができる。
7回目	(目標①)膵臓・腹膜の構造について学び理解することができる。
8回目	(目標②)消化と吸収について学び理解することができる。
9回目	(目標②)消化管の運動について学び理解することができる。
10回目	(目標②)消化管の運動について学び理解することができる。
11回目	(目標②)消化液の働きやその調節について学び理解することができる。
12回目	(目標②)消化液の働きやその調節について学び理解することができる。
13回目	(目標③)吸収・肝臓・胆汁の調節について学び理解することができる。
14回目	期末試験
15回目	試験解説
準備学習 時間外学習	(目標①)東洋療法学校協会「解剖学」テキストを読んで、あらかじめ予習をしてください。 (目標②)東洋療法学校協会「生理学」テキストを読んで、あらかじめ予習をしてください。
評価方法	前回講義の内容を確認するために提出物を実施します。 ●提出物(20%) ●定期テスト(80%) 割合で成績評価を行う。
受講生への メッセージ	人体と症状を知るには、解剖・生理の知識が必要不可欠となります。覚えることは多いですが、一緒に頑張りましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書: 東洋療法学校協会「解剖学」「生理学」

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	解剖生理学(骨筋①)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	笠原 拓実
	Anatomical Physiology					実務経験	○
コース	午前集中・美容スポーツ	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	開講区分	1セメ
						曜日・時限	

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

医療の基礎である解剖学のうち、運動器である骨、筋、関節、またそれに付随する局所解剖について学習していく。骨模型や人体模型を用いた講義にて授業を進めていく。まず骨格、骨名、骨の部位名から始まり、関節の構造、関節分類、関節運動について学び、最後に骨格筋について筋名、起始停止、支配神経、各筋の作用について学習していく。人体の各部位ごとに局所解剖や体表解剖についても講義を行っていく。この授業終了後には医療系においての基礎となる骨筋の専門用語を使って身体各所の説明ができたり、身体運動についての表現ができるようになる。

※実務者経験:2020年から2024年まで鍼灸接骨院にて勤務。現在に至る。(現代鍼灸医学に基づく鍼灸治療)

【到達目標】

医学用語を使用し、体表部位名・全身の骨格の構成について説明できる。触診・刺針の際の基準となる身体のランドマークを正確に取ることができる。体表や体内に刺鍼する場合の骨格筋の位置を正確に把握することができる。国家試験に対応できる全身の骨格、筋の知識を獲得する。

授業計画・内容

1回目	ガイダンス 骨の総論について学習し、骨の役割について説明できる。
2回目	関節の分類と関節運動について説明できる。
3回目	脊柱の概要について説明できる。
4回目	脊柱の分類、頸椎、胸椎について説明できる。
5回目	腰椎、仙椎について説明できる。
6回目	胸郭の概要について説明できる。
7回目	胸骨、鎖骨について説明できる。
8回目	上肢の骨格の概要について説明できる。
9回目	上肢帯の骨(鎖骨、肩甲骨)について説明できる。
10回目	上腕の骨、肩関節について説明できる。
11回目	前腕の骨(橈骨、尺骨)について説明できる。
12回目	肘関節について説明できる。
13回目	手根骨、指骨について説明できる。
14回目	手関節について説明できる。
15回目	期末テスト

**準備学習
時間外学習** 毎回の授業のはじめに前回学習したことの確認テストを行います。また、医学だけでは理解しにくい部分に関して、口頭質問を行います。また学習内容を一緒に覚えて確認していく時間にもなります。授業時間外でも行いますので時間の確保をお願いします。

評価方法 ●小テスト(20%)
●定期テスト(80%)
割合で成績評価を行う。

**受講生への
メッセージ** 医療の礎となる科目になります。覚えなければならぬことは非常に多いと思います。講義を聴いて理解する、模型を使って確認する、学習したことを整理するなどを習慣的にやれるようになると学習内容が知識として定着していきます。一緒にがんばっていきましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

2025年度 授業概要

学 科：鍼灸科

科目名 (英)	解剖生理学(骨筋②)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	笠原 拓実
	Anatomical Physiology	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30	実務経験	○
コース	午前集中・美容スポーツ					開講区分	2セメ
						曜日・時限	

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
 医療の基礎である解剖学のうち、運動器である骨、筋、関節、またそれに付随する局所解剖について学習していく。骨模型や人体模型を用いた講義にて授業を進めていく。まず骨格、骨名、骨の部位名から始まり、関節の構造、関節分類、関節運動について学び、最後に骨格筋について筋名、起始停止、支配神経、各筋の作用について学習していく。人体の各部位ごとに局所解剖や体表解剖についても講義を行っていく。この授業終了後は医療系においての基礎となる骨筋の専門用語を使って身体各所の説明ができたり、身体運動についての表現することができるようになる。

※実務者経験：2020年から2024年まで鍼灸接骨院にて勤務。現在に至る。(現代鍼灸医学に基づく鍼灸治療)

【到達目標】

医学用語を使用し、体表部位名・全身の骨格の構成について説明できる。触診・刺針の際の基準となる身体のランドマークを正確に取ることができる。体表や体内に刺鍼する場合の骨格筋の位置を正確に把握することができる。国家試験に対応できる全身の骨格、筋の知識を獲得する。

授業計画・内容

1回目	下肢の骨格の概要、下肢部の骨について説明できる。
2回目	骨盤について説明できる。
3回目	股関節について説明できる。
4回目	大腿骨について説明できる。
5回目	膝関節について説明できる。
6回目	脛骨、腓骨について説明できる。
7回目	足関節について説明できる。
8回目	足根骨について説明できる。
9回目	足部の関節について説明できる。
10回目	頭蓋骨の概要について説明できる。
11回目	脳頭蓋を構成する骨(前頭骨・後頭骨・側頭骨・頭頂骨)、泉門、縫合について説明できる。
12回目	脳頭蓋を構成する(篩骨・蝶形骨)について説明できる。
13回目	顔面頭蓋を構成する骨について説明できる。
14回目	内頭蓋底にみられる孔と通過するものについて説明できる。
15回目	期末テスト
準備学習 時間外学習	毎回の授業のはじめに前回学習したことの確認テストを行います。また、座学だけでは理解しにくい部分に関して、口頭試問を行います。また学習内容を一緒に覚えて確認していく時間にもなります。授業時間外でも行いますので時間の確保をお願いします。
評価方法	●小テスト(20%) ●定期テスト(80%) 割合で成績評価を行う。
受講生への メッセージ	医療の場となる科目になります。覚えなければならないことは非常に多いと思います。講義を聴いて理解する、模型を使って確認する、学習したことを整理するなどを習慣的にやれるようになると学習内容が知識として定着していきます。一緒にがんばっていきましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

解剖学(医南堂出版株式会社 社団法人 東洋療法学校協会編)

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	解剖生理学(循環) Anatomical Physiology	必修 選択	必修	年次	1	担当教員 実務経験	藤崎舞郁 ○
コース	午前集中・美容スポーツ	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	開講区分 曜日・時間	2セメ

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
 鍼灸治療では、経穴部、疼痛部・関節周囲・神経走行部など、ほぼ全身が施術対象となる。そのため、局所施術はもちろんのこと、経穴の取穴においても解剖学的知識が必要不可欠である。また、刺鍼や施灸の際に危険を伴う部位もあるため、リスクマネジメントとして最低限必要な知識となる。一方、生理学的知識は治療理論として必要不可欠である。
 解剖生理学は、「臨床医学総論」「臨床医学各論」といった臨床系科目の基礎となるため、資格取得までを体系的に考えた際に最も重要な教科ともいえる。本教科では人体の基本的な構造や働きを理解することを目的とする。解剖・生理学の範囲の中から、循環器に焦点を絞って講義を行う。
 ・循環器系の構造と働き
 実務者経験: ※実務者経験: 2012年～2017年までIxa鍼灸マッサージ整骨院に勤務、2018年～2019年までゼロス球鍼灸整骨院に勤務。

【到達目標】
 ・循環器(主に心臓、血管の構造と働き)についての基礎知識を修得する。
 <具体的な目標>
 目標① 心臓の構造と働きについて説明できる。
 目標② 血管の種類、構造と働き、特に、動脈と静脈の名前と流れを説明できる。
 目標③ リンパ系(脾臓)の構造と働きについて説明できる。

授業計画・内容

1回目	循環系の総論 : (目標①) 心臓循環系とは何かを説明できる。
2回目	心臓の構造(心膜・壁・心房心室) : (目標①) 心臓の構造について説明できる。
3回目	心臓の構造(心臓の弁・血管) : (目標①) 心臓の構造について説明できる。
4回目	心臓の働き(刺激伝導系) : (目標①) 心臓の働きについて説明できる。
5回目	心臓の働き(心周期・心音) : (目標①) 心臓の働きについて説明できる。
6回目	心臓の働き(心拍・心電図) : (目標①) 心臓の働きについて説明できる。
7回目	血管の構造と働き(血管の構造・動脈系の体幹部) : (目標②) 血管の種類、構造と働き、動脈の名前と流れ(分枝)について説明できる。
8回目	血管の構造と働き(動脈系の体幹部) : (目標②) 動脈の名前と流れ(分枝)について説明できる。
9回目	血管の構造(動脈系の体幹部・上肢・下肢部) : (目標②) 動脈の名前と流れ(分枝)について説明できる。
10回目	血管の構造(脳循環・静脈系) : (目標②) 脳循環と静脈の名前と流れ(分枝)について説明できる。
11回目	血管の構造(静脈系) : (目標②) 静脈の名前と流れ(分枝)について説明できる。
12回目	血管の構造(胎児循環) : (目標②) 胎児循環の名前と流れについて説明できる。 / 血管の働き(血圧) : (目標②) 循環の働きについて説明できる。
13回目	血管の働き(循環調節) : (目標②) 循環の働きについて説明できる。 / リンパ系の構造と働き : (目標③) リンパ系(脾臓)の構造と働きについて説明できる。
14回目	期末試験
15回目	期末試験の解答と解説

準備学習
 時間外学習
 (目標①) 東洋療法学校協会「解剖学」テキストを読んで、あらかじめ予習をしてください。
 (目標②) 東洋療法学校協会「生理学」テキストを読んで、あらかじめ予習をしてください。
 (目標③) 東洋療法学校協会「解剖学」テキストを読んで、あらかじめ予習をしてください。
 授業前に教科書の循環器の範囲に目を通しておいてください。また、予習よりも復習に重きを置いてください。
 毎授業後に配布プリントを使って復習を行ってください。

評価方法
 定期試験にて、知識の到達評価を行います。(80%)
 授業開始時に実施する小テストの結果(20%)

受講生への
 メッセージ
 人体のしくみ、病態や症状を知るには、解剖・生理の知識が必要不可欠です。鍼灸師に限らず、全ての医療職種はみな解剖生理学を学びます。医学系の入口ともいえる科目です。覚えることがとても多く、専門用語も多く登場するため、慣れるまでは凄く大変に感じるかと思いますが、一緒に頑張ります。質問、大歓迎です。気軽に質問してください。

【使用教科書・教材・参考書】
 教科書: 河野 邦雄 伊藤 隆造 坂本 裕和 前島 敏 樋口 桂 著「解剖学 第2版」 医歯薬出版株式会社
 教科書: 内田 さえ 原田 玲子 著「生理学 第3版」 医歯薬出版株式会社

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	はりきゅう実技(はり基礎実技①) Acupuncture and Moxibustion Practical Skills	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	片山 雄二
	コース	午前集中	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 1	実務経験 開講区分 曜日・時限
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>2012年より整骨院にて鍼灸師として鍼灸治療に従事してきた教員が、鍼灸治療に必要な以下の項目を教授する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鍼と鍼管の操作を繰り返し練習し、基本的動作を身体に覚えさせる。 ・刺入深度や刺入角度を自在にコントロールできるようにする。目標を設定して練習していく。 ・自身の身体に取穴して刺鍼する事で、患者側の感覚と施術者側の感覚を身につけていく。 ・ペア同士で練習する。お互いに痛みのチェックをして、技術を研鑽していく。 <p>※実務者経験: 2018年から2021年まで要鍼灸院で勤務。2021年より開業(経絡治療)</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はりに関する技術や知識を習得し、はり施術を安全におこなえる能力と医療従事者としての態度を身につける。 ・はりの基礎実技、消毒法の実際、使用鍼・刺鍼角度・深度の使い分け、身体への刺鍼、触診技術の基礎を身につける。 							

授業計画・内容

1回目	実技室の使用ルール、道具類の名称を説明する事ができる。片手挿管を理解できる。
2回目	片手挿管を連続で12回行う。刺鍼までの流れを把握し実行できる。銀鍼を用いて片手挿管を行うことができる。
3回目	片手挿管を連続で12回行う。刺鍼までの流れを把握し実行できる。銀鍼を用いて片手挿管を行うことができる。
4回目	刺鍼練習器に銀鍼を用いて1cm刺入する。刺鍼練習器にステンレス鍼を用いて2cm直刺することができる。
5回目	刺鍼練習器に銀鍼を用いて1cm刺入する。刺鍼練習器にステンレス鍼を用いて2cm直刺することができる。
6回目	刺鍼のリスクを理解する。適切な手指・患部の消毒法を理解する。自分の足に対して適切な消毒法を実行し、ステンレス鍼で1cm直刺することができる。
7回目	自身の三陰交・足三里を取穴し、ステンレス鍼で1cm直刺する事ができる。切皮痛の有無や響き感覚を体験する。
8回目	自身の地機・上巨虚を取穴し、ステンレス鍼で1cm直刺する事ができる。切皮痛の有無や響き感覚を体験する。
9回目	自身の太溪・復溜を取穴し、ステンレス鍼で1cm直刺する事ができる。切皮痛の有無や響き感覚を体験する。
10回目	ペアへの刺鍼注意事項(ワゴンの使い方・患者対応・消毒のしかた・刺鍼時抜鍼時の注意点など)の確認
11回目	ペアの三陰交・足三里・陽陵泉を取穴し、ステンレス鍼で1cm直刺する事ができる。切皮痛の有無や響き感覚を体験する。
12回目	ペアの陽陵泉・陰陵泉・地機を取穴し、ステンレス鍼で1cm直刺する事ができる。切皮痛の有無や響き感覚を体験する。
13回目	ペアの上巨虚・太溪・復溜を取穴し、ステンレス鍼で1cm直刺する事ができる。切皮痛の有無や響き感覚を体験する。
14回目	消毒法・刺鍼までの流れの確認、片手挿管の確認テスト
15回目	定期実技テスト
準備学習 時間外学習	技術や知識を身につけるには授業時間だけでは足りません。必ず、自身で練習していきましょう。
評価方法	実技試験(100%)
受講生への メッセージ	患者さんに痛みなく安全に施術する為には繰り返しの練習が必要です。繰り返しの練習は、臨床家の手を作ります。一緒に手を作っていきましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 はりきゅう実技教科書、配布資料	

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	はりきゅう実技(はり基礎実技①)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	藤崎 舞那
	Acupuncture and Moxibustion Practical Skills	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 1	実務経験	○
コース	美容スポーツ					開講区分	1セメ
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>2012年より整骨院にて鍼灸師として鍼灸治療に従事してきた教員が、鍼灸治療に必要な以下の項目を教授する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鍼と鍼管の操作を繰り返し練習し、基本的動作を身体に覚えさせる。 ・刺入深度や刺入角度を自在にコントロールできるようにする。目標を設定して練習していく。 ・自身の身体に取穴して刺鍼する事で、患者側の感覚と施術者側の感覚を身につけていく。 ・ペア同士で練習する。お互いに痛みのチェックをして、技術を研鑽していく。 <p>※実務者経験: 2012年～2017年までixas鍼灸マッサージ整骨院に勤務、2018年～2019年までゼロスポ鍼灸整骨院に勤務。</p>							
<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はりに関する技術や知識を習得し、はり施術を安全におこなえる能力と医療従事者としての態度を身につける。 ・はりの基礎実技、消毒法の実際、使用鍼・刺鍼角度・深度の使い分け、身体への刺鍼、触診技術の基礎を身につける。 							

授業計画・内容

1回目	実技室の使用ルール、道具類の名称を説明することができる。片手挿管を理解できる。
2回目	片手挿管を連続で12回行う。刺鍼までの流れを把握し実行できる。銀鍼を用いて片手挿管を行うことができる。
3回目	片手挿管を連続で12回行う。刺鍼までの流れを把握し実行できる。銀鍼を用いて片手挿管を行うことができる。
4回目	刺鍼練習器に銀鍼を用いて1cm刺入する。刺鍼練習器にステンレス鍼を用いて2cm直刺することができる。
5回目	刺鍼練習器に銀鍼を用いて1cm刺入する。刺鍼練習器にステンレス鍼を用いて2cm直刺することができる。
6回目	刺鍼のリスクを理解する。適切な手指・患部の消毒法を理解する。自分の足に対して適切な消毒法を実行し、ステンレス鍼で1cm直刺することができる。
7回目	自身の三陰交・足三里を取穴し、ステンレス鍼で1cm直刺する事ができる。切皮痛の有無や響き感覚を体験する。
8回目	自身の地機・上巨虚を取穴し、ステンレス鍼で1cm直刺する事ができる。切皮痛の有無や響き感覚を体験する。
9回目	自身の太溪・復溜を取穴し、ステンレス鍼で1cm直刺する事ができる。切皮痛の有無や響き感覚を体験する。
10回目	ペアへの刺鍼注意事項(ワゴンの使い方・患者対応・消毒のしかた・刺鍼時抜鍼時の注意点など)の確認
11回目	ペアの三陰交・足三里・照陵泉を取穴し、ステンレス鍼で1cm直刺する事ができる。切皮痛の有無や響き感覚を体験する。
12回目	ペアの陽陵泉・陰陵泉・地機を取穴し、ステンレス鍼で1cm直刺する事ができる。切皮痛の有無や響き感覚を体験する。
13回目	ペアの上巨虚・太溪・復溜を取穴し、ステンレス鍼で1cm直刺する事ができる。切皮痛の有無や響き感覚を体験する。
14回目	消毒法・刺鍼までの流れの確認、片手挿管の確認テスト
15回目	定期実技テスト
準備学習 時間外学習	技術や知識を身につけるには授業時間だけでは足りません。必ず、自身で練習していきましょう。
評価方法	実技試験(100%)
受講生への メッセージ	患者さんに痛みなく安全に施術する為には繰り返しの練習が必要です。繰り返しの練習は、臨床家の手を作ります。一緒に手を作っていきましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 はりきゅう実技教科書、配布資料	

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	はりきゅう実技(きゅう基礎実技①) <small>Acupuncture and Moxibustion Practical Skills</small>	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	片山 雄二
	コース	午前集中	授業 形態	講習	総時間 (単位)	30 1	実務経験 開講区分 曜日・時限

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
灸の握え方や線香の使い方、人体への施灸の注意点などの基礎を中心に進み、疾患治療を見据えた灸の使い方を学んでいく。担当教員による説明と模擬実技の後に、それぞれが実技練習を行う。複数の教員で見回って丁寧に指導していく。きゅう技術を身につけていく他に患者への説明や配慮の仕方、適切な施術姿勢の作り方など施術に必要な技術も学習していく。

※実務者経験: 2018年から2021年まで要鍼灸院で勤務。2021年より開業(経絡治療)

【到達目標】

灸の基本実技を知り、正確ですばやく、かつ安全に人体に施灸することができる。様々な艾の種類や灸法を学び、使い分けをすることができる。施術者であるという意識を身につける。

授業計画・内容

1回目	実技室の使用ルール、道具類の名称を説明することができる。
2回目	艾の種類、灸術の種類を説明することができる。正しい洗浄・消毒法を実行できる。
3回目	艾を正しい捻り方で捻り、米粒大の艾炷を作ることができる。
4回目	艾を正しい捻り方で捻り、半米粒大の艾炷を作ることができる。
5回目	米粒大と半米粒大の艾炷の大きさの違いを認識して作り分けることができる。
6回目	線香を正しく持つことができる。灰を正しく払うことができる。艾炷へ着火することができる。
7回目	施灸練習台の上で透熱灸をすることができる。
8回目	知熱灸のやり方を確認し、実行できる。
9回目	自分自身の合谷穴、足三里穴に知熱灸を行うことができる。灸点紙の使用方法を説明することができる。
10回目	手際よく知熱灸を行うことができる。患者への施灸の注意点について説明することができる。
11回目	ペアの失眠穴に米粒大、半米粒大にて透熱灸をすることができる。腹部のランドマークを触診することができる。
12回目	ペアの腎俞穴、大腸俞穴を取穴し米粒大にて知熱灸をすることができる。
13回目	ペアの腎俞穴、大腸俞穴を取穴し半米粒大にて知熱灸をすることができる。
14回目	ペアに対し誘導、指示して正しい施術姿勢をつくり、手際よく腎俞穴、大腸俞穴を取穴し半米粒大にて知熱灸をすることができる。
15回目	期末テスト

準備学習
時間外学習

灸技術の向上には練習が欠かせません。やればやるだけ上手になりますので自宅などでも練習していきましょう。

評価方法

実技試験(80%)
平常点(20%)

受講生への
メッセージ

この授業では受講者全員が灸の基礎技術を身につけ、いつでも灸を行っても同じレベルで灸ができるようになることを目標としています。レベルに合わせた課題を準備しますので、こなしていくことでレベルアップしていきます。最終的には全員が基礎技術を修得することを目指します。

【使用教科書・教材・参考書】 はりきゅう実技(基礎編) 教科書執筆小委員会

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	はりきゅう実技(きゅう基礎実技①)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	藤崎 舞椰
	Acupuncture and Moxibustion Practical Skills	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 1	実務経験	○
コース	美容スポーツ					開講区分	1セメ
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>灸の握え方や線香の使い方、人体への施灸の注意点などの基礎を中心に進み、疾患治療を見据えた灸の使い方を学んでいく。担当教員による説明と模擬実技の後に、それぞれが実技練習を行う。複数の教員で見回って丁寧に指導していく。きゅう技術を身につけていく他に患者への説明や配座の仕方、適切な施術姿勢の作り方など施術に必要な技術も学習していく。</p> <p>※実務者経験:2012年～2017年までixas鍼灸マッサージ整骨院に勤務、2018年～2019年までゼロスポ鍼灸整骨院に勤務。</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>灸の基本実技を知り、正確ですばやく、かつ安全に人体に施灸することができる。様々な灸の種類や灸法を学び、使い分けをすることができる。施術者であるという意識を身につける。</p>							

授業計画・内容

1回目	実技室の使用ルール、道具類の名称を説明することができる。
2回目	灸の種類、灸術の種類を説明することができる。正しい洗浄・消毒法を実行できる。
3回目	灸を正しい捻り方で捻り、米粒大の艾柱を作ることができる。
4回目	灸を正しい捻り方で捻り、半米粒大の艾柱を作ることができる。
5回目	米粒大と半米粒大の艾柱の大きさの違いを認識して作り分けることができる。
6回目	線香を正しく持つことができる。灰を正しく払うことができる。艾柱へ着火することができる。
7回目	施灸練習台の上で透熱灸をすることができる。
8回目	知熱灸のやり方を確認し、実行できる。
9回目	自分自身の合谷穴、足三里穴に知熱灸を行うことができる。灸点紙の使用方法を説明することができる。
10回目	手際よく知熱灸を行うことができる。患者への施灸の注意点について説明することができる。
11回目	ペアの失眠穴に米粒大、半米粒大にて透熱灸をすることができる。腰部のランドマークを触診することができる。
12回目	ペアの腎俞穴、大腸俞穴を取穴し米粒大にて知熱灸をすることができる。
13回目	ペアの腎俞穴、大腸俞穴を取穴し半米粒大にて知熱灸をすることができる。
14回目	ペアに対し誘導、指示して正しい施術姿勢をつくり、手際よく腎俞穴、大腸俞穴を取穴し半米粒大にて知熱灸をすることができる。
15回目	期末テスト
準備学習 時間外学習	灸技術の向上には練習が欠かせません。やればやるだけ上手になりますので自宅などでも練習していきましょう。
評価方法	実技試験(80%) 平常点(20%)
受講生への メッセージ	この授業では受講者全員が灸の基礎技術を身につけ、いつでもどこで灸を行っても同じレベルで灸ができるようになることを目標としています。レベルに合わせた課題を準備しますので、こなしていくことでレベルアップしていきます。最終的には全員が基礎技術を修得することを目指します。
【使用教科書・教材・参考書】 はりきゅう実技(基礎編) 教科書執筆小委員会	

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	はりきゅう実技(はり基礎実技②)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	片山 雄二
	Acupuncture and Moxibustion Practical Skills	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30	実務経験	○
コース	午前集中・美容スポーツ				1	開講区分	2セメ
						曜日・時限	

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
 ・担当教員による説明と模擬実技の後に、それぞれが実技練習を行う。教員が見回って指導していく。配布資料を基に講義していく。
 ・身体各部位に対して、安全に刺入できるように練習していく。
 ・他者の身体に対しての刺入深度や刺入角度を自在にコントロールできるようにする。目標を設定して練習していく。
 ・ペア同士で練習する。お互いに痛みのチェックをして、技術を研鑽していく。

※実務者経験:2018年から2021年まで要鍼灸院で勤務。2021年より開業(経絡治療)

【到達目標】

- ・はりに関する技術や知識を習得し、はり施術を安全におこなえる能力と医療従事者としての態度を身につける。
- ・前腕部の経穴を取穴することができる。また安全に痛みなく刺鍼することができる。
- ・腹部の触診(腰椎棘突起、肋骨端、腸骨稜、仙骨、ヤコビー線)ができる。腰部の経穴を取穴し安全に刺鍼することができる。
- ・胸部の触診(胸椎棘突起、肩甲骨)ができる。胸後部の経穴を取穴し安全に刺鍼することができる。
- ・後頸部の触診(外後頸隆起、頸椎棘突起、乳様突起、胸鎖乳突筋)ができる。後頸部の経穴を取穴し安全に刺鍼することができる。

授業計画・内容

1回目	リスク管理・消毒法・刺鍼までの流れを想起・再確認する。片手挿管と銀鍼を鍼枕へ1cm刺入する。
2回目	前脛骨筋を触診しライン取りする。胃経ラインをステンレス鍼で1cm刺入し単刺を行う。
3回目	ペアに対して胃経ラインをステンレス鍼で1cm刺入し単刺を行う。
4回目	ペアに対して胃経ラインをステンレス鍼で1cm刺入し単刺を行う。
5回目	ペアの崑崙・委中・曲池・手三里を取穴し、ステンレス鍼で1cm直刺することができる。切皮痛の有無や響き感覚を体験する。
6回目	ペアの曲池・手三里・外関・合谷を取穴し、ステンレス鍼で1cm直刺することができる。切皮痛の有無や響き感覚を体験する。
7回目	ペアの外関・合谷・却門・内関を取穴し、ステンレス鍼で1cm直刺することができる。切皮痛の有無や響き感覚を体験する。
8回目	施術の流れを理解し、実践することができる。ペアの委中・崑崙を腹臥位、上巨虚と地機を仰臥位にて刺鍼する。
9回目	ペアへの太溪と復溜を腹臥位、却門と内関を仰臥位にて刺鍼する。
10回目	ペアへの曲池と手三里を腹臥位、三陰交と足三里を仰臥位にて刺鍼する。
11回目	ペアの腸骨稜とヤコビー線、腓腹筋を理解し、触診することができる。大腸俞と承山を取穴し刺鍼することができる。
12回目	ペアの腸骨稜とヤコビー線、腓腹筋を理解し、触診することができる。大腸俞と承山を取穴し刺鍼することができる。
13回目	総復習・試験概要
14回目	定期テスト
15回目	定期テスト

準備学習
時間外学習

技術や知識を身につけるには授業時間だけでは足りません。必ず、自身で練習していきましょう。

評価方法

実技試験(100%)

受講生への
メッセージ

患者さんに痛みなく安全に施術する為には繰り返しの練習が必要です。繰り返しの練習は臨床家の手を作ります。一緒に手を作っていきましょう。

【使用教科書・教材・参考書】 はりきゅう実技教科書、配布資料

2025年度 授業概要

学 科：鍼灸科

科目名 (英)	はりきゅう実技(きゅう基礎実技②) Acupuncture and Moxibustion Practical Skills	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	片山 雄二
	コース	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 1	実務経験	○
	午前集中					開講区分	2セメ
						曜日・時限	

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
灸の握え方や線香の使い方、人体への施灸の注意点などの基礎を中心に学び、疾患治療を見据えた灸の使い方を学んでいく。担当教員による説明と模擬実技の後に、それぞれが実技練習を行う。複数の教員で見回って丁寧に指導していく。きゅう技術を身につけていく他に患者への説明や配慮の仕方、適切な施術姿勢の作り方など施術に必要な技術も学習していく。

※実務者経験:2018年から2021年まで栗城灸院で勤務。2021年より開業(経絡治療)

【到達目標】
灸の基本実技を知り、正確ですばやく、かつ安全に人体に施灸することができる。様々な灸の種類や灸法を学び、使い分けをすることができる。施術者であるという意識を身につける。

授業計画・内容	
1回目	ペアの四肢(合谷穴、曲池穴、太衝穴、足三里穴など)を取穴し米粒大にて知熱灸をすることができる。
2回目	ペアの四肢(合谷穴、曲池穴、太衝穴、足三里穴など)を取穴し米粒大にて知熱灸をすることができる。
3回目	ペアの腰部(腎俞穴、大腸俞穴、次髎穴など)を取穴し米粒大にて知熱灸をすることができる。
4回目	ペアの腰部(腎俞穴、大腸俞穴、次髎穴など)を取穴し半米粒大にて知熱灸をすることができる。
5回目	ペアの背部(膈俞穴、肝俞穴、脾俞穴など)を取穴し米粒大にて知熱灸をすることができる。
6回目	ペアの背部(膈俞穴、肝俞穴、脾俞穴など)を取穴し半米粒大にて知熱灸をすることができる。
7回目	糸状灸の大きさ、作り方、施灸方法を学び正しく行うことができる。
8回目	糸状灸を人体(井穴、膝部、頭部)に適切に行うことができる。
9回目	温灸(棒灸、温筒灸、台座灸、箱灸)の使い方を学び、正しく行うことができる。各灸の違いについて説明できる。
10回目	温灸(棒灸、温筒灸、台座灸、箱灸)を正しく行うことができる。
11回目	灸頭鍼について学び正しく行うことができる。注意点について説明することができる。
12回目	ペアの胃の六つ灸を取穴し半米粒大にて知熱灸をすることができる。
13回目	ペアに対し手際よく胃の六つ穴を取穴し半米粒大にて知熱灸をすることができる。
14回目	ペアに対し誘導、指示して正しい施術姿勢をつくり、手際よく胃の六つ灸を取穴し半米粒大にて知熱灸をすることができる。
15回目	期末テスト
準備学習 時間外学習	灸技術の向上には練習が欠かせません。やればやるだけ上手になりますので自宅などでも練習していきましょう。
評価方法	実技試験(80%) 平常点(20%)
受講生への メッセージ	この授業では受講生全員が灸の基礎技術を身につけ、いつでもどこでも同じレベルで灸ができるようになることを目標としています。レベルに合わせた課題を準備しますので、こなしていくことでレベルアップしていきます。最終的には全員が基礎技術を修得することを目指します。
【使用教科書・教材・参考書】 はりきゅう実技(基礎編) 教科書執筆小委員会著	

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	はりきゅう実技(きゅう基礎実技②)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	藤崎 舞椰
	Acupuncture and Moxibustion Practical Skills	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 1	実務経験	○
コース	美容スポーツ			開講区分	2セメ		
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>灸の握え方や線香の使い方、人体への施灸の注意点などの基礎を中心に進み、疾患治療を見据えた灸の使い方を学んでいく。担当教員による説明と模擬実技の後に、それぞれが実技練習を行う。複数の教員で見回って丁寧に指導していく。きゅう技術を身につけていく他に患者への説明や配慮の仕方、適切な施術姿勢の作り方など施術に必要な技術も学習していく。</p> <p>※実務者経験:2012年～2017年までixas鍼灸マッサージ整骨院に勤務、2018年～2019年までゼロスポ鍼灸整骨院に勤務。</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>灸の基本実技を知り、正確ですばやく、かつ安全に人体に施灸することができる。様々な艾の種類や灸法を学び、使い分けをすることができる。施術者であるという意識を身につける。</p>							

授業計画・内容	
1回目	ペアの四肢(合谷穴、曲池穴、太衝穴、足三里穴など)を取穴し米粒大にて知熱灸をすることができる。
2回目	ペアの四肢(合谷穴、曲池穴、太衝穴、足三里穴など)を取穴し米粒大にて知熱灸をすることができる。
3回目	ペアの腰部(腎俞穴、大腸俞穴、次髎穴など)を取穴し米粒大にて知熱灸をすることができる。
4回目	ペアの腰部(腎俞穴、大腸俞穴、次髎穴など)を取穴し半米粒大にて知熱灸をすることができる。
5回目	ペアの背部(膈俞穴、肝俞穴、脾俞穴など)を取穴し米粒大にて知熱灸をすることができる。
6回目	ペアの背部(膈俞穴、肝俞穴、脾俞穴など)を取穴し半米粒大にて知熱灸をすることができる。
7回目	糸状灸の大きさ、作り方、施灸方法を学び正しく行うことができる。
8回目	糸状灸を人体(井穴、膝部、頭部)に適切に行うことができる。
9回目	温灸(棒灸、温筒灸、台座灸、箱灸)の使い方を学び、正しく行うことができる。各灸の違いについて説明できる。
10回目	温灸(棒灸、温筒灸、台座灸、箱灸)を正しく行うことができる。
11回目	灸頭鍼について学び正しく行うことができる。注意点について説明することができる。
12回目	ペアの胃の六つ灸を取穴し半米粒大にて知熱灸をすることができる。
13回目	ペアに対し手際よく胃の六つ穴を取穴し半米粒大にて知熱灸をすることができる。
14回目	ペアに対し誘導、指示して正しい施術姿勢をつくり、手際よく胃の六つ灸を取穴し半米粒大にて知熱灸をすることができる。
15回目	期末テスト
準備学習 時間外学習	灸技術の向上には練習が欠かせません。やればやるだけ上手になりますので自宅などでも練習していきましょう。
評価方法	実技試験(80%) 平常点(20%)
受講生への メッセージ	この授業では受講者全員が灸の基礎技術を身につけ、いつどこで灸を行っても同じレベルで灸ができるようになることを目標としています。レベルに合わせた課題を準備しますので、こなしていくことでレベルアップしていきます。最終的には全員が基礎技術を修得することを目指します。
【使用教科書・教材・参考書】はりきゅう実技(基礎編) 教科書執筆小委員会著	

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	はりきゅう実技(はり③)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	藤崎 舞椰
	Acupuncture and Moxibustion Practical Skills	授業 形態	実習	総時間 (単位)	30 1	実務経験	○
コース	午前集中・美容スポーツ			開講区分	3セメ		
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当教員による説明と模擬実技の後に、それぞれが実技練習を行う。教員が見回って指導していく。配布資料を基に講義していく。 ・身体各部位に対して、安全に刺入できるように練習していく。 ・他者の身体に対しての刺入深度や刺入角度を自在にコントロールできるようにする。目標を設定して練習していく。 ・ペア同士で練習する。お互いに痛みのチェックをして、技術を研鑽していく。 <p>※実務者経験: 2012年～2017年までixas鍼灸マッサージ整骨院に勤務、2018年～2019年までゼロスポ鍼灸整骨院に勤務。</p>							
<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はりに関する技術や知識を習得し、はり施術を安全におこなえる能力と医療従事者としての態度を身につける。 ・腹部の触診をする事ができる。また安全に痛みなく刺鍼する事ができる。 ・頭部の刺鍼(百会、四神総)ができる。頭部の筋の走行を理解する。 ・顔面部の刺鍼(攒竹、顴白、四白、頰車、太陽、印堂、地倉、糸竹空、迎香)ができる。顔面の経穴を取穴し安全に刺鍼する事ができる。 							

授業計画・内容

1回目	リスク管理・消毒法・刺鍼までの流れを想起・再確認する。自分に対して銀鍼での刺入
2回目	鍼枕への直刺・斜刺・横刺の練習、ペアに対しての直刺・斜刺・横刺ができるようになる。
3回目	ペアの腰部に対して斜刺、承山への横刺をすることができる。
4回目	ペアの腰部に対して斜刺、承山への横刺をすることができる。
5回目	肩甲骨の触診と骨に沿ってライン取り、ペアの天宗・秉風・曲垣に対し刺鍼することができる。
6回目	ペアの肩井(つまみ押手)・天宗・肺俞・心俞に対し刺鍼することができる。
7回目	ペアの肩井・天宗・大杼・肺俞・心俞・膈俞・肝俞・脾俞に対し刺鍼することができる
8回目	頭部への刺鍼リスクを理解できる。ペアへの百会・四神総・角孫・天柱・風池・完骨
9回目	前回到続き、ペアへの百会・四神総・角孫・天柱・風池・完骨
10回目	腹部に刺鍼するリスクを理解できる。ペアへの天枢・中脘・氣海俞、関元俞に知熱灸
11回目	顔面部への刺鍼リスクを理解できる。ペアへの攒竹・太陽・頰車・地倉・迎香・下関・神庭
12回目	試験概要説明と練習
13回目	前回到続き定期テスト練習
14回目	定期テスト
15回目	定期テスト
準備学習 時間外学習	技術や知識を身につけるには授業時間だけでは足りません。必ず、自身で練習していきましょう。
評価方法	実技試験(100%)
受講生への メッセージ	2年次へ向けてより安全により速く触診、取穴と刺鍼できるよう一緒に頑張りましょう。
<p>【使用教科書・教材・参考書】 はりきゅう実技教科書、配布資料</p>	

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	東洋医学概論①	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	永田 周平
	Traditional Chinese Medicine Introduction					実務経験	○
コース	午前集中・美容スポーツ	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	開講区分	1セメ
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>鍼灸整骨院にて鍼灸治療に従事した教員が、東洋医学の独特の理論とモノの見方を理解するために、東洋医学の沿革や東洋思想について講義する。また、気・血・津液・精・陰・陽といった人体を構成する基本要素について、それらの状態に応じた病証(=病気の種類)について教授する。ポイントを押さえやすい学習プリントを配布し、学習プリントと教科書を中心に講義を進めていく。単元ごとに確認のための確認テストを実施する。必要に応じてグループワークやディスカッションを行う。</p> <p>※実務者経験:実務経験:2007年より「あきほ整骨院」にて鍼灸治療に従事し、現在は「こひろ鍼灸治療院」にて在籍。(東洋医学に基づいた鍼灸治療)</p>							
<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東洋医学の用語に慣れ親しみ、人間の整体観をイメージできるようになる。 ・東洋医学の基本概念(陰陽五行・気血津液精陰陽)について説明できるようになる。また気血津液精陰陽の病証について説明ができ、かつ症状から病証を判断する事ができる。 							

授業計画・内容

1回目	東洋医学の沿革(起源、黄帝内経の医学、現代中医学、日本における日中交流史、現代日本の東洋医学)について説明する事ができる。
2回目	東洋医学的な人体の見方として、陰陽学説・五行学説について説明できる。
3回目	前回までの内容の小テスト実施。東洋医学的な生体物質である精について説明できる。また精の病証を症状から鑑別する事ができる。
4回目	東洋医学的な生体物質である気について説明できる。
5回目	気の病証について説明できる。また気の病証を症状から鑑別する事ができる。
6回目	前回までの内容の小テスト実施。東洋医学的な生体物質である血について説明できる。
7回目	血の病証を症状から鑑別する事ができる。
8回目	東洋医学的な生体物質である津液について説明できる。
9回目	津液の病証を症状から鑑別する事ができる。
10回目	前回までの内容の小テストを実施。気・血・津液・精の相互関係について説明できる。
11回目	人体における陰陽を説明する事ができる。
12回目	陰陽の病証について説明できる。また陰陽の病証を症状から鑑別できる。
13回目	前回までの内容の小テストを実施。病証のまとめ復習。
14回目	総復習、病証の練習問題
15回目	定期テスト
準備学習 時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・単元ごとに行う小テストの内容をしっかりと復習していきましょう。定期試験の対策にもなります。 ・自分や家族の健康状態に対して、講義で学んだ東洋医学的な見方をしていきましょう。そういった訓練をしていくとグングンと実力がつきます。
評価方法	筆記による定期テスト(100%)
受講生への メッセージ	東洋医学は、患者さんに対して現代医学とは違った見方ができる学問です。そんな東洋医学を学べるのは鍼灸学校だけです。一緒に楽しんで学んでいきましょう。よろしくお願いたします。
【使用教科書・教材・参考書】 東洋医学概論教科書(新版 東洋医学概論)、配布学習プリント	

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	東洋医学概論②	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	永田 周平
	Traditional Chinese Medicine Introduction	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	実務経験	○
コース	午前集中・美容スポーツ					開講区分	1セメ
						曜日・時限	
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・五臓六腑それぞれの生理作用、生理特性、関連領域について講義を進めていく。それらをふまえて病証(=病気の種類)を学んでいく。 ・ポイントを押さえやすい学習プリントを配布し、学習プリントと教科書を中心に講義を進めていく。単元ごとに確認のための小テストを実施する。必要に応じてグループワークやディスカッションを行う。 <p>※実務者経験:実務経験:2007年より「あきは整骨院」にて鍼灸治療に従事し、現在は「こひろ鍼灸治療院」にて在籍。(東洋医学に基づいた鍼灸治療)</p>							
<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分を含めた身の周りの人達の状態を、東洋医学的観点から見る事ができる。 ・五臓六腑に関連する専門用語を自分のものにする。また患者の症状や状態から、病のある五臓六腑を特定できる。それぞれの病証を鑑別する事ができる。 							

授業計画・内容	
1回目	五臓六腑、奇恒の腑の概要を説明できる。肝の生理作用、生理特性、関連領域について説明できる。
2回目	肝の病証について説明できる。また患者の症状から肝の病証を鑑別できる。
3回目	前回の内容までの小テスト。心の生理作用、生理特性、関連領域について説明できる。
4回目	心の病証について説明できる。また患者の症状から心の病証を鑑別できる。
5回目	前回の内容までの小テスト。脾の生理作用、生理特性、関連領域について説明できる。
6回目	脾の病証について説明できる。また患者の症状から心の病証を鑑別できる。
7回目	前回の内容までの小テスト。肺の生理作用、生理特性、関連領域について説明できる。
8回目	肺の病証について説明できる。また患者の症状から肺の病証を鑑別できる。
9回目	前回の内容までの小テスト。腎の生理作用、生理特性、関連領域について説明できる。
10回目	腎の病証について説明できる。また患者の症状から腎の病証を鑑別できる。
11回目	前回の内容までの小テスト。胆、小腸、胃の生理作用と病証について説明できる。
12回目	大腸、膀胱、三焦の生理作用と病証について説明できる。
13回目	前回の内容までの小テスト。奇恒の腑、五臓六腑の官職について説明できる。
14回目	復習
15回目	定期テスト
準備学習 時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・単元ごとに行う小テストの内容をしっかりと復習していきましょう。定期試験の対策にもなります。 ・自分や家族の健康状態に対して、講義で学んだ東洋医学的な見方をしていきましょう。そういった訓練をしていくとグングンと実力がつきます。
評価方法	筆記による定期テスト(100%)
受講生への メッセージ	東洋医学は、患者さんに対して現代医学とは違った見方ができる学問です。そんな東洋医学を学べるのは鍼灸学校だけです。一緒に楽しんで学んでいきましょう。よろしくお願いたします。
【使用教科書・教材・参考書】 東洋医学概論教科書(新版 東洋医学概論)、配布学習プリント	

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	東洋医学概論③	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	永田 周平
	Traditional Chinese Medicine Introduction	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	実務経験	○
コース	午前集中・美容スポーツ					開講区分	2セメ
						曜日・時限	

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

- ・経絡関連(概念、構成、十二経脈、奇経八脈など)を把握し、経脈病証とそれらに関連する症状について講義していく。
- ・病因(外感、内傷、病理産物とその他)について学び、それぞれに関連する単語や症状について講義していく。
- ・臓腑間での病の伝変と波及について講義していく。
- ・ポイントを押さえやすい学習プリントを配布し、学習プリントと教科書を中心に講義を進めていく。単元ごとに確認のための小テストを実施する。必要に応じてグループワークやディスカッションを行う。

※実務者経験:実務経験:2007年より「あきほ整骨院」にて鍼灸治療に従事し、現在は「こひろ鍼灸治療院」にて在籍。(東洋医学に基づいた鍼灸治療)

【到達目標】

- ・自分を含めた身の周りの人達の状態を、東洋医学的観点から見る事ができる。
- ・経絡について全体を把握し、経絡に異常が起こった際の症状から、どの経絡に異常があるのかを鑑別する事ができる。
- ・東洋医学的な病の原因について詳細に説明する事ができる。
- ・臓腑間での病の伝変や波及のパターンを説明することができる。

授業計画・内容

1回目	経絡の概念、構成について説明することができる。
2回目	十二経脈の走行、奇経八脈、十二経別、十五別絡、十二経筋、十二皮部について説明することができる。
3回目	十二経脈の病証について説明することができる。また症状から十二経脈の病証を鑑別することができる。
4回目	前回までの内容の小テスト。外感病因である六淫について説明することができる。またそれぞれの特徴を把握し、症状から六淫を鑑別できる。
5回目	内傷病因である飲食不節、労逸、房事過多、七情の失調について説明することができる。
6回目	前回までの内容の小テスト。肝系統の伝変と波及のパターンを説明できる。
7回目	前回までの内容の小テスト。心系統の伝変と波及のパターンを説明できる。
8回目	前回までの内容の小テスト。脾系統の伝変と波及のパターンを説明できる。
9回目	前回までの内容の小テスト。肺系統の伝変と波及のパターンを説明できる。
10回目	前回までの内容の小テスト。腎系統の伝変と波及のパターンを説明できる。
11回目	臓腑間での伝変と波及の復習
12回目	病証と症状を組み合わせたカルタを作成し、病証に関する理解を深める。
13回目	作成したカルタを用いてカルタ大会を開催する。
14回目	総復習
15回目	定期テスト

準備学習 時間外学習	・今までに学んだ気血津液精の生理作用、五臓六腑の生理作用と病証の知識の復習が必要です。見直して知識の整理をしておきましょう。
---------------	--

100%	筆記による定期テスト(100%)
------	------------------

受講生への メッセージ	人体や病を東洋医学的に診るための基本的な知識の総括を行います。臨床につながる考え方を身につけていきましょう。
----------------	--

【使用教科書・教材・参考書】 東洋医学概論教科書(新版 東洋医学概論)、配布学習プリント

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	東洋医学概論④	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	永田 周平
	Traditional Chinese Medicine Clinical Theory	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	実務経験	○
コース	午前集中・美容スポーツ					開講区分	3セメ
						曜日・時限	

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
 多角的な全人的医療が求められる現代社会において、東洋医学に対する期待も年々高まってきている。中国古代医学が体系化された東洋医学の基本的な考え方をもとに東洋医学としての診断治療システムを中心に学んでいく。四診法から弁証論治までの過程を理解し、実践することにより習得していく。
 ※実務者経歴:実務経験:2007年より「あきほ整骨院」にて鍼灸治療に従事し、現在は「こひろ鍼灸治療院」にて在籍。(東洋医学に基づいた鍼灸治療)

【到達目標】
 今までに学んできた東洋医学の基礎知識をもとに四診法を学び、さらにそれを弁証論治へとつなげていく。実践型の講義を通じて、四診法の技術を磨き、より精度の高い弁証力を習得する。講義終了時には、東洋医学臨床論や実技講義により身に付けた治療方法・治療技術とともに、最低限の東洋医学的な診断から実際の治療へとつなげることができるようになる。
 〈具体的な目標〉
 (目標①)東洋医学的診察方法(四診法)によって得られる所見をしっかりと理解し、病態について説明することができる。
 (目標②)東洋医学的診察方法(四診法)によって得られる情報を統合し、弁証に応用することができる(弁証論治)。

授業計画・内容	
1回目	(目標①)四診についての全体像を学び、弁証へとつなげるための流れを説明できる。
2回目	(目標①)望診(五色診・舌診)の概略について学び、弁証へと活かすための情報を得ることが出来る。
3回目	(目標②)望診(五色診・舌診)を実践し、得られた舌象より実際の弁証を立てることが出来る。
4回目	(目標①)問診の概略について学び、弁証へと活かすための情報を得ることが出来る。
5回目	(目標①)問診(寒熱・飲食)について学び、弁証へと活かすための情報を得ることが出来る。
6回目	(目標①)問診(睡眠・二便)について学び、弁証へと活かすための情報を得ることが出来る。
7回目	(目標①)問診(情志・汗)について学び、弁証へと活かすための情報を得ることが出来る。
8回目	(目標①)問診(疼痛・女性)について学び、弁証へと活かすための情報を得ることが出来る。
9回目	(目標①)切診(反応)について学び、弁証へと活かすための情報を得ることが出来る。
10回目	(目標①)切診(脈診)について学び、弁証へと活かすための情報を得ることが出来る。
11回目	(目標①)切診(脈状診)について学び、弁証へと活かすための情報を得ることが出来る。
12回目	(目標①)切診(比較脈診)について学び、弁証へと活かすための情報を得ることが出来る。
13回目	(目標②)切診(比較脈診)を実践し、得られた脈象より実際の弁証を立てることが出来る。
14回目	(目標①)四診を実践し、得られた脈象より実際の弁証を立てることが出来る。
15回目	期末試験
準備学習 時間外学習	(目標①)配布プリントや教科書を読んで、あらかじめの予習しておくことが望ましい。
評価方法	今までに習得した東洋医学概論の基礎知識が本講義には必要不可欠ですので、期末試験にて問うことがあります。 定期テスト(100%)
受講生への メッセージ	今までに学んだ東洋医学概論の知識を使って、いよいよ臨床で活かせる診察法の授業に入ります。五感を研ぎ澄まして、身体が発するメッセージを理解できるようになれるよう頑張りましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 東洋医学概論教科書(新版 東洋医学概論)、配布学習プリント	

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	臨床医学各論①	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	天本 保典
	Clinical Medicine General Remarks					実務経験	○
コース	午前集中・美容スポーツ	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	開講区分	3セメ
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>多角度的な全人的医療が求められる現代社会において、東洋医学に対する期待も年々高まってきている。「臨床医学」の知識はすべての医療従事者にとって必須であり、鍼灸臨床家はさらに西洋・東洋どちらの知識も必要とされる。西洋医学的な疾病観として疫学、成因・病態生理、症状、診断、治療、予後などについて学ぶ。</p> <p>実務者経験: 2003年より現在に至るまで訪問を中心とした鍼灸臨床経験を持っている。(西洋医学に基づく鍼灸治療)</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>解剖学、生理学、病理学などの基礎分野で学んだ知識を活用し、西洋医学の疾病観を養うことを到達目標とする。成因や病態生理を把握した上で、症状が出現する機序を理解し、それに対する治療法の正当性を確認する。これらの知識を網羅することによって、患者に病態像分かりやすく説明することができる。</p> <p>〈具体的な目標〉</p> <p>(目標①) 解剖学・生理学・病理学の基礎的知識を再確認して自分で説明できる。</p> <p>(目標②) 各疾患に対して、疫学・病態生理、症状、診断、治療、予後を体系立てて説明することができる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	(目標①) 消化器疾患の学習について必要な解剖学、生理学、病理学の基礎的知識を説明することができる。
2回目	(目標②) 消化器疾患・口腔疾患について学び説明することができる。
3回目	(目標②) 消化器疾患・食道疾患について学び説明することができる。
4回目	(目標②) 消化器疾患・胃十二指腸疾患について学び説明することができる。
5回目	(目標②) 消化器疾患・腸疾患について学び説明することができる。
6回目	(目標②) 消化器疾患・腹膜疾患について学び説明することができる。
7回目	(目標②) 消化器疾患の総復習
8回目	(目標①) 感染症の学習について必要な病理学や公衆衛生学の基礎的知識を説明することができる。
9回目	(目標②) 感染症・総論について学び説明することができる。
10回目	(目標②) 感染症・細菌感染症について学び説明することができる。
11回目	(目標②) 感染症・ウイルス感染症について学び説明することができる。
12回目	(目標②) 感染症・性感染症について学び説明することができる。
13回目	(目標②) 感染症の総復習
14回目	期末試験
15回目	試験解説
準備学習 時間外学習	(目標①) 東洋療法学校協会「解剖学」「生理学」「病理学」テキストを読んで、あらかじめ学習をしてください。 (目標②) 東洋療法学校協会「臨床医学各論」テキストを読んで、あらかじめ学習をしてください。
評価方法	前回講義の内容を確認するために小テストを実施します。課題レポートの提出も加点の材料とする。 ●小テスト(10%) ●課題レポート(10%) ●定期テスト(80%) 割合で成績評価を行う。
受講生への メッセージ	臨床医学の用語は医療従事者間のコミュニケーションには欠かせない共通言語となりますし、患者へ病態の説明にも欠かせません。覚えることが多く、大変とは思いますが頑張ってください。
【使用教科書・教材・参考書】	
教科書 東洋療法学校協会「臨床医学各論」	

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	臨床医学総論 Clinical Medicine General Remarks	必修 選択	必修	年次	1	担当教員 実務経験	平山 祐成 ○
コース	午前集中・美容スポーツ	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	開講区分 曜日・時限	2セメ
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) 近年、健康意識の高まりから、予防医学や統合医療など東洋療法への関心が広がっている。また、現代医療においてはチーム医療の重要性が再認識されている。様々な専門性をもつ医療職が、安全かつ効果的に治療を実施するためには、全ての医療人が適切な診察法を理解し、様々な疾病に精通しておくことが必須である。患者を深く知り、理解し、適切な治療を行うためには、歴史的背景から始まり、入念な身体診察を行わなければならない。これらの理由から、東洋療法においても西洋医学的な病態把握・診察法について理解し、修得することが重要である。</p> <p>※実務者経歴：2018年から2020年まで沖縄統合医療学院付属鍼灸院にて勤務。現在に至る。(中医学・現代鍼灸医学に基づく鍼灸治療)</p>							
<p>【到達目標】 各身体部位の正常な所見を理解したうえで、対する疾病状態の症状や身体所見から正しい診察法を実施することが可能になる事を到達目標とする。疾病に対する適切な診察法を修得し、西洋医学的な病態把握ができるようになる。</p> <p><具体的な目標> 目標① 各身体部位の正常な所見を確認して自分で説明できる。 目標② 各身体部位の診察法を実施もしくは説明できる。 目標③ 診察法より得られた所見から考えられる疾患名を説明できる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	(目標②) 診察の概要、診察の方法(問診)について学び説明することができる。
2回目	(目標①②) 診察の方法(視診、触診、打診、聴診)について学び説明することができる。
3回目	(目標①②) 診察の方法(触診、測定法、神経系の診察)について学び説明することができる。
4回目	(目標①②③) 生命徴候(バイタルサイン)の体温、脈拍、血圧について学び説明することができる。
5回目	(目標①②③) 生命徴候(バイタルサイン)の呼吸、全身の診察の顔貌・顔色について学び説明することができる。
6回目	(目標②③) 全身の診察の精神状態、言語について学び説明することができる。
7回目	(目標①②③) 全身の診察の身体計測、体型・体格について学び説明することができる。
8回目	(目標②③) 全身の診察の栄養状態、姿勢と体位について学び説明することができる。
9回目	(目標②③) 全身の診察の歩行について学び説明することができる。
10回目	(目標①②③) 全身の診察の皮膚、粘膜、皮下組織について学び説明することができる。
11回目	(目標①②③) 全身の診察の皮膚、結核、皮下組織、爪の状態について学び説明することができる。
12回目	(目標①②③) 全身の診察のリンパ節について学び説明することができる。
13回目	(目標①②③) 全身の診察のその他の一般的状態について学び説明することができる。
14回目	期末試験
15回目	期末試験の解答と解説
準備学習 時間外学習	(目標①)東洋療法学校協会「解剖学」・「生理学」テキストを読んで、あらかじめ予習をすることが望ましい。 (目標②③)東洋療法学校協会「臨床医学総論」テキストを読んで、あらかじめ予習をしてください。
評価方法	定期試験にて、知識の到達評価を行います。(100%)
受講生へのメッセージ	診察法は臨床における病態把握に直結しています。また、医療従事者の共通認識・共通言語となる専門用語が多数出てきます。最初は慣れない言葉や病名に戸惑うかもしれませんが、徐々に慣れていきましょう。大変ですが頑張ってください。 まず手始めに、自分の身体や身近な人の身体所見をよく観察してみましょう。 臨床医学総論で学ぶ内容は臨床医学各論へと続いています。 臨床医学総論でまずは身体所見(症状)とその診察法、そこから考えられる疾患名をしっかりと修得しましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
教科書 河野邦雄 伊藤義隆 坂本和 前島徹 磯口桂 著「解剖学 第2版」 医歯薬出版株式会社 教科書 内田さ丸 原田 玲子 著「生理学 第3版」 医歯薬出版株式会社	

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	臨床医学総論	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	平山 純成
	Clinical Medicine General Remarks					実務経験	○
コース	午前集中・美容スポーツ	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	開講区分 曜日・時限	3セメ
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>近年、健康意識の高まりから、予防医学や統合医療など東洋療法への関心が広がっている。また、現代医療においてはチーム医療の重要性が再認識されている。様々な専門性をもつ医療職が、安全かつ効果的に治療を実施するためには、全ての医療人が適切な診察法を理解し、様々な疾病に精通しておくことが必須である。患者を深く知り、理解し、適切な治療を行うためには、医療現場から始まり、入念な身体診察を行わなければならない。これらの理由から、東洋療法においても西洋医学的な病態把握・診察法について理解し、修得することが重要である。</p> <p>※実務者経験：2018年から2020年まで沖縄総合医療学院付属鍼灸院にて勤務。現在に至る。(中医学・現代鍼灸医学に基づく鍼灸治療)</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>各身体部位の正常な所見を理解したうえで、対する疾病状態の症状や身体所見から正しい診察法を実施することが可能になる事を到達目標とする。疾病に対する適切な診察法を修得し、西洋医学的な病態把握ができるようになる。</p> <p><具体的な目標></p> <p>目標① 各身体部位の正常な所見を確認して自分で説明できる。 目標② 各身体部位の診察法を実施もしくは説明できる。 目標③ 診察法より得られた所見から考えられる疾患名を説明できる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	(目標②③) 局所の診察の顔部、顔面、眼について学び説明することができる。
2回目	(目標②③) 局所の診察の鼻、耳、口腔、頸部について学び説明することができる。
3回目	(目標②③) 局所の診察の頸部、胸部、乳房について学び説明することができる。
4回目	(目標②③) 局所の診察の肘・腕関節、腹部について学び説明することができる。
5回目	(目標②③) 局所の診察の腰部、背部について学び説明することができる。
6回目	(目標②③) 局所の診察の四肢について学び説明することができる。
7回目	(目標②③) 神経系の診察の感覚検査法について学び説明することができる。
8回目	(目標②③) 神経系の診察の反射検査について学び説明することができる。
9回目	(目標②③) 神経系の診察の反射検査について学び説明することができる。
10回目	(目標②③) 神経系の診察の脳神経系の検査について学び説明することができる。
11回目	(目標②③) 神経系の診察の脳神経系の検査、補綴刺激症状について学び説明することができる。
12回目	(目標②③) 運動機能検査の運動麻痺について学び説明することができる。
13回目	(目標②③) 運動機能検査の筋力の異常、不随意運動について学び説明することができる。
14回目	(目標②③) 運動機能検査の協調運動、起立と歩行について学び説明することができる。
15回目	期末試験
準備学習 時間外学習	(目標①) 東洋療法学校協会「解剖学」、「生理学」テキストを読んで、あらかじめ予習をしてください。 (目標②③) 東洋療法学校協会「臨床医学総論」テキストを読んで、あらかじめ予習をしてください。
評価方法	定期試験にて、知識の到達評価を行います。(100%)
受講生への メッセージ	診察法は臨床における病態把握に繋がっています。また、医療従事者の共通認識・共通言語となる専門用語が多数出てきます。大変ですが頑張って下さい。自分の身体や身近な人の身体所見をよく観察してみましょう。 臨床医学総論で学ぶ内容は臨床医学全般へと繋がっています。 臨床医学総論でまずは身体所見と診察法。そこから考えられる疾患名をしっかりと修得しましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
教科書：河野邦雄 伊藤豊造 坂本 福和 前島 穂 樋口 桂 著「解剖学 第2版」 医歯薬出版株式会社 教科書：内田 さえ 原田 伸子 著「生理学 第3版」 医歯薬出版株式会社	

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	臨床医学各論②	必修 選択	必修	年次	2	担当教員 実務経験	天本 保典 ○
	Clinical Medicine General Remarks	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	開講区分 曜日・時限	1セメ
コース	午前集中・美容スポーツ						
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) 多角的な全人的医療が求められる現代社会において、東洋医学に対する期待も年々高まってきている。「臨床医学」の知識はすべての医療従事者にとって必須であり、鍼灸臨床家はさらに西洋・東洋どちらの知識も必要とされる。西洋医学的な疾病観として疫学、成因・病態生理、症状、診断、治療、予後などについて学ぶ。</p> <p>実務者経験: 2003年より現在に至るまで訪問を中心とした鍼灸臨床経験を持っている。(西洋医学に基づく鍼灸治療)</p>							
<p>【到達目標】 解剖学、生理学、病理学などの基礎分野で学んだ知識を活用し、西洋医学の疾病観を養うことを到達目標とする。成因や病態生理を把握した上で、症状が出現する機序を理解し、それに対する治療法の正当性を確認する。これらの知識を網羅することによって、患者に病態像分かりやすく説明することができる。</p> <p>〈具体的な目標〉 (目標①)解剖学・生理学・病理学の基礎的知識を再確認して自分で説明できる。 (目標②)各疾患に対して、疫学・病態生理、症状、診断、治療、予後を体系立てて説明することができる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	(目標①)肝臓の学習について必要な解剖学、生理学、病理学の基礎的知識を説明することができる。
2回目	(目標②)肝臓疾患・急性・慢性肝炎について学び説明することができる。
3回目	(目標②)肝臓疾患・肝硬変について学び説明することができる。
4回目	(目標②)肝臓疾患・肝臓について学び説明することができる。
5回目	(目標②)肝臓疾患・胆石について学び説明することができる。
6回目	(目標②)肝臓疾患・胆嚢炎・胆嚢癌について学び説明することができる。
7回目	(目標②)肝臓疾患・急性肝炎・慢性肝炎について学び説明することができる。
8回目	(目標②)肝臓疾患・膵臓について学び説明することができる。
9回目	(目標①)呼吸器の学習について必要な解剖学、生理学、病理学の基礎的知識を説明することができる。
10回目	(目標②)呼吸器疾患・感染性呼吸器疾患について学び説明することができる。
11回目	(目標②)呼吸器疾患・閉塞性呼吸器疾患について学び説明することができる。
12回目	(目標②)呼吸器疾患・特発性肺線維症について学び説明することができる。
13回目	(目標②)呼吸器疾患・その他の呼吸器疾患について学び説明することができる。
14回目	期末試験
15回目	期末試験の解答解説
準備学習 時間外学習	(目標①)東洋療法学校協会「解剖学」「生理学」「病理学」テキストを読んで、あらかじめ予習をしてください。 (目標②)東洋療法学校協会「臨床医学各論」テキストを読んで、あらかじめ予習をしてください。
評価方法	前回講義の内容を確認するために小テストを実施します。課題レポートの提出も加点の材料とする。 ●小テスト(20%) ●定期テスト(80%) 割合で成績評価を行う。
受講生への メッセージ	臨床医学の用語は医療従事者間のコミュニケーションには欠かせない共通言語となりますし、患者へ病態の説明にも欠かせません。覚えることが多く、大変とは思いますが頑張ってください。
【使用教科書・教材・参考書】	
教科書 東洋療法学校協会「臨床医学各論」	

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	臨床医学各論③ Clinical Medicine General Remarks	必修 選択	必修	年次	2	担当教員 実務経験	天本 保典 ○
コース	午前集中・美容スポーツ	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	開講区分 曜日・時間	2セメ

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

多角的な全人的医療が求められる現代社会において、東洋医学に対する期待も年々高まってきている。「臨床医学」の知識はすべての医療従事者にとって必須であり、鍼灸臨床家はさらに西洋・東洋どちらの知識も必要とされる。西洋医学的な疾病観として疫学、成因・病態生理、症状、診断、治療、予後などについて学ぶ。

実務者経験: 2003年より現在に至るまで訪問を中心とした鍼灸臨床経験を持っている。(西洋医学に基づく鍼灸治療)

【到達目標】

解剖学、生理学、病理学などの基礎分野で学んだ知識を活用し、西洋医学の疾病観を養うことを到達目標とする。成因や病態生理を把握した上で、症状が出現する機序を理解し、それに対する治療法の正当性を確認する。これらの知識を網羅することによって、患者に病態像分かりやすく説明することができる。

〈具体的な目標〉

- (目標①) 解剖学・生理学・病理学の基礎的知識を再確認して自分で説明できる。
- (目標②) 各疾患に対して、疫学・病態生理、症状、診断、治療、予後を体系立てて説明することができる。

授業計画・内容

1回目	(目標①) 腎・泌尿器疾患の学習について必要な解剖学、生理学、病理学の基礎的知識を説明することができる。
2回目	(目標②) 腎・泌尿器疾患・原発性糸球体腎炎について学び説明することができる。
3回目	(目標②) 腎・泌尿器疾患・ネフローゼ症候群について学び説明することができる。
4回目	(目標②) 腎・泌尿器疾患・腎不全について学び説明することができる。
5回目	(目標②) 腎・泌尿器疾患・感染症・腫瘍性疾患について学び説明することができる。
6回目	(目標②) 腎・泌尿器疾患・結石症・前立腺疾患について学び説明することができる。
7回目	(目標①) 内分泌疾患の学習について必要な解剖学、生理学、病理学の基礎的知識を説明することができる。
8回目	(目標②) 内分泌疾患・下垂体疾患について学び説明することができる。
9回目	(目標②) 内分泌疾患・甲状腺疾患について学び説明することができる。
10回目	(目標②) 内分泌疾患・副腎疾患について学び説明することができる。
11回目	(目標②) 内分泌疾患・副腎疾患について学び説明することができる。
12回目	(目標①) 代謝性疾患の学習について必要な解剖学、生理学、病理学の基礎的知識を説明することができる。
13回目	(目標②) 代謝性疾患・糖代謝異常について学び説明することができる。
14回目	(目標②) 代謝性疾患・尿酸代謝異常について学び説明することができる。
15回目	期末試験
準備学習 時間外学習	(目標①) 東洋療法学校協会「解剖学」「生理学」「病理学」テキストを読んで、あらかじめ予習をしてください。 (目標②) 東洋療法学校協会「臨床医学各論」テキストを読んで、あらかじめ予習をしてください。
評価方法	前回講義の内容を確認するために小テストを実施します。課題レポートの提出も加点の材料とする。 ●課題レポート(20%) ●定期テスト(80%) 割合で成績評価を行う。
受講生への メッセージ	臨床医学の用語は医療従事者間のコミュニケーションには欠かせない共通言語となりますし、患者へ病態の説明にも欠かせません。覚えることが多く、大変とは思いますが頑張ってください。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書: 東洋療法学校協会「臨床医学各論」

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	臨床医学各論④ Clinical Medicine General Remarks	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	天本 保典
						実務経験	○
コース	午前集中・美容スポーツ	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	開講区分 曜日・時限	3セメ
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) 多角的な全人的医療が求められる現代社会において、東洋医学に対する期待も年々高まってきている。「臨床医学」の知識はすべての医療従事者にとって必須であり、鍼灸臨床家はさらに西洋・東洋どちらの知識も必要とされる。西洋医学的な疾病観として疫学、成因・病態生理、症状、診断、治療、予後などについて学ぶ。</p> <p>実務者経験: 2003年より現在に至るまで訪問を中心とした鍼灸臨床経験を持っている。(西洋医学に基づく鍼灸治療)</p>							
<p>【到達目標】 解剖学、生理学、病理学などの基礎分野で学んだ知識を活用し、西洋医学の疾病観を養うことを到達目標とする。成因や病態生理を把握した上で、症状が出現する機序を理解し、それに対する治療法の正当性を確認する。これらの知識を網羅することによって、患者に病態像分かりやすく説明することができる。</p> <p>〈具体的な目標〉 (目標①)解剖学・生理学・病理学の基礎的知識を再確認して自分で説明できる。 (目標②)各疾患に対して、疫学・病態生理、症状、診断、治療、予後を体系立てて説明することができる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	(目標①)整形外科疾患の学習について必要な解剖学、生理学、病理学の基礎的知識学び説明することができる。
2回目	(目標②)整形外科疾患・総論について学び説明することができる。
3回目	(目標②)整形外科疾患・総論について学び説明することができる。
4回目	(目標②)整形外科疾患・骨代謝疾患について学び説明することができる。
5回目	(目標②)整形外科疾患・筋腱疾患について学び説明することができる。
6回目	(目標②)整形外科疾患・形態異常について学び説明することができる。
7回目	(目標②)整形外科疾患・脊椎疾患について学び説明することができる。
8回目	(目標②)整形外科疾患・脊髄損傷について学び説明することができる。
9回目	(目標②)整形外科疾患・外傷について学び説明することができる。
10回目	(目標②)整形外科疾患・その他の整形外科疾患について学び説明することができる。
11回目	(目標①)循環器疾患の学習について必要な解剖学、生理学、病理学の基礎的知識学び説明することができる。
12回目	(目標②)循環器疾患・心臓疾患について学び説明することができる。
13回目	(目標②)循環器疾患・冠動脈疾患について学び説明することができる。
14回目	(目標②)循環器疾患・動脈疾患・血圧以上について学び説明することができる。
15回目	期末試験
準備学習 時間外学習	(目標①)東洋療法学校協会「解剖学」「生理学」「病理学」テキストを読んで、あらかじめ予習をしてください。 (目標②)東洋療法学校協会「臨床医学各論」テキストを読んで、あらかじめ予習をしてください。
評価方法	前回講義の内容を確認するために小テストを実施します。課題レポートの提出も加点の材料とする。 ●課題レポート(20%) ●定期テスト(80%) 割合で成績評価を行う。
受講生への メッセージ	臨床医学の用語は医療従事者間のコミュニケーションには欠かせない共通言語となりますし、患者へ病態の説明にも欠かせません。覚えることが多く、大変とは思いますが頑張ってください。
【使用教科書・教材・参考書】	
教科書: 東洋療法学校協会「臨床医学各論」	

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	病理学概論	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	上村 尚央
	Pathology	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	実務経験	○
コース	午前集中・美容スポーツ					開講区分	2セメ
						曜日・時限	

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
訪問リハビリの企業で病理学に基づく訪問鍼灸治療に従事した教員が、病理学概論について講義する。生理学、解剖学を理解して、人体の正常な反応を理解できるよう教授する。病理学・循環障害・退行性病変・進行性病変・炎症・腫瘍・免疫異常・先天性異常に分け、それぞれ正常範囲を逸脱した時に人体にどのような反応が起きるのかを学習、理解し、本授業終了時には各々の説明ができるように教授する。

※実務者経験:2014年～2017年 有限会社白龍堂 訪問リハビリマッサージオアシスにて訪問鍼灸治療に従事していた。(病理学に基づく鍼灸治療)

病気、疾病の基本的な知識を修得し、病気に対する基礎的な理解を深める。また、疾病に関して医療関係者と情報交換できる程度の知識の修得と、一般の方にはわかりやすく説明できるようになる。

<具体的な目標>

目標①疾病を引き起こす原因を理解し、情報としてキャッチできるようになる

目標②各疾病について理解し、わかりやすく説明できるようになる

授業計画・内容

1回目	病気の原因について理解し、説明できる①
2回目	病気の原因について理解し、説明できる②
3回目	病気の原因について理解し、説明できる③
4回目	病気の原因について理解し、説明できる④
5回目	循環障害について説明できる①
6回目	循環障害について説明できる②
7回目	循環障害について説明できる③
8回目	退行性病変について説明できる①
9回目	退行性病変について説明できる②
10回目	退行性病変について説明できる③
11回目	進行性病変について説明できる①
12回目	進行性病変について説明できる②
13回目	進行性病変について説明できる③
14回目	循環障害、退行性病変、進行性病変について再確認し、よりわかりやすく説明できるようになる
15回目	期末試験
準備学習 時間外学習	目標①解剖学、生理学について理解、予習が必要です 目標②各単元ごとに小テストを行いますので、講義の復習が必要です
評価方法	授業内容理解の確認小テストを4回実施する。 定期テストにて知識の到達評価を行う。 ●小テスト(40%) ●定期テスト(60%) 割合で成績評価を行う。
受講生への メッセージ	臨床で患者からよく聞かれることは病気に関する情報で、それについて正しい返答することが患者との信頼形成において重要になります。 その他、疾病につながる情報を逃さずキャッチできるように、何が異常なのかを理解することは大切です。 国試だけでなく、その後の臨床を見据えて勉強しましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書: 滝澤登一郎・島山茂著 病理学概論 医歯英出版
参考書: 岩田隆子監修 わかりやすい病理学 南江堂

2025年度 授業概要

学 科：鍼灸科

科目名 (英)	病理学概論	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	上村 尚央
	Pathology	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	実務経験	○
コース	午前集中・美容スポーツ					開講区分	3セメ
						曜日・時限	

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
 病理学概論は生理学、解剖学を理解して、人体の正常な反応を理解していることが必要となる。
 病理学・循環障害・退行性病変・進行性病変・炎症・腫瘍・免疫異常・先天性異常 に分け、それぞれ正常範囲を逸脱した時に人体にどのような反応が起きるのかを学習、理解し、本授業終了時には各々の説明ができるようになる。

※実務者経験:2014年～2017年 有限会社白龍堂 訪問リハビリマッサージジオアシスにて訪問鍼灸治療に従事していた。(病理学に基づく鍼灸治療)

【到達目標】

病気、疾病の基本的な知識を修得し、病気に対する基礎的な理解を深める。また、疾病に関して医療関係者と情報交換できる程度の知識の修得と、一般の方にわかりやすく説明できるようになる。

<具体的な目標>

目標①疾病を引き起こす原因を理解し、情報としてキャッチできるようになる。

目標②各疾病について理解し、わかりやすく説明できるようになる。

授業計画・内容

1回目	炎症性疾患について説明できる①
2回目	炎症性疾患について説明できる②
3回目	炎症性疾患について説明できる③
4回目	腫瘍について説明できる①
5回目	腫瘍について説明できる②
6回目	腫瘍について説明できる③
7回目	免疫異常について説明できる①
8回目	免疫異常について説明できる②
9回目	免疫異常について説明できる③
10回目	先天性異常について説明できる①
11回目	先天性異常について説明できる②
12回目	先天性異常について説明できる③
13回目	炎症、腫瘍、免疫異常、先天性異常について再確認し、よりわかりやすく説明できるようになる
14回目	循環障害、退行性病変、進行性病変について再確認し、よりわかりやすく説明できるようになる
15回目	期末試験

準備学習
時間外学習
目標①解剖学、生理学について理解、予習が必要です
目標②各単元ごとに小テストを行いますので、講義の復習が必要です

評価方法
授業内容理解の確認小テストを4回実施する。
定期テストにて知識の到達評価を行う。
●小テスト(40%)
●定期テスト(60%)
割合で成績評価を行う。

受講生への
メッセージ
臨床で患者からよく聞かれることは病気に関する情報で、それについて正しい返答することが患者との信頼形成において重要になります。
その他、疾病につながる情報を逃さずキャッチできるように、何が異常なのかを理解することは大切です。
国試だけでなく、その後の臨床を見据えて勉強しましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書:滝澤登一郎・島山茂著 病理学概論 医歯薬出版
 参考書:岩田隆子監修 わかりやすい病理学 南江堂

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	東洋医学臨床論①	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	重留 藍子
	Traditional Chinese Medicine Clinical Theory	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30	実務経験	○
コース	午前集中・美容スポーツ				1	開講区分	1セメ
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>実際の臨床では患者の訴えをもとに弁証を立てていく必要がある。 1年次に学んだ東洋医学概論をもとに、中医学の考えをさらに深め、疾患ごとに弁証を立てることが出来るようになり、説明を行うことが出来るようになる。</p> <p>実務経験:2012年～2014年 品川整骨院にて鍼灸治療に従事していた。(東洋医学に基づく鍼灸治療)</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>治療原則、配穴法を学び、頭痛からめまいまでの弁証を理解し、自分で弁証を立てることが出来る。また、関連する国家試験の過去問を解き、どのような出題がされているか自分で分析することが出来るようになる。 毎回:問例題を挙げ、弁証をたてていく。 <具体的な目標> 目標①臓腑の生理作用・生理特性を述べることが出来る。 目標②頭痛からめまいまでの弁証を立てることが出来るようになる。 目標③国家試験の過去問を解き、4択問題が解けるようになる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	陰陽の復習、教科書(プライマリケア・リスク管理)
2回目	五行の復習、教科書(治療原則・補瀉)
3回目	気の復習、教科書(痛みの評価・POMR)
4回目	気の復習、教科書(選穴法)
5回目	血の復習、教科書(経穴)
6回目	血の復習、眼精疲労の病証について理解することができる
7回目	津液の復習、眼精疲労の弁証を立てることが出来る
8回目	陰陽の復習、気分障害の病証を理解することができる
9回目	気分障害の弁証を立てることが出来る
10回目	めまいの病証を理解することができる
11回目	めまいについて弁証を立てることが出来る
12回目	動悸息切れの病証を理解できる
13回目	動悸息切れの弁証を立てることが出来る
14回目	期末試験
15回目	解説
準備学習 時間外学習	<p>目標①前提:この授業を受けるには、1年次の東洋医学概論の理解が不可欠です。また、四診について予習が必要です。 目標②弁証の立て方を毎回復習する事が必要です 目標③毎回の授業の最後に提出してもらったプリントは最低限の暗記内容です。国家試験も見据えて早めに暗記していきましょう。 配布した冊子は忘れないように持ってきてください。</p>
評価方法	<p>定期試験では知識の到達評価を行う。 ●期末試験(74点) ●提出物(26点)</p>
受講生への メッセージ	<p>魅力:1年次暗記するだけで大変だった東洋医学概論の知識を応用して、実際の患者に対しどのように弁証を立てていくかを学んでいく授業です。弁証を立てることが出来る、患者に対しどのような治療を行っていくべきかがはっきりとし、説明をすることが出来るようになります。 授業計画:自分で弁証を立てていきます。1年次に理解できなかったことも仲間と話すことで少しずつ理解していくことが出来ます。授業は欠席しないようにして下さい。</p>
【使用教科書・教材・参考書】	
<p>教科書:東洋医学臨床論 鍼灸編:社団法人 東洋療法学校協会編 医道の日本社出版 新版 東洋医学概論:社団法人 東洋療法学校協会編 医道の日本社出版 新版 経絡経穴概論:社団法人 東洋療法学校協会編 医道の日本社出版</p>	

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	東洋医学臨床論②	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	重留 藍子
	Traditional Chinese Medicine Clinical Theory	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	実務経験	○
コース	午前集中・美容スポーツ					開講区分	2セメ
						曜日・時限	

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
 実際の臨床では患者の訴えをもとに弁証を立てていく必要がある。
 1年次に学んだ東洋医学概論をもとに、中医学の考えをさらに深め、疾患ごとに弁証を立てることが出来るようになり、説明を行うことが出来るようになる。
 実務経験:2012年～2014年 品川整骨院にて鍼灸治療に従事していた。(東洋医学に基づく鍼灸治療)

【到達目標】
 治療原則、配穴法を学び、睡眠障害から呼吸困難までの弁証を理解し、自分で弁証を立てることが出来る。また、関連する国家試験の過去問を解き、どのような出題がされているか自分で分析することが出来るようになる。
 毎回1問例題を学べ、弁証をたてていく。
 <具体的な目標>
 目標①臓腑の生理作用・生理特性を述べる事が出来る。
 目標②睡眠障害から呼吸困難までの弁証を立てることが出来、治療穴を選ぶことが出来る。
 目標③国家試験の過去問を解き、4択問題が解けるようになる。

授業計画・内容	
1回目	肝の復習、血圧異常の病証を理解することができる
2回目	心の復習、血圧異常の弁証を立てることが出来る
3回目	脾の復習、睡眠障害の病証を理解し、弁証を立てることが出来る
4回目	肺の復習、睡眠障害の弁証を立てることが出来る
5回目	腎の復習、食欲不振の病証を理解することが出来る
6回目	六腑の復習、肥満の病証を理解することができる
7回目	病因の復習、肥満の弁証を立てることが出来る
8回目	病因の復習、やせについて病証を理解し、弁証を立てることが出来る
9回目	悪心嘔吐の病証を理解することができる
10回目	悪心嘔吐の弁証を立てることが出来る
11回目	便秘の病証を理解することができ、弁証を立てることが出来る
12回目	下痢の病証を理解し、弁証を立てることが出来る
13回目	歯痛の病証を理解し、弁証を立てることが出来る
14回目	血圧異常から歯痛までの病証を理解し、弁証を立てることが出来る
15回目	期末試験
準備学習 時間外学習	目標①前提:この授業を受けるには、1年次の東洋医学概論の理解が不可欠です。また、四診について予習が必要です。 目標②弁証の立て方を毎回復習する事が必要です 目標③毎回の授業の最後に提出してもらったプリントは最低限の暗記内容です。国家試験も見据えて早めに暗記していきましょう。 配布した冊子は忘れないように持ってきてください。
評価方法	定期試験では知識の到達評価を行う。 ●期末試験(74点) ●提出物(26点)
受講生への メッセージ	魅力 1年次暗記するだけで大変だった東洋医学概論の知識を応用して、実際の患者に対しどのように弁証を立てていくかを学んでいく授業です。弁証を立てることが出来る、患者に対しどのような治療を行っていくべきかがはっきりとし、説明をすることが出来るようになります。 授業計画:自分で弁証を立てていきます。1年次に理解できなかったことも仲間と話すことで少しずつ理解していくことが出来ます。授業は欠席しないようして下さい。
【使用教科書・教材・参考書】	
教科書:東洋医学臨床論 鍼灸編 社団法人 東洋療法学校協会編 医道の日本社出版 新編 東洋医学概論 社団法人 東洋療法学校協会編 医道の日本社出版 新編 経絡経穴概論 社団法人 東洋療法学校協会編 医道の日本社出版	

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	東洋医学臨床論③	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	重留 藍子
	Traditional Chinese Medicine Clinical Theory					実務経験	○
コース	午前集中・美容スポーツ	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	開講区分 曜日・時限	3セメ
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) 実際の臨床では患者の訴えをもとに弁証を立てていく必要がある。 1年次に学んだ東洋医学概論をもとに、中医学の考えをさらに深め、疾患ごとに弁証を立てることが出来るようになり、説明を行うことが出来るようになる。 実務経験:2012年～2014年 品川整骨院にて鍼灸治療に従事していた。(東洋医学に基づく鍼灸治療)</p>							
<p>【到達目標】 肩こりからスポーツ障害までの弁証を理解し、自分で弁証を立てることが出来る。また、関連する国家試験の過去問を解き、どのような出題がされているか自分で分析することが出来るようになる。</p> <p><具体的な目標> 目標①臓腑の生理作用・生理特性を述べる事が出来る。 目標②肩こりからスポーツ障害までの弁証を立てることが出来るようになる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	舌診の復習、咳嗽の病証を理解することが出来る
2回目	聞診の復習、咳嗽の4択を解くことが出来る、呼吸困難の病証を理解することが出来る
3回目	経絡の病理の復習、呼吸困難の4択を解くことができる、鼻閉鼻汁の病証を理解することができる
4回目	脈診の復習、鼻閉鼻汁の4択を解くことができる、脱毛の病証を理解することができる
5回目	六十九難の復習、脱毛の4択を解くことができる、耳鳴り難聴の病証を理解することができる
6回目	九刺の復習、耳鳴り難聴の4択を解くことができる、排尿障害の病証を理解することができる
7回目	十二刺の復習、排尿障害の4択を解くことができる、EDの病証を理解することができる
8回目	五刺・弁証の復習、EDの4択を解くことができる
9回目	疲労倦怠感・発熱の病証を理解し、4択を解くことができる
10回目	冷え・のぼせの病証を理解し、4択を解くことができる
11回目	浮腫・掻痒感の病証を理解し、4択を解くことができる
12回目	顔面麻痺・歩行異常の病証を理解し、4択を解くことができる
13回目	口渴・出血傾向の病証を理解し、4択を解くことができる
14回目	咳嗽から出血傾向までの病証を理解し、弁証を立てることが出来る
15回目	期末試験
準備学習 時間外学習	目標①前提:この授業を受けるには、1年次の東洋医学概論の理解が不可欠です。また、四診について予習が必要です。 目標②弁証の立て方を毎回復習する事が必要です 目標③毎回の授業の最後に提出してもらったプリントは最低限の暗記内容です。国家試験も見据えて早めに暗記していきましょう。 配布した冊子は忘れないように持ってきてください。
評価方法	定期試験では知識の到達評価を行う。 ●期末試験(74点) ●提出物(26点)
受講生への メッセージ	魅力:1年次暗記するだけで大変だった東洋医学概論の知識を応用して、実際の患者に対しどのように弁証を立てていくかを学んでいく授業です。弁証を立てることが出来る、患者に対しどのような治療を行っていくべきかがはっきりとし、説明をすることが出来るようになります。 授業計画:自分で弁証を立てていきます。1年次に理解できなかったことも仲間と話すことで少しずつ理解していくことが出来ます。授業は欠席しないようにして下さい。
【使用教科書・教材・参考書】	
教科書:東洋医学臨床論 鍼灸編:社団法人 東洋療法学校協会編 医道の日本社出版 新版 東洋医学概論:社団法人 東洋療法学校協会編 医道の日本社出版 新版 経絡経穴概論:社団法人 東洋療法学校協会編 医道の日本社出版	

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	東洋医学概論⑤ Traditional Chinese Medicine Clinical Theory	必修 選択	必修	年次	2	担当教員 実務経験	永田 周平 ○
	コース	午前集中・美容スポーツ	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	開講区分 曜日・時限

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
 多角的な全人的医療が求められる現代社会において、東洋医学に対する期待も年々高まってきている。中国古代医学が体系化された東洋医学の基本的な考え方をもとに東洋医学としての診断治療システムを中心に学んでいく。四診法から弁証論治までの過程を理解し、実践することにより習得していく。

※実務者経験:実務経験:2007年より「あきほ整骨院」にて鍼灸治療に従事し、現在は「こひろ鍼灸治療院」にて在籍。(東洋医学に基づいた鍼灸治療)

【到達目標】
 今までに学んできた東洋医学の基礎知識をもとに四診法を学び、さらにそれを弁証論治へとつなげていく。実践型の講義を通じて、四診法の技術を磨き、より精度の高い弁証力を習得する。講義終了時には、東洋医学臨床論や実技講義により身に付けた治療方法・治療技術とともに、最低限の東洋医学的な診断から実際の治療へとつなげることができるようになる。

〈具体的な目標〉
 (目標①)東洋医学的診察方法(四診法)によって得られる所見をしっかりと理解した上で、病態を弁別することが出来る(弁証)
 (目標②)様々な弁証方法によって得られた証に対して、最も適した治療穴を選択し、その選穴理由を説明することが出来る(論治)
 (目標③)様々な弁証方法によって得られた証に対して、最も適した治療穴を選択し、各々の穴に対する鍼灸の伝統的治療法を説明することが出来る。

授業計画・内容	
1回目	(目標①)東洋医学的診断として四診を包括的に判断する弁証の全体像を学び、その過程について説明することが出来る。
2回目	(目標①)東洋医学的診断として基礎弁証となる八綱弁証について学び、病態をそれぞれ説明することが出来る。
3回目	(目標①)東洋医学的診断として気血津液弁証について学び、病態をそれぞれ説明することが出来る。
4回目	(目標①)東洋医学的診断として気血津液弁証について学び、病態をそれぞれ説明することが出来る。
5回目	(目標①)東洋医学的診断として臟腑弁証①について学び、病態をそれぞれ説明することが出来る。
6回目	(目標①)東洋医学的診断として臟腑弁証②について学び、病態をそれぞれ説明することが出来る。
7回目	(目標①)東洋医学的診断として経絡弁証・六淫弁証・六経弁証について学び、病態をそれぞれ説明することが出来る。
8回目	(目標①)東洋医学的診断として衛氣營血弁証・三焦弁証について学び、病態をそれぞれ説明することが出来る。
9回目	(目標②)弁証に従って行う治療(論治)に必要な治療原則(治則)について学び説明することが出来る。
10回目	(目標②)弁証に従って行う治療(論治)に必要な治療方法(八法)について学び説明することが出来る。
11回目	(目標②)弁証に従って行う治療(論治)に必要な治療方法(生植物質の病証・臟腑病証に対する治法)について学び説明することが出来る。
12回目	(目標②)弁証に従って行う治療(論治)に必要な治療方法(外感病・症候に対する治法)について学び説明することが出来る。
13回目	(目標③)弁証に従って行う治療(論治)に必要な鍼灸の治療法の概要について学び説明することが出来る。
14回目	(目標③)弁証論治の進め方と証の決定に関して復習を行う。
15回目	期末試験
準備学習 時間外学習	(目標①)配布プリントや教科書を読んで、あらかじめの予習が望ましい。
評価方法	1年次に習得した東洋医学概論の基礎知識が本講義には必要不可欠ですので、期末試験にて問うことがあります。 ●定期テスト(100%) 割合で成績評価を行う。
受講生への メッセージ	1年生で学んだ東洋医学概論の知識を使って、いよいよ臨床で活かせる診察法の授業に入ります。五感を研ぎ澄まして、身体が発するメッセージを理解できるようになれるよう頑張りましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
教科書 東洋医学概論教科書(新版 東洋医学概論)、配布プリント	

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	総合領域④(神経) Synthesis Realms	必修 選択	必修	年次	2	担当教員 実務経験	笠原 拓実 ○
コース	午前集中・美容スポーツ	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	開講区分 曜日・時限	3セメ
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) 解剖生理学の中の神経系に関して、神経の場所、機能を学習していく。画像や映像を使用しながら授業を進めていく。 実務経験:2020年から2024年まで鍼灸接骨院にて勤務。現在に至る。(現代鍼灸医学に基づく鍼灸治療)</p>							
<p>【到達目標】 身体における中枢神経・末梢神経について理解し、国家試験問題に対応できる知識を獲得する。</p>							

授業計画・内容	
1回目	骨格筋の構造と働きについて理解できる。
2回目	アクテンとミオシンについて理解できる。
3回目	興奮収縮連関について理解できる。
4回目	等尺性収縮、等張性収縮について理解できる。
5回目	単収縮と強縮について理解できる。
6回目	筋のエネルギー代謝のしくみについて理解できる。
7回目	骨格筋の神経支配について理解できる。
8回目	伸張反射、屈曲反射について理解できる。
9回目	交叉性伸屈反射について理解できる。
10回目	皮膚反射について理解できる。
11回目	脳幹・小脳による運動調節について理解できる。
12回目	大脳基底核・大脳皮質による運動調節について理解できる。
13回目	脳体路系について理解できる。
14回目	脳体外路系について理解できる。
15回目	期末試験
準備学習 時間外学習	毎回の授業の復習が重要になるのでしっかり復習を行ってください。
評価方法	●期末テスト(90%) ●小テスト(10%)
受講生への メッセージ	医療の礎となる科目になります。覚えなければならぬことは非常に多いと思います。国家試験でもとても大切になるところなので、講義を聴いて理解する、学習したことを整理するなど習慣的にやれるようになると学習内容が知識として定着していきます。一緒にがんばっていきましょう。
<p>【使用教科書・教材・参考書】配布資料にてすすめる。</p> <p>解剖学、生理学 (医歯薬出版株式会社 社団法人 東洋療法学校協会編)</p>	

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	経絡経穴概論④ <small>Outline of the Meridian and Acupuncture Points</small>	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	福島 美沙紀
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30	実務経験	○
コース	午前集中・美容・スポーツ				1	開講区分 曜日・時限	1セメ

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
 経絡経穴概論は鍼灸師として働いていくために必要不可欠な教科と言える。
 この経絡経穴概論④の授業では、経絡経穴概論①から③までの知識をもとに、手にある経穴の取穴が出来るようになる。
 ※実務者経験:「にしお鍼灸院」(2018年5月～2020年3月)・「good鍼灸院」(2018年5月～2020年2月)にて、東洋医学的理論に基づく鍼灸治療を行っていた。

【到達目標】
 十二経絡の概要、流注、接続部、経穴の概要を学び、すべての五要穴・五俞穴を暗記を行う。また足の少陰腎経から足の厥陰肝経までの経穴を記することが出来、全経絡を10分で暗唱することが出来るようになる。
 <具体的な目標>
 目標①足の少陽胆経の経穴名を記することが出来る
 目標②要穴表全てを暗記出来る。
 目標③奇経八脈の概要を説明することが出来る。
 目標④奇穴の名前と主治が理解できる

授業計画・内容

1回目	足の少陽胆経の概要を説明することが出来る
2回目	足の少陽胆経を記することが出来る
3回目	足の少陽胆経を記することが出来る
4回目	足の少陽胆経の要穴を取穴することが出来る
5回目	足の少陽胆経を暗唱しながら場所を示すことが出来る
6回目	足の厥陰肝経の概要を説明することが出来る
7回目	足の厥陰肝経を記することが出来る
8回目	足の厥陰肝経の要穴を取穴することが出来、暗唱しながら場所を示すことが出来る
9回目	中間試験、奇経八脈の概要を説明することが出来る
10回目	奇経八脈の概要を説明することが出来る
11回目	奇穴を記することが出来る
12回目	奇穴を記することが出来る
13回目	奇穴を記することが出来る
14回目	現代的研究について暗記することが出来る
15回目	期末試験
準備学習 時間外学習	目標①前提:この授業を受けるには、手にある経絡・経穴を全て暗記していることが前提です。 また、漢字で記することが出来るよう自習を行うことが必要です。 目標②要穴表全てを復習する事が必要です。
評価方法	期末テストにて知識の到達評価を行う。 ●期末試験(100%)
受講生への メッセージ	魅力:経絡経穴概論は鍼灸師しか勉強する事が出来ない科目です。このような疾患にはこの経穴を使うとよいなどの知識を得ることもできます。将来患者さんになぜこの経穴を使うのか説明することが出来るようになる為、身に着けるべき知識のひとつです。 授業計画 内容がとて多く総復習のような試験になりますので試験対策あ早めに取り掛かってください。

【使用教科書・教材・参考書】
 科書:新版 経絡経穴概論 第2版:日本理療科教員連盟 公益社団法人 東洋療法学校協会編 医道の日本社出版
 参考書:経穴インパクト:原田晃著 医道の日本社出版
 針灸学(経穴篇) 日中共同編集 東洋学術出版社

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	解剖生理学(内分泌系)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	姪原 裕子
	Anatomical Physiology	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30	実務経験	○
コース	午前・美容・スポーツ					開講区分	1セメ
						曜日・時限	

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

鍼灸では、人体に直接触れ、施術を行うため、無知な状態で施術を行えば人体を傷つける可能性もある。そのため施術する身体の部位やその奥にある臓器がどのような構造で、どのように働いているのかという知識が必要となる。また、臨床医学各論や他科目で疾患について理解する際にも、身体の構造や働きについての知識が必要で、その第一歩が解剖学生理学である。全ての医療知識に繋がる基礎理論として理解必要がある。解剖生理学では人体の基本的な構造や働きについて理解していく。

本講義では、解剖生理学の中でも2分野に絞って進めていくのだが、臨床医学各論に直結する重要な基礎理論でもある。

・内分泌系の構造と働き・血液の組成と働き□

□

※実務経験: 訪問治療を中心に行っており、2022年8月「姪原鍼灸院」を開業□

□

【到達目標】

- ・ 内分泌総論(ホルモンの種類、機能)
- ・ 内分泌器(臓器構造、分泌ホルモン)についての知識を修得する。
- ・ 血液の組成と働きの基礎知識を修得する。

<具体的な目標>

- 目標① ホルモンの種類と働きについて説明できる。
- 目標② 各臓器の構造とそこから分泌されるホルモンの名称・働きについて説明できる。
- 目標③ 血液の成分・働きについて説明できる。

授業計画・内容

1回目	内分泌とは何か(ホルモンの特徴・種類) : (目標①)ホルモンの種類と働きについて説明できる。
2回目	下垂体前葉と視床下部のホルモン : (目標②)各臓器の構造とそこから分泌されるホルモンの名称・働きについて説明できる。
3回目	下垂体後葉と松果体のホルモン : (目標②)各臓器の構造とそこから分泌されるホルモンの名称・働きについて説明できる。
4回目	甲状腺と副甲状腺(上皮小体)のホルモン : (目標②)各臓器の構造とそこから分泌されるホルモンの名称・働きについて説明できる。
5回目	副腎皮質のホルモン : (目標②)各臓器の構造とそこから分泌されるホルモンの名称・働きについて説明できる。
6回目	副腎髄質のホルモン : (目標②)各臓器の構造とそこから分泌されるホルモンの名称・働きについて説明できる。
7回目	睪腺と性腺(男性)のホルモン : (目標②)各臓器の構造とそこから分泌されるホルモンの名称・働きについて説明できる。
8回目	性腺(女性)のホルモン : (目標②)各臓器の構造とそこから分泌されるホルモンの名称・働きについて説明できる。
9回目	性腺(女性)とその他のホルモン : (目標②)各臓器の構造とそこから分泌されるホルモンの名称・働きについて説明できる。
10回目	血液の組成と働き(血球) : (目標③)血液の成分・働きについて説明できる。
11回目	血液の組成と働き(血球と血漿) : (目標③)血液の成分・働きについて説明できる。
12回目	止血(血液凝固) : (目標③)血液の成分・働きについて説明できる。
13回目	止血(線維素溶解・血液型) : (目標③)血液の成分・働きについて説明できる。
14回目	期末試験
15回目	期末試験の解答と解説
準備学習 時間外学習	知識の定着には繰り返しの学習が必要です。 習った範囲については、常に復習することを心がけ知識を短期記憶から長期記憶にできるようにしていきます。
評価方法	学期末テストにて知識の到達評価を行う。 ●定期試験(100%) の割合で成績評価を行う。
受講生への メッセージ	臨床で必要な基礎の勉強になります。慣れない言葉が多いですが、頑張ってください。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書: 河野 邦雄 伊藤 隆造 坂本 裕和 前島 徹 穂口 柱 著「解剖学 第2版」 医歯薬出版株式会社
 教科書: 内田 さえ 原田 裕子 著「生理学 第3版」 医歯薬出版株式会社

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	解剖生理学(神経)	必修 過状	必修	年次	2	担当教員	笠原 拓実
	Anatomical Physiology	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30	実務経験	○
コース	午前集中・美容スポーツ				1	開講区分	1セメ
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) 解剖生理学の中の神経系に関して、神経の場所、機能を学習していく。画像や映像を使用しながら授業を進めていく。</p> <p>実務経験: 2020年から2024年まで鍼灸接骨院にて勤務。現在に至る。(現代鍼灸医学に基づく鍼灸治療)</p>							
<p>【到達目標】 身体における中枢神経・末梢神経について理解し、国家試験問題に対応できる知識を獲得する。</p>							

授業計画・内容	
1回目	神経系の構造について理解できる。
2回目	脊髄について理解できる。
3回目	延髄について理解できる。
4回目	橋について理解できる。
5回目	中脳について理解できる。
6回目	小脳について理解できる。
7回目	間脳について理解できる。
8回目	大脳について理解できる。
9回目	脳室系について理解できる。
10回目	髄膜・脳脊髄液について理解できる。
11回目	脳の血管について理解できる。
12回目	伝導路の反射路について理解できる。
13回目	下行性伝導路について理解できる。
14回目	上行性伝導路について理解できる。
15回目	期末試験
準備学習 時間外学習	毎回の授業の復習が重要になるのでしっかり復習を行ってください。
評価方法	●期末テスト(80%) ●小テスト(10%)
受講生への メッセージ	医療の礎となる科目になります。覚えなければならぬことは非常に多いと思います。国家試験でもとても大切になるところなので、講義を聴いて理解する、学習したことを整理するなどを習慣的にやれるようになると学習内容が知識として定着していきます。一緒にがんばっていきましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 配布資料にてすすめる。	
解剖学, 生理学 (医歯薬出版株式会社 社団法人 東洋歯法学校協会編)	

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	解剖生理学(神経) Anatomical Physiology	必修 選択	必修	年次	2	担当教員 実務経歴	笠原 拓実 ○
コース	午前集中・美容スポーツ	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	開講区分 曜日・時限	2セメ
<p>【授業の学習内容】(※実務経歴のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) 解剖生理学の中の神経系に関して、神経の場所、機能を学習していく。画像や映像を使用しながら授業を進めていく。 実務経歴: 2020年から2024年まで鍼灸接骨院にて勤務。現在に至る。(現代鍼灸医学に基づく鍼灸治療)</p>							
<p>【到達目標】 身体における中枢神経・末梢神経について理解し、国家試験問題に対応できる知識を獲得する。</p>							

授業計画・内容	
1回目	脳神経のⅠ～Ⅶ脳神経について理解できる。
2回目	脳神経のⅧ～Ⅹ脳神経について理解できる。
3回目	脳神経の神経核と神経線維の種類について理解できる。
4回目	脊髄神経について理解できる。
5回目	脊髄神経の根神経について理解できる。
6回目	胸神経、腰神経叢、坐骨神経叢について理解できる。
7回目	坐骨神経について理解できる。
8回目	静止膜電位について理解できる。
9回目	興奮の伝達について理解できる。
10回目	神経伝達物質について理解できる。
11回目	反射弓について理解できる。
12回目	脳幹反射について理解できる。
13回目	自律神経について理解できる。
14回目	自律神経の調節について理解できる。
15回目	期末試験
準備学習 時間学習	毎回の授業の復習が重要になるのでしっかり復習を行ってください。
評価方法	●期末テスト(90%) ●小テスト(10%)
受講生への メッセージ	医療の礎となる科目になります。覚えなければならぬことは非常に多いと思います。国家試験でもとても大切になるところなので、講義を聴いて理解する、学習したことを整理するなど習慣的にやれるようになると学習内容が知識として定着していきます。一緒にがんばっていきましょう。
【使用教科書・教材・参考書】配布資料にてすすめる。	
解剖学、生理学 (医歯薬出版株式会社 社団法人 東洋療法学校協会編)	

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	解剖生理学(感覚器) Anatomical Physiology	必修 選択	必修	年次	2	担当教員 実務経験	平山 結成 ○
コース	午前集中・美容スポーツ	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	開講区分 曜日・時限	2セメ
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) 鍼灸師に必要な解剖生理学(感覚器)の基礎分野になります。教科書に沿ったプリントを配布します。絵や図で分からないところは模型を使って説明。毎回授業の始まりに、復習を兼ねて小テストを実施。解剖学・生理学のおわりに国家試験の過去問を解いてもらいます。 感覚器は視覚、聴覚などの感覚に加え、皮膚の感覚、内臓の感覚などあります。音程何気なく見ているものや、聞いている音などがどのようにして脳に伝わるかなどを勉強していく授業になります。</p> <p>※実務経験: 2018年から2020年まで沖縄総合医療学院付属鍼灸院にて勤務。現在に至る。(中医学・現代鍼灸医学に基づく鍼灸治療)</p>							
<p>【到達目標】 感覚器とは何かを理解・説明できるようになる</p> <p>〈具体的な目標〉 ①感覚器(視覚器、味覚器など)の種類を言えるようになる ②それぞれの感覚を受け取るそこから脳への経路を言えるようになる ③各部位の名前と働きを覚える</p>							

授業計画・内容	
1回目	(講義)解剖生理学 感覚器の総論①(分類と一般的性質)
2回目	(講義)解剖生理学 感覚器の総論②(体性感覚と伝導路)
3回目	(講義)解剖生理学 感覚器の総論③(内臓感覚と痛覚)
4回目	(講義)解剖生理学 味覚、嗅覚の構造、性質
5回目	(講義)解剖生理学 聴覚器の構造①(聴覚器と伝導路)
6回目	(講義)解剖生理学 聴覚器の構造②(平衡感覚)
7回目	(講義)解剖生理学 視覚器の構造①(眼球の構造と機能)
8回目	(講義)解剖生理学 視覚器の構造②(遠近調節、明るさ調節)
9回目	(講義)解剖生理学 視覚器の構造③(視野、眼球運動)
10回目	(講義)解剖生理学 視覚器の構造④(視覚の伝導路)
11回目	(講義)解剖生理学 感覚器国家試験演習①
12回目	(講義)解剖生理学 感覚器国家試験演習②
13回目	(講義)解剖生理学 感覚器国家試験演習③
14回目	期末試験
15回目	期末試験解説
準備学習 時間外学習	知識の定着には繰り返し学習が必要です。 習った範囲については、常に復習することを心がけ知識を短期記憶から長期記憶にできるようにしていきましょう。 また国家試験対策も併用して実施していきます。
評価方法	学期末テストにて知識の到達評価を行う。 ●定期試験(90%)、小テスト(10%) の割合で成績評価を行う。
受講生へのメッセージ	神経系は学生みんなが苦手としている分野になります。覚えることが複雑で大変ですが頑張っていきましょう
【使用教科書・教材・参考書】	
教科書: 河野 邦雄 伊藤 隆造 坂本 裕和 前島 徹 樋口 桂 著「解剖学 第2版」 医歯薬出版株式会社 教科書: 内田 さえ 原田 玲子 著「生理学 第3版」 医歯薬出版株式会社	

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	リハビリテーション	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	白木 芳弘
	Rehabilitation Medicine	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	実務経験	○
コース	午前集中・美容スポーツ					開講区分	1セメ
						曜日・時限	

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

リハビリテーション医学は、リハビリテーションを医学的側面から進めるための学問です。①リハビリテーションの総論を理解し、②各疾患ごとのリハビリテーションについて具体的内容を理解し、③リハビリテーション医学の基礎となる運動学を理解する。正しいリハビリテーション知識を身につけ、障害をもつ患者のために役立ち、社会に貢献することを目指します。

※実務経験

2011年～2021年:医療法人 中村整形外科医院で理学療法士としてリハビリ業務に従事
2021年～:白木整骨院、はる風整骨院ハルマチ(現代治療)

【到達目標】

<具体的な目標>

- 目標① リハビリテーション医学の国家試験の過去問題の正答率が80%を超える。
- 目標② 西洋医学における疾患の捉え方を理解できる。
- 目標③ リハビリテーションの成り立ちと各種障害の評価方法が理解できる。
- 目標④ 各疾患別のリハビリテーションの流れが理解できる。

授業計画・内容

1回目	リハビリテーションと障害 (リハビリテーションの理念)
2回目	リハビリテーションと障害 (ICIDHとICF)
3回目	リハビリテーション医学と医療 (リハビリテーション医学の概念とチームアプローチ)
4回目	リハビリテーション医学と医療 (リハビリテーションの進め方、地域ケア、地域リハビリテーション)
5回目	医学的リハビリテーション (評価:周径、ROM)
6回目	医学的リハビリテーション (評価:MMT)
7回目	医学的リハビリテーション (評価:中枢神経、失調症)
8回目	医学的リハビリテーション (ADL、その他の障害評価)
9回目	医学的リハビリテーション (廃用症候群)
10回目	医学的リハビリテーション (理学療法における運動療法、歩行訓練)
11回目	医学的リハビリテーション (理学療法における物理療法、作業療法、言語療法)
12回目	医学的リハビリテーション (装具療法)
13回目	脳卒中のリハビリテーション
14回目	脳卒中のリハビリテーション
15回目	1セメ期末試験

準備学習
時間外学習

解剖学、生理学、運動学の理解が必要です。配布プリント、各回に行う過去問で復習していきましょう。

評価方法

定期試験(100%)
上記に加え、授業点を上記に加点形式で行います。

受講生への
メッセージ

この講義では西洋医学における疾患の捉え方を理解し、その症状、障害へのアプローチの一つであるリハビリテーションについて学んでいきます。近年の医療情勢において、鍼灸院のクライアントにもリハビリテーションを経験している方も多くなっています。クライアントの受けているリハビリテーションの理解を深めることは、より良い治療を見出すことに繋がります。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書:土肥 信之・出江 伸一・関 謙 著 「リハビリテーション医学 第4版」 医歯薬出版株式会社
講義プリント 各授業前に配布します。

2025年度 授業概要

学科： 鍼灸科

科目名 (英)	リハビリテーション Rehabilitation Medicine	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	白木 芳弘
	コース	午前集中・美容スポーツ	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	実務経験 開講区分 曜日・時限

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
 リハビリテーション医学は、リハビリテーションを医学的側面から進めるための学問です。①リハビリテーションの総論を理解し、②各疾患ごとのリハビリテーションについて具体的内容を理解し、③リハビリテーション医学の基礎となる運動学を理解する。正しいリハビリテーション知識を身につけ、障害をもつ患者のために役立ち、社会に貢献することを目指します。

※実務経験
 2011年～2021年：医療法人 中村整形外科医院で理学療法士としてリハビリ業務に従事
 2021年～：白木整骨院、はる風整骨院ハルマチ(現代治療)

【到達目標】
 <具体的な目標>
 目標① リハビリテーション医学の国家試験の過去問題の正答率が80%を超える。
 目標② 西洋医学における疾患の捉え方を理解できる。
 目標③ リハビリテーションの成り立ちと各種障害の評価方法が理解できる。
 目標④ 各疾患別のリハビリテーションの流れが理解できる。

授業計画・内容	
1回目	1セメの試験の解説、脊髄損傷のリハビリテーション(麻痺のタイプと残存機能)
2回目	脊髄損傷のリハビリテーション(ADL、損傷高位による移動手段の違い)
3回目	脊髄損傷のリハビリテーション(急性期、回復期のリハビリテーション、ケアとリスク管理)
4回目	切断のリハビリテーション
5回目	小児のリハビリテーション
6回目	骨関節疾患(五十肩、頸肩障害、腰痛)
7回目	骨関節疾患(変形性膝関節症、変形性股関節症、大腸骨頸部骨折、スポーツ傷害)
8回目	関節リウマチのリハビリテーション
9回目	末梢神経障害のリハビリテーション
10回目	パーキンソン病のリハビリテーション
11回目	呼吸器疾患のリハビリテーション
12回目	心疾患のリハビリテーション
13回目	運動のしくみ(運動学の基礎と身体各部の機能)
14回目	期末試験
15回目	2セメ試験解説
準備学習 時間外学習	解剖学、生理学、運動学の理解が必要です。配布プリント、各回に行う過去問で復習していきましょう。
評価方法	定期試験(100%) 上記に加え、授業点を上記に加点形式で行います。
受講生への メッセージ	この講義では西洋医学における疾患の捉え方を理解し、その症状、障害へのアプローチの一つであるリハビリテーションについて学んでいきます。近年の医療情勢において、鍼灸院のクライアントにもリハビリテーションを経験している方も多くなっています。クライアントの受けているリハビリテーションの理解を深めることは、より良い治療を見出すことに繋がります。
【使用教科書・教材・参考書】	
教科書：土肥 信之・出江 紳一・関 勝 著「リハビリテーション医学 第4版」 医歯薬出版株式会社	

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	はりきゅう理論②	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	片山 雄二
	Theory of Acupuncture and Moxibustion	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30	実務経験	○
コース	午前集中・美容スポーツ				1	開講区分	2セメ
						曜日・時限	

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
 整形外科病院等にて鍼灸治療に従事した教員が、この講義では鍼灸の治効理論について学習していく。治効理論を理解するためには神経生理学の基礎知識が必須となるため、表在感覚の伝導路や反射、自律神経についての復習を行いながら授業を進めていく必要がある。また、鍼灸でおこる鎮痛機構も改めて学習していく。本講義終了後には治効理論を基にした治療方法を構築できるようになり、鍼灸の治効のメカニズムを患者さんに対して簡潔に説明できるようになります。
 ※実務者経歴:2005年から2007年まで久我原整形外科病院にて勤務。2007年より開業。現在に至る。(解剖生理学に基づく鍼灸治療)

鍼を行った場合と灸を行った場合に生体にどのような変化、反応を起こすことができるかを理解したうえで、疾患に対する運用の計画が立てられるようになる。鍼灸による鎮痛機構や生体防御機構を発現する刺激量、刺激方法を考案できる。鍼灸による治効理論の知識を獲得し、患者に説明できるようになる。

授業計画・内容

1回目	鍼灸治効を理解するために必要な基礎知識 反射
2回目	鍼灸治効を理解するために必要な基礎知識 反射
3回目	鍼灸治効を理解するために必要な基礎知識 体性感覚と伝導路
4回目	鍼灸治効を理解するために必要な基礎知識 体性感覚と伝導路
5回目	鍼灸治効を理解するために必要な基礎知識 熱傷と炎症
6回目	鍼灸治効を理解するために必要な基礎知識 熱傷と炎症 トリガーポイント
7回目	鍼灸治効機序 鍼鎮痛(内因性痛覚抑制系)
8回目	鍼灸治効機序 鍼鎮痛(内因性痛覚抑制系)
9回目	鍼灸治効機序 循環系と鍼灸
10回目	鍼灸治効機序 循環系と鍼灸
11回目	鍼灸治効機序 運動系と鍼灸 消化器系と鍼灸 泌尿器系と鍼灸
12回目	鍼灸治効機序 リラクゼーションと鍼灸 生体防御系と鍼灸
13回目	鍼灸治効機序と臨床の接点 鍼灸刺激による治効機序
14回目	鍼灸治効機序と臨床の接点 鍼灸刺激による治効機序
15回目	期末テスト

準備学習
時間外学習
解剖生理学の神経系の復習が必要になります。整理して覚えていくことで国家試験の類出問題にも対応できるようになります。授業後にしっかりと復習をしてください。

評価方法
●小テスト(40%)
●定期テスト(60%)
割合で成績評価を行う。

受講生への
メッセージ
はりきゅうをすとなぜ痛みがなくなるのか、なぜ病気が治せるのかという疑問を解明していきます。勉強をしていくと鍼灸治療は神経系と密接に関わっていることが分かります。この授業の理解のためには解剖生理学の神経系の知識が必要です。復習を行いながら進んでいきますので神経の知識も身につけていきましょう。
 授業計画:この授業では学習した内容の範囲を次回の授業開始に小テストを行い確認します。授業内容の復習と整理をしておいてください。小テストは授業評価にもなりますので遅刻、欠席をしないようにしてください。

【使用教科書・教材・参考書】

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	はりきゅう実技(特殊鍼法) Acupuncture and Moxibustion Practical Skills	必修 選択	必修	年次	2	担当教員 実務経験	平山 絳成 ○
コース	午前集中・美容スポーツ	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 1	開講区分 曜日・時限	1セメ
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>この授業では1年次に修得した基礎をもとに、特殊鍼法について学んでいく。 臨床現場で治療を行っていくには様々な治療法を習得していることにより、自分の自信につながり、また患者にとって一番良い治療法を選ぶことが出来る。実際に自分で治療を受けることにより患者側の立場になることが出来、臨床の場に出た時より詳しく治療の効果や時には起こりうる副作用のようなものについてもしっかりと説明することが出来るようになる。</p> <p>実務経験:2018年から2020年まで沖縄統合医療学院付属鍼灸院にて勤務。現在に至る。(中医学・現代鍼灸医学に基づく鍼灸治療)</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>どの治療法についても基礎知識を習得し、スムーズに治療を行うことが出来るよう技術を習得する。 またその治療効果と起こりうる現象を体験し、患者に分かりやすく説明することが出来る。</p> <p><具体的な目標></p> <p>目標①吸角療法の適応と禁忌が理解し、実施することができる。 目標②様々な鍼・灸法を体験し、実施することができる。 目標③1年生で習った押手や切皮・弾入を見直し、スムーズかつ痛みがないように実施できる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	鍼の操作法の確認、腰部及び下腿太陽膀胱経筋の傍鍼刺について、切皮弾入の工夫について
2回目	灸の操作法の確認、手部及び足部の末端冷え症対しての瞬間押圧灸法と八分灸法について
3回目	腰部、仙骨部への様々な灸法(ショウガ灸、綿花灸、お椀灸など)、鍼と灸を併用した温陽疏通法について
4回目	吸角の基本操作①、鍼上留鍼法との併用について
5回目	吸角の基本操作②(黒舌と塩を使ったオリジナル吸角作成、連続抜管法)について
6回目	吸角の基本操作③炎龍連続吸角療法と解表法と温法について
7回目	中国鍼を用いた捻鍼法による下腿部、頭部の刺鍼について、 鍼通電療法の操作方法①について
8回目	鍼通電療法の基本的な方法②について(多裂筋、上部僧帽筋への鍼通電療法について)
9回目	奇経八脈を用いた運動鍼療法(急性腰部及び頸部捻挫について)
10回目	奇経八脈を用いた頭痛の治療について(頭部・前腕・足部への刺鍼)
11回目	奇経八脈を用いた婦人科疾患の治療について①(下腿部及び腹部への刺鍼と施灸)
12回目	奇経八脈を用いた婦人科疾患の治療について②(背部・腰部への刺鍼と吸角)
13回目	吸角の基本操作④(慢性腰痛症と集中傍鍼刺)
14回目	鍼灸療法と走鍼法を合わせた腹部へのアプローチ(ポイストラブルについて)
15回目	総まとめ
準備学習 時間外学習	1年生の基礎実技をベースに様々なやり方を実施します。特に押手や切皮・弾入時の違和感や痛みを出さないように基礎練習を忘れないように
評価方法	出席点 100点
受講生への メッセージ	様々な鍼灸の手法を行います。基本操作だけでなく臨床で使用する技術を実施します。実技は楽しんで受けて頂ければ幸いです。
【使用教科書・教材・参考書】	
適宜配布	

2025年度 授業概要

学 科：鍼灸科

科目名 (英)	はりきゅう実技(運動器疾患・検査)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	永田 周平
	Acupuncture and Moxibustion Practical Skills	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 1	実務経験	○
コース	午前集中・美容スポーツ					開講区分	1セメ
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動器疾患である腰下肢痛、頸上肢痛、肩関節痛、膝関節痛、肘関節痛に関する講義を行う。(鍼灸適応疾患、鑑別法、徒手検査、腱反射、治療方法など) ・担当教員による説明と模擬実技の後に、それぞれが実技練習を行う。教員が見回って指導していく。配布資料を基に講義していく。 ・ペア同士で練習する。お互いに痛みのチェックをして、技術を研鑽していく。 <p>実務経験:2007年より「あきば整骨院」内で鍼灸治療に従事。現在は「こひろ鍼灸治療院」に在籍。主に東洋医学に基づいた治療を行う</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・腰下肢痛、頸上肢痛、肩関節痛、膝関節痛、肘関節痛を引き起こす原因疾患や鍼灸の適応・不適応疾患を説明でき、それらを鑑別することができる。また、適切な治療部位(経穴)を設定し鍼灸施術を行うことができる。 ・施術後の評価を行うことができる。 							

授業計画・内容	
1回目	腰痛の原因疾患と鍼灸適応・不適応疾患について説明できる。症状による反応点に基づいた取穴ができ、鍼灸施術を行うことができる。
2回目	腰痛の治療を行う上で必要な検査法(徒手検査)を実践できる。症状による反応点に基づいた取穴ができ、鍼灸施術を行うことができる。
3回目	急性腰痛の治療を行う上で必要な対応や治療法を実践できる。椎間関節由来の腰痛に対する治療法を実践できる。
4回目	腰痛治療まとめ
5回目	腰下肢痛の原因疾患と鍼灸適応・不適応疾患について説明できる。症状による反応点に基づいた取穴ができ、鍼灸施術を行うことができる。
6回目	腰下肢痛の治療を行う上で必要な検査法(徒手検査)を実践できる。症状による反応点に基づいた取穴ができ、鍼灸施術を行うことができる。
7回目	腰下肢痛の治療を行う上で必要な検査法(腱反射)を実践できる。症状による反応点に基づいた取穴ができ、鍼灸施術を行うことができる。
8回目	腰下肢痛のまとめ
9回目	頸上肢痛の原因疾患と鍼灸適応・不適応疾患について説明できる。症状による反応点に基づいた取穴ができ、鍼灸施術を行うことができる。
10回目	頸上肢痛の治療を行う上で必要な検査法(徒手検査)を実践できる。症状による反応点に基づいた取穴ができ、鍼灸施術を行うことができる。
11回目	頸上肢痛の治療を行う上で必要な検査法(腱反射)を実践できる。症状による反応点に基づいた取穴ができ、鍼灸施術を行うことができる。
12回目	頸上肢痛のまとめ
13回目	腰痛、腰下肢痛、頸上肢痛に関わる徒手検査法のまとめ
14回目	定期テスト対策
15回目	定期テスト
準備学習 時間外学習	技術や知識を身につけるには授業時間だけでは足りません。必ず、自身で練習していきましょう。
評価方法	期末試験(100%) 内容:徒手検査と刺鍼技術について評価する
受講生への メッセージ	講義で説明する運動器疾患は鍼灸のニーズが多い疾患です。基礎となる知識と技術を身につけていきましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 配布プリント	

2025年度 授業概要

学 科：鍼灸科

科目名 (英)	臨床実習前実技試験対策 Clinical Practice Skills Lecture	必修 選択	必修	年次	2	担当教員 実務経験	藤崎 舞御 ○
コース	午前集中・美容・スポーツ	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 1	開講区分 曜日・時限	2セメ

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
 この授業では3年次に行われる臨床実習に向けて、1年次・2年次に修得した治療法や検査法を復習し、医療面接の練習を行っていく。
 臨床現場では医療面接のスキルや検査法、治療法の知識が問われるため、患者の病態を把握するために適切な医療面接や検査法を行うことは、非常に重要なことである。
 本授業終了時には医療面接から検査、治療に至るまでの一連の流れを把握出来るようになる。

※実務経験:2012年～2017年までixao鍼灸マッサージ整骨院に勤務、2018年～2019年までゼロスポ鍼灸整骨院に勤務。

【到達目標】
 医療面接のスキルを身につけ、接遇力を向上することが出来る
 また病態を正しく把握し、患者に分かりやすく説明することが出来る。
 <具体的な目標>
 目標①相手に不快感を与える事のない接遇力を身につける。
 目標②血圧測定・腱反射・徒手検査を正しい手順で出来るようになる。
 目標③医療面接から徒手検査を行い総合的に病態を把握することが出来るようになる。

授業計画・内容

1回目	医療面接とは何かについて理解する
2回目	医療面接を参考書を使用しながら実施することが出来る
3回目	医療面接を実施することが出来る
4回目	血圧測定を実行することが出来る
5回目	血圧測定と腱反射を実行することが出来る
6回目	頸椎神経根症・胸郭出口症候群に対する徒手検査を復習し、実行することが出来る
7回目	上肢に対する徒手検査を復習し、実行することが出来る
8回目	腰痛・股関節痛に対する徒手検査を復習し、実行することが出来る
9回目	膝痛に対する徒手検査を復習し、実行することが出来る
10回目	腹部・腰部の経穴に対し、直刺が出来る
11回目	上肢・下肢の経穴に対し、横刺・斜刺が出来る
12回目	上肢・下肢の経穴に対し、透熱灸と八部灸が出来る
13回目	医療面接・血圧測定・徒手検査を決められた時間内で実行できる
14回目	直刺・横刺・斜刺・透熱灸・八部灸を決められた時間内で実行できる
15回目	期末試験

準備学習
時間外学習

- ・この授業を受けるには、1・2年次に修得した実技の技術が大事です
- ・徒手検査法の復習が必要です
- ・医療面接や血圧測定など繰り返し復習が必要です

評価方法

●期末試験(医療面接と検査法)

受講生へのメッセージ

患者を治療するための病態・経過・生活を知るうえでとても重要になってきます。
 術者の些細な接遇によって患者へ安心感を与えたり不快感を与えます。
 自分がどのように患者と接するかを学び、覚悟してきた検査法でより正確な治療法を判断できるようになる大切な授業です。

【使用教科書・教材・参考書】

参考書:滋慶認定実技審査対応 ずっと使える!鍼灸臨床BOOK 株式会社 滋慶出版/つちや出版

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	はりきゅう実技(運動器疾患・検査Ⅱ) Acupuncture and Moxibustion Practical Skills	必修 選択	必修	年次	2	担当教員 実務経験	永田 周平 ○
	コース	午前集中・美容スポーツ	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 1	開講区分 曜日・時限
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動器疾患である膝下腰痛、頸上肢痛、肩関節痛、膝関節痛に関する講義を行う。(鍼灸適応疾患、鑑別法、徒手検査、腱反射、治療方法など) ・担当教員による説明と模擬実技の後に、それぞれが実技練習を行う。教員が見回って指導していく。配布資料を基に講義していく。 ・ペア同士で練習する。お互いに痛みのチェックをして、技術を研鑽していく。 <p>実務経験: 2007年より「あまほ整骨院」内で鍼灸治療に従事。現在は「こひろ鍼灸治療院」に在籍。主に東洋医学に基づいた治療を行う</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・膝下腰痛、頸上肢痛、肩関節痛、膝関節痛を引き起こす原因疾患や鍼灸の適応・不適応疾患を説明でき、それらを鑑別することができる。また、適切な治療部位(経穴)を設定し鍼灸施術を行うことができる。 ・施術後の評価を行うことができる。 							

授業計画・内容	
1回目	肩関節痛の原因疾患と鍼灸適応・不適応疾患について説明できる。症状による反応点に基づいた取穴ができ、鍼灸施術を行うことができる。
2回目	肩関節痛の治療を行う上で必要な検査法(徒手検査)を実践できる。症状による反応点に基づいた取穴ができ、鍼灸施術を行うことができる。
3回目	肩関節痛の治療を行う上で必要な検査法(腱反射)を実践できる。症状による反応点に基づいた取穴ができ、鍼灸施術を行うことができる。
4回目	肩関節痛のまとめ
5回目	膝関節痛の原因疾患と鍼灸適応・不適応疾患について説明できる。症状による反応点に基づいた取穴ができ、鍼灸施術を行うことができる。
6回目	膝関節痛の治療を行う上で必要な検査法(徒手検査)を実践できる。症状による反応点に基づいた取穴ができ、鍼灸施術を行うことができる。
7回目	膝関節痛の治療を行う上で必要な検査法(腱反射)を実践できる。症状による反応点に基づいた取穴ができ、鍼灸施術を行うことができる。
8回目	膝関節痛のまとめ
9回目	肘関節痛の原因疾患と鍼灸適応・不適応疾患について説明できる。症状による反応点に基づいた取穴ができ、鍼灸施術を行うことができる。
10回目	肘関節痛の治療を行う上で必要な検査法(徒手検査)を実践できる。症状による反応点に基づいた取穴ができ、鍼灸施術を行うことができる。
11回目	肘関節痛の治療を行う上で必要な検査法(腱反射)を実践できる。症状による反応点に基づいた取穴ができ、鍼灸施術を行うことができる。
12回目	肘関節痛のまとめ
13回目	肩関節痛、膝関節痛、肘関節痛に関わる徒手検査法のまとめ
14回目	定期テスト対策
15回目	定期テスト
準備学習 時間外学習	技術や知識を身につけるには授業時間だけでは足りません。必ず、自身で練習していきましょう。
評価方法	期末試験(100%) 内容: 徒手検査法と刺鍼技術について評価する
受講生への メッセージ	講義で説明する運動器疾患は鍼灸のニーズが多い疾患です。基礎となる知識と技術を身につけていきましょう。

【使用教科書・教材・参考書】 記布プリント

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	はりきゅう実技(中医鍼灸治療) <small>Acupuncture and Moxibustion Practical Skills</small>	必修 選択	必修	年次	2	担当教員 実務経験	重留 藍子 ○
	コース	午前集中・美容・スポーツ	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 1	開講区分 曜日・時限

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
この授業では1年次に修得した基礎をもとに、中医学的治療を中心に学んでいきます。また中医学治療②と同時に並行して授業を行っていきます。臨床現場で治療を行っていくには様々な治療法を習得していることにより、自分の自信につながり、また患者にとって一番良い治療法を選ぶことが出来ます。実際に自分で治療を受けることにより患者側の立場になることが出来、臨床の場に出た時より詳しく治療の効果や時には起こりうる副作用のようなものについてもしっかりと説明することが出来るようになります。
本授業終了時には疾患別に適した治療ができるようになります。

実務経験:2012年～2014年 品川整骨院にて鍼灸治療に従事していた。

【到達目標】
どの治療法についても基礎知識を習得し、スムーズに治療を行うことが出来るよう技術を習得する。
またその治療効果と起こりうる現象を体験し、患者に分かりやすく説明することが出来る。

＜具体的な目標＞
目標①東洋医学的問診が出来るようになり、弁証を立てることが出来る
目標②舌診脈診が出来るようになる
目標③疾患別に局所以外の治療穴を習得できる

授業計画・内容	
1回目	脈診、肩こりについて説明できる
2回目	腹診、肩関節周りの筋を触り取穴出来る
3回目	脈診・腹診が出来、肩井に直刺ができる
4回目	脈診・腹診が出来、頭痛に対して治療することが出来る
5回目	脈診・腹診が出来、頸肩部の筋を理解し的確に刺鍼することが出来る
6回目	脈診・腹診が出来、顔面の筋について理解できる
7回目	脈診・腹診が出来、細い鍼での美容鍼ができる
8回目	脈診・腹診が出来、太い鍼と細い鍼との違いを理解できる
9回目	脈診・腹診が出来、太い鍼での美容鍼ができる
10回目	脈診・腹診が出来、眼精疲労に対して治療ができる
11回目	脈診・腹診が出来、鼻閉鼻汁に対して治療ができる
12回目	脈診・腹診が出来、冷えと上部の熱に対して治療ができる
13回目	脈診・腹診が出来、不眠に対して治療ができる
14回目	復習
15回目	期末試験
準備学習 時間外学習	目標①この授業を受けるには、1年次に勉強した東洋医学概論の理解が不可欠です 目標②2年の1セメの東洋医学概論の復習が必要です 目標③経絡経穴概論の取穴部分の復習と、触診技術が必要です
評価方法	●実技試験(74点分) ●提出物(26点分)
受講生への メッセージ	魅力:鍼灸治療には、大きく分けて経絡治療・中医学治療・現代的治療の三種類があります。実際に臨床に出た時に色々な治療法を知っておくことは、自分にとって大きな武器となります。また、患者に分かりやすくかつ納得してもらう説明が出来ることも大切です。授業中に実際に体験し、患者の気持ちも体験してみてください。また、鍼管なしで鍼をさせるようにしましょう。 どの手技もできないからやらないではなく、出来るけれどもこの患者には必要ないなど自分で治療を選択できる鍼灸師になって下さい。 基本的には1回完結の授業になりますので、休まないようにして下さい。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書:新版 経絡経穴概論 社団法人東洋療法学校協会編 医道の日本社出版
授業プリント

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	臨床医学各論⑤ Clinical Medicine General Remarks	必修 選択	必修	年次	3	担当教員 実務経験	天本 保典 ○
コース	午前集中・美容スポーツ	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	開講区分 曜日・時限	1セメ
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) 多角的な全人的医療が求められる現代社会において、東洋医学に対する期待も年々高まってきている。「臨床医学」の知識はすべての医療従事者にとって必須であり、鍼灸臨床家はさらに西洋・東洋どちらの知識も必要とされる。西洋医学的な疾病観として疫学、成因・病態生理、症状、診断、治療、予後などについて学ぶ。</p> <p>実務者経験: 2003年より現在に至るまで訪問を中心とした鍼灸臨床経験を持っている。(西洋医学に基づく鍼灸治療)</p>							
<p>【到達目標】 解剖学、生理学、病理学などの基礎分野で学んだ知識を活用し、西洋医学の疾病観を養うことを到達目標とする。成因や病態生理を把握した上で、症状が出現する機序を理解し、それに対する治療法の正当性を確認する。これらの知識を網羅することによって、患者に病態像分かりやすく説明することができる。</p> <p>〈具体的な目標〉 (目標①)解剖学・生理学・病理学の基礎的知識を再確認して自分で説明できる。 (目標②)各疾患に対して、疫学・病態生理、症状、診断、治療、予後を体系立てて説明することができる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	(目標①)血液疾患の学習について必要な解剖学、生理学、病理学の基礎的知識を学び説明することができる。
2回目	(目標②)血液疾患・赤血球疾患について学び説明することができる。
3回目	(目標②)血液疾患・白血球疾患について学び説明することができる。
4回目	(目標②)血液疾患・リンパ網内系疾患・出血性素因について学び説明することができる。
5回目	(目標①)神経疾患の学習について必要な解剖学、生理学、病理学の基礎的知識を学び説明することができる。
6回目	(目標②)神経疾患・脳血管疾患について学び説明することができる。
7回目	(目標②)神経疾患・脳血管疾患について学び説明することができる。
8回目	(目標②)神経疾患・脳脊髄腫瘍について学び説明することができる。
9回目	(目標②)神経疾患・基底核変性疾患について学び説明することができる。
10回目	(目標②)神経疾患・その他の変性疾患について学び説明することができる。
11回目	(目標②)神経疾患・認知症疾患について学び説明することができる。
12回目	(目標②)神経疾患・筋疾患について学び説明することができる。
13回目	(目標②)神経疾患・運動ニューロン疾患について学び説明することができる。
14回目	(目標②)神経疾患・末梢神経性疾患・機能性疾患について学び説明することができる。
15回目	期末試験
準備学習 時間外学習	(目標①)東洋療法学校協会「解剖学」「生理学」「病理学」テキストを読んで、あらかじめ予習をしてください。 (目標②)東洋療法学校協会「臨床医学各論」テキストを読んで、あらかじめ予習をしてください。
評価方法	前回講義の内容を確認するために小テストを実施します。課題レポートの提出も加点の材料とする。 ●課題レポート(20%) ●定期テスト(80%) 割合で成績評価を行う。
受講生への メッセージ	臨床医学の用語は医療従事者間のコミュニケーションには欠かせない共通言語となりますし、患者へ病態の説明にも欠かせません。覚えることが多く、大変とは思いますが頑張ってください。
【使用教科書・教材・参考書】	
教科書: 東洋療法学校協会「臨床医学各論」	

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	臨床医学各論⑥ Clinical Medicine General Remarks	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	天本 保典
						実務経験	○
コース	午前集中・美容スポーツ	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	開講区分	2セメ
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) 多角的な全人的医療が求められる現代社会において、東洋医学に対する期待も年々高まってきている。「臨床医学」の知識はすべての医療従事者にとって必須であり、鍼灸臨床家はさらに西洋・東洋どちらの知識も必要とされる。西洋医学的な疾病観として疫学、成因・病態生理、症状、診断、治療、予後などについて学ぶ。</p> <p>実務者経験: 2003年より現在に至るまで訪問を中心とした鍼灸臨床経験を持っている。(西洋医学に基づく鍼灸治療)</p>							
<p>【到達目標】 解剖学、生理学、病理学などの基礎分野で学んだ知識を活用し、西洋医学の疾病観を養うことを到達目標とする。成因や病態生理を把握した上で、症状が出現する機序を理解し、それに対する治療法の正当性を確認する。これらの知識を網羅することによって、患者に病態像分かりやすく説明することができる。</p> <p>〈具体的な目標〉 (目標①) 解剖学・生理学・病理学の基礎的知識を再確認して自分で説明できる。 (目標②) 各疾患に対して、疫学・病態生理、症状、診断、治療、予後を体系立てて説明することができる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	(目標①) リウマチ性疾患・膠原病の学習について必要な解剖学、生理学、病理学の基礎的知識を学び説明することができる。
2回目	(目標②) リウマチ性疾患について学び説明することができる。
3回目	(目標②) 膠原病について学び説明することができる。
4回目	(目標②) 膠原病について学び説明することができる。
5回目	(目標①) その他の領域の学習について必要な解剖学、生理学、病理学の基礎的知識を学び説明することができる。
6回目	(目標②) その他の領域・小児科疾患について学び説明することができる。
7回目	(目標②) その他の領域・一般外科について学び説明することができる。
8回目	(目標②) その他の領域・麻酔科について学び説明することができる。
9回目	(目標②) その他の領域・眼科疾患について学び説明することができる。
10回目	(目標②) その他の領域・耳鼻科疾患について学び説明することができる。
11回目	(目標②) その他の領域・精神科疾患について学び説明することができる。
12回目	(目標②) その他の領域・心療内科疾患について学び説明することができる。
13回目	(目標②) その他の領域・加齢に伴う病態について学び説明することができる。
14回目	(目標②) その他の領域について復習し、国試問題について説明することができる。
15回目	期末試験
準備学習 時間外学習	(目標①) 東洋療法学校協会「解剖学」「生理学」「病理学」テキストを読んで、あらかじめ予習をしてください。 (目標②) 東洋療法学校協会「臨床医学各論」テキストを読んで、あらかじめ予習をしてください。
評価方法	前回講義の内容を確認するために小テストを実施します。課題レポートの提出も加点の材料とする。 ●課題レポート(20%) ●定期テスト(80%) 割合で成績評価を行う。
受講生への メッセージ	臨床医学の用語は医療従事者間のコミュニケーションには欠かせない共通言語となりますし、患者へ病態の説明にも欠かせません。覚えることが多く、大変とは思いますが頑張ってください。
【使用教科書・教材・参考書】	
教科書: 東洋療法学校協会「臨床医学各論」	

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	東洋医学臨床論④ Traditional Chinese Medicine Clinical Theory	必修 選択	必修	年次	3	担当教員 実務経験	重留 藍子 ○
	コース	午前集中・美容スポーツ	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	開講区分 曜日・時限

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
 毎回ひとつの症状をテーマに置き、その症状を引き起こす疾患についての講義を行う。また、その中から鍼灸院に訪れる可能性がある病態を絞り、その疾患の鑑別方法を伝えていく。参考としてそれぞれの症状別の治療穴を紹介する。
 講義を中心に進める。必要に応じてグループワークやディスカッション、実技を行う。

実務経験:2012年～2014年 品川整骨院にて鍼灸治療に従事していた。(東洋医学に基づく鍼灸治療)

【到達目標】
 鍼灸臨床において遭遇するであろう疾患に対して、患者が訴える症状から疾患の鑑別ができるようになる。また、鍼灸治療の適用・不適用、緊急を要するかどうかの判断を行う事ができる。

授業計画・内容	
1回目	婦人科疾患について説明する事ができる。鍼灸治療の不応や緊急を要するケースモデルを説明する事ができる。
2回目	婦人科疾患について説明する事ができる。鍼灸治療の不応や緊急を要するケースモデルを説明する事ができる。
3回目	婦人科疾患について説明する事ができる。4択を解くことができる。
4回目	小児疾患について説明する事ができる。鍼灸治療の不応や緊急を要するケースモデルを説明する事ができる。
5回目	小児疾患の4択を解くことができる。
6回目	高齢者疾患について説明する事ができる。鍼灸治療の不応や緊急を要するケースモデルを説明する事ができる。
7回目	高齢者疾患の4択を解くことができる。
8回目	疼痛について説明する事ができる。鍼灸治療の不応や緊急を要するケースモデルを説明する事ができる。
9回目	頰肩胸痛が主訴となる疾患について説明する事ができる。鍼灸治療の不応や緊急を要するケースモデルを説明する事ができる。
10回目	上肢痛が主訴となる疾患について説明する事ができる。鍼灸治療の不応や緊急を要するケースモデルを説明する事ができる。
11回目	肩関節痛が主訴となる疾患について説明する事ができる。鍼灸治療の不応や緊急を要するケースモデルを説明する事ができる。
12回目	腰下肢痛が主訴となる疾患について説明する事ができる。鍼灸治療の不応や緊急を要するケースモデルを説明する事ができる。
13回目	膝痛が主訴となる疾患について説明する事ができる。鍼灸治療の不応や緊急を要するケースモデルを説明する事ができる。
14回目	下肢痛が主訴となる疾患について説明する事ができる。鍼灸治療の不応や緊急を要するケースモデルを説明する事ができる。
15回目	期末試験
準備学習 時間外学習	将来の臨床に活かす為に、必ず講義後に復習して下さい。
評価方法	●筆記試験による定期テスト(72点) ●提出物(28点)
受講生への メッセージ	鍼灸師には現代医学と東洋医学両方の知識が求められます。鍼灸師にできる現代医学の鑑別法を学んで実践していきましょう。
【使用教科書・教材・参考書】配布プリントあり、東洋医学臨床論教科書	

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	東洋医学臨床論⑤ <small>Traditional Chinese Medicine Clinical Theory</small>	必修 選択	必修	年次	3	担当教員 実務経験	重留 藍子 ○
コース	午前集中・美容スポーツ	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	開講区分 曜日・時限	2セメ
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) 毎回ひとつの症状をテーマに置き、その症状を引き起こす疾患についての講義を行う。また、その中から鍼灸院に訪れる可能性がある病態を絞り、その疾患の鑑別方法を伝えていく。参考としてそれぞれの症状別の治療穴を紹介する。 講義を中心に進める。必要に応じてグループワークやディスカッション、実技を行う。</p> <p>実務経験: 2012年～2014年 品川整骨院にて鍼灸治療に従事していた。(東洋医学に基づく鍼灸治療)</p>							
<p>【到達目標】 鍼灸臨床において遭遇するであろう疾患に対して、患者が訴える症状から疾患の鑑別ができるようになる。また、鍼灸治療の適用・不適用、緊急を要するかどうかの判断を行う事ができる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	頭痛が主訴となる疾患について説明する事ができる。鍼灸治療の不応や緊急を要するケースモデルを説明する事ができる。
2回目	頭痛の4択を解くことができる。
3回目	顔面痛が主訴となる疾患について説明する事ができる。鍼灸治療の不応や緊急を要するケースモデルを説明する事ができる。
4回目	顔面痛の4択を解くことができる。
5回目	顔面麻痺が主訴となる疾患について説明する事ができる。鍼灸治療の不応や緊急を要するケースモデルを説明する事ができる。
6回目	顔面麻痺の4択を解くことができる。
7回目	腹痛が主訴となる疾患について説明する事ができる。鍼灸治療の不応や緊急を要するケースモデルを説明する事ができる。
8回目	腹痛の4択を解くことができる。
9回目	総論の4択を解くことができる。
10回目	めまい・耳鳴り難聴が主訴となる疾患について説明する事ができる。鍼灸治療の不応や緊急を要するケースモデルを説明する事ができる。
11回目	心系統が主訴となる疾患について説明する事ができる。鍼灸治療の不応や緊急を要するケースモデルを説明する事ができる。
12回目	脾系統の症状が主訴となる疾患について説明する事ができる。鍼灸治療の不応や緊急を要するケースモデルを説明する事ができる。
13回目	2年次から学習してきた内容の4択を解くことができる。
14回目	2年次から学習してきた内容の4択を解くことができる。
15回目	期末試験
準備学習 時間外学習	将来の臨床に活かす為に、必ず講義後に復習して下さい。
評価方法	●出席点(25点) ●提出点(75点)
受講生への メッセージ	鍼灸師には現代医学と東洋医学両方の知識が求められます。鍼灸師にできる現代医学の鑑別法を学んで実践していきましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 配布プリントあり、東洋医学臨床論教科書	

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	東洋医学臨床論⑥ Traditional Chinese Medicine Clinical Theory	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	永田 周平
	コース	午前集中・美容スポーツ	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	実務経験 開講区分 曜日・時限
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) 毎回一つの症状をテーマに、その症状を引き起こす疾患の鑑別法を学ぶ。鍼灸院に訪れる可能性のある疾患に絞り、鍼灸師に必要な疾患に対する現代医療の知識を身につける。</p> <p>※実務者経験:実務経験:2007年より「あきほ整骨院」にて鍼灸治療に従事し、現在は「こひろ鍼灸治療院」にて在籍。(東洋医学に基づいた鍼灸治療)</p>							
<p>今までに学んだ東洋医学概論・経絡経穴概論・東洋医学臨床論・臨床医学総論・臨床医学各論の知識をリンクさせ、患者の訴える主訴から病態の鑑別ができる。また、国家試験における総合問題に対応できる知識を習得する。</p>							

授業計画・内容

1回目	頭痛の鑑別
2回目	胸痛の鑑別
3回目	腹痛の鑑別
4回目	不眠の鑑別
5回目	便秘の鑑別
6回目	下痢の鑑別
7回目	めまい・耳鳴りの鑑別
8回目	肥満の鑑別
9回目	やせの鑑別
10回目	血圧異常の鑑別
11回目	発疹の鑑別
12回目	咳嗽の鑑別
13回目	月経異常の鑑別
14回目	小児・高齢者の鑑別
15回目	期末試験
準備学習 時間外学習	将来の臨床に活かす為に、必ず講義後に復習して下さい。
評価方法	筆記試験による定期テスト(100%)
受講生への メッセージ	鍼灸師には現代医学と東洋医学両方の知識が求められます。 鍼灸師にできる現代医学の鑑別法、治療法を学んでいきましょう。
<p>【使用教科書・教材・参考書】 記布プリントあり。 東洋医学概論・経絡経穴概論・東洋医学臨床論・臨床医学総論・臨床医学各論</p>	

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	総合領域⑤ Synthesis Realms	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	平山 紘成
コース	午前集中・美容スポーツ	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	実務経験	○
						開講区分	1セメ
						曜日・時限	
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>この授業はリハビリテーション医学を中心とした国家試験対策に主眼を置いて総復習の講義を行っていく。2年次に学習した内容の中で国家試験の頻出項目の中から大事なポイントを確認しながらすすめていく。ポイントを確認した後に実際に模擬問題を解き、間違った問題を確認することで覚えるべきポイントと理解しなければならないことがさらに明確になる。この授業の後には類似問題が出題された場合には正解を導き出すことができるようになる。</p> <p>実務経験:2018年から2020年まで沖縄総合医療学院付属鍼灸院にて勤務。現在に至る。(中医学・現代鍼灸医学に基づく鍼灸治療)</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>リハビリテーション医学の国家試験問題に対応し得点できるようになる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション
2回目	リハビリテーション医学のリハビリテーションの総説に関する国家試験関連問題を解けるようになる。
3回目	リハビリテーション医学のICIDH、ICFIに関する国家試験関連問題を解けるようになる。
4回目	リハビリテーション医学のMMTに関する国家試験関連問題を解けるようになる。
5回目	リハビリテーション医学の理学療法に関する国家試験関連問題を解けるようになる。
6回目	リハビリテーション医学の作業療法と言語聴覚療法に関する国家試験関連問題を解けるようになる。
7回目	リハビリテーション医学のパーキンソン病に関する国家試験関連問題を解けるようになる。
8回目	第2～7回目の講義内容総復習
9回目	リハビリテーション医学の脳卒中に関する国家試験関連問題を解けるようになる。
10回目	リハビリテーション医学の脊髄損傷に関する国家試験関連問題を解けるようになる。
11回目	リハビリテーション医学の切断に関する国家試験関連問題を解けるようになる。
12回目	リハビリテーション医学の小児麻痺に関する国家試験関連問題を解けるようになる。
13回目	リハビリテーション医学の関節リウマチに関する国家試験関連問題を解けるようになる。
14回目	第9～13回目の講義内容総復習
15回目	期末試験
準備学習 時間外学習	講義内容をまとめて整理していく復習の時間をつくってください。
評価方法	期末試験(100%)
受講生への メッセージ	この授業で学ぶことは将来の臨床においても必須の知識になります。また国家試験問題にも対応できるようになりますので一緒にがんばりましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
公益財団法人東洋療法学校協会編 新版リハビリテーション医学	

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	総合領域⑥	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	重留 藍子
	Synthesis Realms	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	実務経験	○
コース	午前集中・美容スポーツ					開講区分	1セメ
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>実際の臨床では患者の訴えをもとに弁証を立てていく必要がある。 また、国家試験合格のためには弁証を立てたうえで、選択肢から正しい答えを導き出さなければならない。 2年次に学んだ東洋医学臨床論をもとに、4択問題が解けるようにしてほしい。</p> <p>実務経験:2012年～2014年 品川整骨院にて鍼灸治療に従事していた。(東洋医学に基づく鍼灸治療)</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>東洋医学臨床論の過去問題や模試問題を1問でも多く正解できるようになる。 確実にもって解ける問題が増える。 他科目の範囲からの出題でも、繋がりを理解して解答を導き出せる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	2年次までの復習
2回目	専門基礎
3回目	模擬試験
4回目	総合復習
5回目	模擬試験
6回目	模擬試験復習
7回目	模擬試験復習
8回目	総合復習
9回目	模擬試験
10回目	総合復習
11回目	模擬試験をもとに4択をとく
12回目	模擬試験をもとに4択を解く
13回目	模擬試験
14回目	総合復習
15回目	模擬試験解説
準備学習 時間外学習	授業の後に、もう一度復習し、自分が勉強しているノートや配布冊子などに足りない部分を書き込むなどして下さい。
評価方法	●出席率(100%)
受講生への メッセージ	国家試験に向けて、コツコツ復習していきましょう！ 自信をもって確実に解ける問題を、1問でも多く増やして行きましょう！ (毎回、東洋系の配布冊子を忘れずに持ってきてください)
【使用教科書・教材・参考書】	
授業内でも資料を配布しますが、既に配布されている国試対策の冊子を毎回持ってきてください。	

科目名 (英)	総合領域⑦ (Synthesis Realms)	必修 選択	必須	年次	3	担当教員 実務経験	白木 芳弘・藤崎 舞椰 ○
コース	午前集中、美容・スポーツ	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 1	開講区分	2セメ 曜日・時限
<p>【授業の学習内容】</p> <p>教科書は「ボディナビゲーション～触ってわかる身体解剖～」を使用し、また骨標本を用いて触診の実技を進めていきます。すぐに触診するのではなく、まずはじっくり相手の身体を診て観察し、どうなっているのかを予測を立てて触診していきます。なるべく多くの身体を触診しそれぞれの違いを感じましょう。</p> <p>※実務経験 2011年～2021年:医療法人 中村整形外科医院で理学療法士としてリハビリ業務に従事 2021年～:白木整骨院、はる風整骨院ハルマチ(現代治療)</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>これまで学んできた解剖の知識を実際に触ることによってより理解出来るようになる。鍼灸治療の現場で必ず必要になる骨、関節、筋の構造を3次元的に理解し、体表から触診出来るようになる。また、個々の身体の違いに気づき、相手にも説明出来るようになる。</p> <p>具体的な目標 ①構造の位置を探し出すこと ②構造の特徴に気づくこと ③治療法を決定できるように構造の質あるいは状態を評価すること</p>							
授業計画・内容							
1回目	(講義/実技)オリエンテーション、1学期の復習						
2回目	(講義/実技)股関節と骨盤の触診、骨触診、軟部組織触診						
3回目	(講義/実技)股関節と骨盤の関節可動域、神経学的検査						
4回目	(講義/実技)股関節と骨盤の特殊な検査						
5回目	(講義/実技)膝関節の骨触診、軟部組織触診						
6回目	(講義/実技)膝関節の関節可動域、神経学的検査						
7回目	(講義/実技)膝関節の特殊な検査						
8回目	(講義/実技)足部と足関節の骨触診						
9回目	(講義/実技)足部と足関節の骨触診						
10回目	(講義/実技)足部と足関節の軟部組織触診						
11回目	(講義/実技)足部と足関節の関節可動域と神経学的検査						
12回目	(講義/実技)足部と足関節の特殊な検査						
13回目	(講義/実技)総まとめ						
14回目	(講義/実技)テスト前対策						
15回目	実技テスト						
準備学習 時間外学習	骨、筋、関節の名称、場所を理解しておく必要があります。						
評価方法	実技試験 100点						
受講生への メッセージ	身体の触診は、臨床で重要になってきます。実技を通してたくさん経験して身につけていきましょう。						
【使用教科書・教材・参考書】							
<p>ボディナビゲーション～触ってわかる身体解剖～ 記布資料、骨標本、角度計、マジックペン</p>							

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	総合領域⑨ Synthesis Realms	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	天本 保典
コース	午前集中・美容スポーツ	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	実務経験	○
						開講区分	2セメ
						曜日・時限	
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) 多角的な全人的医療が求められる現代社会において、鍼灸師に求められる知識も年々高まっている。これに対応するよう「はり師」「きゅう師」免許の国家試験問題も以前よりも難易度が高く、臨床を意識したものへと変化しつつある。この変化に対応すべく授業内で扱ってきた知識をさらに深めるため、もしくは難易度が増した国家試験に対応するため、補講・補習を目的とした講義を行う。</p> <p>実務者経験:2003年より現在に至るまで訪問を中心にした鍼灸臨床経験を持っている。(西洋医学に基づく鍼灸治療)</p>							
<p>【到達目標】 今までに学んだ西洋系教科と東洋系教科のそれぞれの知識を整理・復習をすることにより記憶の定着化を図る。弱点克服に重点を置き、問題を解くなどより実践的な方法で国家試験対策に取り組んでいく。</p> <p>〈具体的な目標〉 (目標①)国家試験と同じ形式の4択問題に対する解説を講義形式にて、知識を整理・復習する(インプット作業)。 (目標②)国家試験と同じ形式の4択問題に対する解説を講義形式知識を整理・復習する(アウトプット作業)。</p>							

授業計画・内容	
1回目	国試形式の問題を解いてより実践力を養う講義
2回目	国試形式の問題を解いてより実践力を養う講義
3回目	国試形式の問題を解いてより実践力を養う講義
4回目	国試形式の問題を解いてより実践力を養う講義
5回目	国試形式の問題を解いてより実践力を養う講義
6回目	国試形式の問題を解いてより実践力を養う講義
7回目	国試形式の問題を解いてより実践力を養う講義
8回目	国試形式の問題を解いてより実践力を養う講義
9回目	国試形式の問題を解いてより実践力を養う講義
10回目	国試形式の問題を解いてより実践力を養う講義
11回目	国試形式の問題を解いてより実践力を養う講義
12回目	国試形式の問題を解いてより実践力を養う講義
13回目	期末試験①
14回目	期末試験②
15回目	期末試験③
準備学習 時間外学習	(目標①)4択問題を解くコツを習得する。 (目標②)間違った問題のやり直し作業を習慣づける。 (目標③)苦手な単元の理解には必ず教科書を使用する。
評価方法	国試形式の択一テストを3回実施し評価する。 筆記テスト(100%) 割合で成績評価を行う。
受講生への メッセージ	国家試験を突破するための実践力を養う講義です。問題を解いて終わりではありません、間違った問題は必ずやり直しを行いましょう。苦手な単元を洗い出し、教科書に戻り、知識の再構築を行う。この一連の作業の繰り返し合格への近道と言えます。頑張ってください。
【使用教科書・教材・参考書】	
坂井建雄・橋本尚詞著 ぜんぶわかる人体解剖図 成美堂出版 養名俊一・荒田晶子著 コメディカル専門基礎科目シリーズ生理学 理工園書 大久保岩男・賀佐伸著 コンパクト生化学	

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	総合領域⑩	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	天本 保典・片山 雄二
	Synthesis Realms					実務経験	○
コース	午前集中・美容スポーツ	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	開講区分	3セメ
						曜日・時間	

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
 国家試験に合格し、免許を取得することは鍼灸師として活動するための必須条件である。国試の中で問題数の多い生理学、解剖学を学び、正解数を増やすことが合格への近道と言える。よって、この講義では、解剖学の運動器に焦点を絞り、人体を体表面から内部に向かって行き、そこに何が存在し、どのような作用をしているかなどを改めて理解することを目的とする。臨床に出て患者に接する際にも解剖生理学の知識は必須となるので、Drや看護師など患者を包括ケアしているコメディカルスタッフと患者の状態について情報交換したり、家族や患者本人に説明できるようになることは臨床家としても重要な技術となる。

※実務経験者経歴: 2005年から2007年まで久我原整形外科病院にて勤務。2007年より開業。現在に至る。(解剖生理学に基づく鍼灸治療)

【到達目標】

解剖学、生理学の基本的な知識を修得する。人体を構成する要素を学び、それらがどのような作用をしあいながら生命活動をしているのかを理解し、一般の方に説明できるようになる。

<具体的な目標>

目標①生理学、解剖学の基礎を再確認し、習熟度を高める。

目標②活動時に人体で何が起きているかを説明できる。

目標③国試問題で正解数を増やす。

授業計画・内容

1回目	人体解剖生理 上肢の構造、機能を説明できる①
2回目	人体解剖生理 上肢の構造、機能を説明できる②
3回目	人体解剖生理 上肢の構造、機能を説明できる③
4回目	人体解剖生理 下肢の構造、機能を説明できる①
5回目	人体解剖生理 下肢の構造、機能を説明できる②
6回目	人体解剖生理 下肢の構造、機能を説明できる③
7回目	人体解剖生理 体幹の構造、機能を説明できる①
8回目	人体解剖生理 体幹の構造、機能を説明できる②
9回目	人体解剖生理 体幹の構造、機能を説明できる③
10回目	人体解剖生理 体幹の構造、機能を説明できる④
11回目	人体解剖生理 頭部の構造、機能を説明できる①
12回目	人体解剖生理 頭部の構造、機能を説明できる②
13回目	人体解剖生理 頭部の構造、機能を説明できる③
14回目	人体を動かすときに全体でどのようなことが起きているのかを説明できる①
15回目	人体を動かすときに全体でどのようなことが起きているのかを説明できる②

準備学習
時間外学習

(目標①)解剖学、生理学について予習が必要です。
 (目標②)講義内容について復習をし、内容を理解することが必要です。

評価方法

出席率にて評価する

受講生へのメッセージ

解剖生理学は国試合格だけでなく、臨床に出た際でも必須の知識となります。過去学習した内容を思い出し、忘れていた部分を再度勉強修得しましょう。身体の正常な反応を理解することで、異常(疾患、疾病など)を見つけることが可能になり、治療へ用いることができますので、国試だけでなく、その後の臨床を見据えて勉強していくようにしましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

配布プリント

2025年度 授業概要

学 科：鍼灸科

科目名 (英)	社会保障制度	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	片山 雄二
	Social Security System					実務経験	○
コース	午前集中・美容スポーツ	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15 1	開講区分	3セメ
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>健康保険による鍼灸施術は健康保険法の療養費制度に基づいており、一般の保険医療機関での治療と同じく国の社会保障制度の中で運用される。この授業では社会保障制度の仕組みを正しく理解し、健康保険に基づく鍼灸施術の適切な運用方法を学んでいくことによって、社会貢献への寄与を目的とする。</p> <p>※実務者経験：1984年より福岡市にて開業している。要鍼灸院院長。</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>健康保険などはり師・きゅう師を取り巻く社会制度について学び、臨床に活かすことができる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	ガイダンス 社会保障制度とは(日本の保険制度について)
2回目	鍼灸の保険診療について全体像を説明できる。
3回目	療養費制度の概略(適応疾患・受領委任払いなど)について説明できる。
4回目	労災保険の概略について説明できる。
5回目	自賠責保険の概略について説明できる。
6回目	鍼灸師としての基本的な倫理観を身に付けることができる。
7回目	療養費申請(訪問鍼灸治療を含む)について事務手続き方法を習得できる。
8回目	期末テスト
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	わが国の保険制度について事前に予習をしておいてください。
評価方法	●出席点・平常点で評価する。
受講生への メッセージ	この授業では卒業後に必要となる、より実務的な内容を学習していきます。全8回の講義となりますので、遅刻・欠席がないようお願い致します。

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	公衆衛生学① Public Health	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	平山 結成
						実務経験	○
コース	午前集中・美容スポーツ	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	開講区分	1セメ
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>衛生学・公衆衛生学は、疾病予防と健康の保持・増進のための科学であり、活動である。このための行動・活動はすべての個人と集団にとって欠かせないことである。人々の健康の保持・増進のためには、それぞれの家庭・学校・職場・地域社会、生活環境、食事と栄養、運動と休養、メンタルヘルス、法律・制度などが適正でよく整備・運用されていることが重要である。鍼灸師の活動においても、個々の患者がはりやきゅうの診療活動とともに、病気の予防や健康増進の知識と技術およびこれらが展開される保健福祉の法制・倫理の両方をわきまえておくことが必要不可欠である。この授業では、教科書を基本に要点プリントを配布しながら、医療概論、衛生学・公衆衛生学を学び、実際の臨床現場で必要な消毒法や感染症などの講義を行う。授業終了後には国家試験の問題演習を行い内容を理解・説明できるようになる。</p> <p>実務経験: 2018年から2020年まで沖縄統合医療学院付属鍼灸院にて勤務。現在に至る。(中医学・現代鍼灸医学に基づく鍼灸治療)</p> <p>【到達目標】</p> <p>公衆衛生学は、医療の始まりから、最近の世界の医療事情の勉強となる。医療の在り方、環境の問題など専門分野以外にも理解を深め、知識として蓄え説明できるようになり、身近な医療事情に目を向けられるようになる。</p> <p>(具体的な目標)</p> <p>①衛生学・医療概論について説明できる。 ②国家試験の過去問を解けるようになる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	医療概論の現代の医療制度について説明することができる。
2回目	医療概論の医療倫理について説明することができる。
3回目	第1章 衛生学・公衆衛生学の意義について説明できる
4回目	第2章 健康の保持・増進と疾病予防「健康の定義」「健康管理」について説明することができる。
5回目	第2章 健康の保持・増進と疾病予防「衛生行政」について説明することができる。
6回目	第2章 健康の保持・増進と疾病予防「医療制度」と「医療保障」について説明することができる。
7回目	第3章 ライフスタイルと健康「食と栄養」での各栄養素の概要や欠乏症等を説明することができる。
8回目	第3章 ライフスタイルと健康「食中毒」での各病原菌や病原ウイルス等の特徴について説明することができる。
9回目	第3章 ライフスタイルと健康「身体活動と健康」での運動と健康の保持・増進について説明することができる。
10回目	第4章 環境と健康での「環境のとらえ方」を説明することができる。
11回目	第4章 環境と健康での「日常生活環境」を理解し、健康障害を引き起こす物理的環境要因について説明することができる。
12回目	第4章 環境と健康での「日常生活環境」を理解し、健康障害を引き起こす科学的環境要因について説明することができる。
13回目	第4章 環境と健康での「環境問題」を理解し、公害について説明することができる。
14回目	総復習
15回目	期末試験
準備学習 時間外学習	講義で行った内容をしっかり復習を行う。国家試験の過去問を解いて理解する。
評価方法	筆記試験 100点
受講生への メッセージ	講義の中で国家試験対策も行います。しっかり授業に参加して重要なポイントを押さえるようにして下さい。
【使用教科書・教材・参考書】	
医学第出版株式会社 衛生学・公衆衛生学 第2版、株式会社メディックメディア レビューブック 公衆衛生 2024	

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	公衆衛生学② Public Health	必修 選択	必修	年次	3	担当教員 実務経験	平山 徳成 ○
コース	午前集中・美容スポーツ	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	開講区分 曜日・時限	2セメ
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>衛生学・公衆衛生学は、疾病予防と健康の保持・増進のための科学であり、活動である。このための行動・活動はすべての個人と集団にとって欠かせないことである。人々の健康の保持・増進のためには、それぞれの家庭・学校・職場・地域社会、生活環境、食事と栄養、運動と休養、メンタルヘルス、法律・制度などが適正でよく整備・運用されていることが重要である。鍼灸師の活動においても、個々の施術者がはりやきゅうの診療活動とともに、病気の予防や健康増進の知見と技術およびこれらが展開される保健福祉の法制・倫理の両方をわきまえておくことが必要不可欠である。この授業では、教科書を基本に要点プリントを配布しながら、医療理論、衛生学・公衆衛生学を学び、実際の臨床現場で必要な消毒法や感染症などの講義を行う。授業終了後には国家試験の問題演習を行い内容を理解・説明できるようになる。</p> <p>実務経験:2018年から2020年まで沖縄総合医療学院付属鍼灸院にて勤務。現在に至る。(中医学・現代鍼灸医学に基づく鍼灸治療)</p> <p>【到達目標】 公衆衛生学は、医療の始まりから、最近の世界の医療事情を勉強します。医療の在り方、環境の問題など専門分野以外にも理解を深め、知識として蓄え説明できるようになり、身近な医療事情に目を向けられるようになる。 (具体的な目標) ①衛生学について説明できる ②国家試験の過去問を解けるようになる</p>							

授業計画・内容	
1回目	第5章 産業保健を理解し、労働災害の概要について説明することができる。
2回目	第6章 精神保健での「精神疾患」の概要、入院医療の形態等について説明することができる。
3回目	第7章 母子保健に関する用語を理解し、健康指標と現状やハイリスクを経緯について説明することができる。
4回目	第8章 成人・高齢者保健での生活習慣病である悪性新生物の概要について説明することができる。
5回目	第8章 成人・高齢者保健での生活習慣病等、高齢者の保健福祉対策について説明することができる。
6回目	第9章 感染症とその対策での感染症の分類について説明することができる。
7回目	第9章 感染症とその対策での感染症の分類について説明することができる。
8回目	第9章 感染症とその対策での感染症予防等について説明することができる。
9回目	第10章 消毒法について説明することができる。
10回目	第11章 疫学を理解し、分析疫学について説明することができる。
11回目	第12章 保健統計での動態統計、静態統計について説明することができる。
12回目	第12章 保健統計での衛生調査について説明することができる。
13回目	第13章 保健統計での衛生調査について説明することができる。
14回目	総まとめ①
15回目	総まとめ②
準備学習 時間外学習	講義で行った内容をしっかり復習を行う。国家試験の過去問を解いて理解する。
評価方法	出席点 100点(欠席1回ごとに-6点、遅刻1回ごとに-4点)
受講生へのメッセージ	試験の中で国家試験対策も行います。しっかり授業に参加して重要なポイントを押さえるようにして下さい。
【使用教科書・教材・参考書】	
医歯薬出版株式会社 衛生学・公衆衛生学 第2版、株式会社メディックメディア レビューブック 公衆衛生 2024	

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	はりきゅう実技(古典経絡治療)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	馬場 道啓
	Acupuncture and Moxibustion Practical Skills	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 1	実務経験	○
コース	午前集中・美容スポーツ					開講区分	1セメ
						曜日・時限	

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
日本の伝統的治療法である「経絡治療」の基本となる考え方をしっかりと学んだ上で、六部定位脈診法による脈の取り方、弁証の立て方と段階を踏まえて、「経絡治療」の治療方法へとつなげていく。全15回の中で「経絡治療」の基本となる部分を学んでいく。
実務経験:1998年から現在に至るまで「馬場回生堂鍼灸灸院」にて鍼灸臨床の経験をもつ。

【到達目標】
「経絡治療」について基本的事項から実際の治療方法に至るまで、座学講義に実技指導を交えながら、知識と技術の両面より学習を深めていく。
〈具体的な目標〉
目標① 経絡治療の基本的な考え方を説明できるようになる。
目標② 経絡治療の診断に必要な脈診法ができるようになる。
目標③ 経絡治療としての弁証法を学び、実際に治療ができるようになる。

授業計画・内容	
1回目	(目標①)経絡治療の基本的な考え方が説明できる[座学講義]
2回目	(目標①)東洋医学にみる体の特徴を説明できる[座学講義]
3回目	(目標①)脈診の意義と種類について説明できる[座学講義]
4回目	(目標①)要穴の選穴と補瀉手技について説明できる[座学講義]
5回目	(目標②)祖脈診の方法を学び実践できる[実技講義]
6回目	(目標②)祖脈診の方法を学び実践できる[実技講義]
7回目	(目標②)六部定位脈診の方法を学び実践できる[実技講義]
8回目	(目標②)六部定位脈診の方法を学び実践できる[実技講義]
9回目	(目標③)要穴の取穴について学び、実際の治療に関わる経穴を指示できる[実技講義]
10回目	(目標③)補瀉手技について学び、実際の臨床を想定した治療を行うことができる[実技講義]
11回目	(目標③)カルテ作成の仕方を学び、治療に関する記録を残すことができる[実技講義]
12回目	(目標③)実際の臨床を想定した治療ができる(運動器疾患)[実技講義]
13回目	(目標③)実際の臨床を想定した治療ができる(内科系疾患)[実技講義]
14回目	(目標③)実際の臨床を想定した治療ができる(婦人科疾患)[実技講義]
15回目	(目標③)実際の臨床を想定した治療ができる(まとめ)[実技講義]
準備学習 時間外学習	(目標①)東洋医学概論で学んだ基礎知識が必要不可欠となるので、1・2年次の復習が必要です。 (目標②)東洋医学概論の四診編での知識が必要不可欠となるので、1・2年次の復習が必要です。 (目標③)治療に必要な経穴を取る際には経絡概論の知識が必要不可欠となるので、1・2年次の復習が必要です。
評価方法	期末試験は実施せず、出席日数のみを評価の対象とする。 ●出席点(100%)
受講生への メッセージ	東洋医学的な診断と治療ができると治療の幅が広がります。
【使用教科書・教材・参考書】	
東洋医学概論・東洋療法学校協会 経絡経穴概論・東洋療法学校協会	

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	はりきゅう実技(実技審査対策②)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	福島 美沙紀
	Acupuncture and Moxibustion Practical Skills	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 1	実務経験	○
コース	午前集中・美容・スポーツ			開講区分	1セメ		
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当教員による説明と模擬実技の後に、それぞれが実技練習を行う。教員が見回って指導していく。 ・身体各部位に対して、安全に刺入できるように練習していく。 ・他者の身体に対しての刺入深度や刺入角度を自在にコントロールできるようにする。目標を設定して練習していく。 ・ペア同士で練習する。お互いに痛みのチェックをして、技術を研鑽していく。 ・実技審査に向けて技術の向上を図る。 							
<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はりに関する技術や知識を習得し、はり施術を安全におこなえる能力と医療従事者としての態度を身につける。 ・実技審査に合格する。 ・問診や施術の技術の獲得。 ・疾患名を問診を用いて導き出せるようになる。 ・疾患名に対するテスト法を導き出せるようになる。 							

授業計画・内容	
1回目	実技審査に向けての練習(鍼治療と灸治療)
2回目	実技審査に向けての練習(鍼治療と灸治療)
3回目	実技審査に向けての練習(鍼治療と灸治療)
4回目	実技審査に向けての練習(問診)
5回目	実技審査に向けての練習(問診)
6回目	実技審査に向けての練習(テスト法)
7回目	実技審査に向けての練習(テスト法)
8回目	実技審査に向けての練習(口頭試問)
9回目	実技審査に向けての練習(口頭試問)
10回目	実技審査に向けての練習(問診、テスト法、口頭試問、鍼治療、灸治療を通して)
11回目	実技審査に向けての練習(問診、テスト法、口頭試問、鍼治療、灸治療を通して)
12回目	実技審査に向けての練習(問診、テスト法、口頭試問、鍼治療、灸治療を通して)
13回目	実技審査に向けての練習(問診、テスト法、口頭試問、鍼治療、灸治療を通して)
14回目	実技審査に向けての練習(問診、テスト法、口頭試問、鍼治療、灸治療を通して)
15回目	実技審査に向けての練習(問診、テスト法、口頭試問、鍼治療、灸治療を通して)
準備学習 時間外学習	授業時間外にも技術の習得のため、自身で学習する必要がある
評価方法	出席率のみで成績評価を行う。 ●出席率(100%)
受講生への メッセージ	実技審査に向けて頑張ってください。
【使用教科書・教材・参考書】	
経絡経穴概論 はりきゅう実技教科書	

2025年度 授業概要

学 科 :

科目名 (英)	はりきゅう実技 <small>Acupuncture and Moxibustion Practical Skills</small>	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	川波 有司
						実務経験	○
コース	午前集中・美容スポーツ	授業 形態	実技	総時間 (単位)	30 1	開講区分	2セメ
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) 疾患や症状ごとに西洋医学的アプローチ(SOAP・問診・視診・触診・理学的検査・鍼灸治療)で授業を構築し進めていく。経絡・経穴の理解と経穴の取穴や鍼手技方法も必要となる。鍼パルス療法を取り入れた治療方法も授業では行っていく。</p> <p>※実務者経験:プロバスケットボールチーム・ライジングゼファー福岡にチームトレーナーとして従事していた。</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>1. 疾患や症状においての治療経穴や治療部位を理解する。 2. 鍼灸のスキルを向上する。 3. 鍼パルス療法を理解し取得する。 3. 臨床で鍼灸治療ができるように、西洋医学的問診～鍼灸治療(SOAP)までを取得する。</p>							

授業計画・内容	
1回目	膝関節痛について(膝関節の疾患・障害/膝、大腿部の経絡・経穴)
2回目	膝関節痛と鍼灸実技(膝蓋靭帯炎・大腿四頭筋腱炎)
3回目	膝関節痛と鍼灸実技(鰻足炎・腸腰靭帯炎)
4回目	膝関節痛と鍼灸実技(変形性膝関節症)
5回目	肉離れと鍼灸実技(下腿三頭筋・ハムストリングス)
6回目	下腿痛と鍼灸実技(コンパートメント症候群)
7回目	下腿痛と鍼灸実技(アキレス腱炎・シンスプリント)
8回目	足関節痛と鍼灸実技(足関節捻挫)
9回目	肘関節痛について(肘関節の疾患・障害/肘関節の経絡・経穴)
10回目	肘関節痛と鍼灸実技(上腕骨外側上顆炎)
11回目	肘関節痛と鍼灸実技(上腕骨内側上顆炎)
12回目	末梢神経障害と鍼灸実技(正中神経障害:手根管症候群)
13回目	末梢神経障害と鍼灸実技(尺骨・橈骨神経障害)
14回目	鍼灸実技2セメまとめ
15回目	試験:実技
準備学習 時間外学習	1. 膝関節から下腿部・足における経穴の復習 2. 肘関節から前腕・手における経穴の復習 3. 膝・肘関節・足関節・手関節の疾患・障害における理学的検査の復習
評価方法	1. 実技点(70%) 2. 出席点(30%)
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	
経穴経絡教科書	

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	はりきゅう実技(特殊鍼法)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	四元 智己・松隈 夏美・天本 保典
	Acupuncture and Moxibustion Practical Skills	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 1	実務経験	○
コース	午前集中・美容・スポーツ					開講区分	2セメ
						曜日・時限	

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
鍼灸術において、特殊鍼法に位置付けられる希少かつ有効な治療法の技術について学んでいく。実演を行いながら解説し、その後実際に施術を行っていく。

※実務者経歴: 2007年より北九州市にて開業している。松クマ鍼灸院院長。

【到達目標】

それぞれの特殊鍼法の方法と意義について理解することができる。特殊鍼法を使用する場合の判断基準について理解できる。安全に特殊鍼法を行うことができる。

授業計画・内容

1回目	小児鍼①
2回目	小児鍼②
3回目	小児鍼③
4回目	小児鍼④
5回目	蠲鍼・錐鍼・円鍼 概要 実演・実技
6回目	蠲鍼・錐鍼・円鍼 概要 実演・実技
7回目	長鍼 概要 実演・実技
8回目	大鍼 概要 実演・実技
9回目	長鍼 概要 実演・実技
10回目	控刺・副控刺 概要 実演・実技
11回目	控刺・副控刺 概要 実演・実技
12回目	火鍼 概要 実演・実技
13回目	火鍼 概要 実演・実技
14回目	灸頭鍼 概要 実演・実技
15回目	セイリン社 鍼の説明会
準備学習 時間外学習	事前に準備して頂くものがあります。
評価方法	出席にて評価
受講生への メッセージ	この講義で行う特殊鍼法は大変貴重な技術であるとともに治療効果が高く有効なものばかりです。効果を出せる技術を身につけるのは難しいですが、しっかりと練習を行い技術を身につけてみなさんの臨床の武器のひとつにして頂きたいです。

【使用教科書・教材・参考書】

2025年度 授業概要

学 科 :

科目名 (英)	はりきゆう実技 <small>Acupuncture and Moxibustion Practical Skills</small>	必修 選択	必修	年次	3	担当教員 実務経験	川波 有司 ○
コース	午前集中・美容スポーツ	授業 形態	実技	総時間 (単位)	30 1	開講区分 曜日・時限	3セメ
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) 疾患や症状ごとに西洋医学的アプローチ(SOAP・問診・視診・触診・理学的検査・鍼灸治療)で授業を構築し進めていく。経絡・経穴の理解と経穴の取穴や鍼手技方法も必要となる。鍼パルス療法を取り入れた治療方法も授業では行っていく。</p> <p>※実務者経歴:プロバスケットボールチーム・ライジングゼファー福岡にチームトレーナーとして従事していた。</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>1. 疾患や症状における治療経穴や治療部位を理解する。 2. 鍼灸のスキルを向上する。 3. 鍼パルス療法を理解し取得する。 3. 臨床で鍼灸治療ができるように、西洋医学的問診～鍼灸治療(SOAP)までを取得する。</p>							

授業計画・内容	
1回目	頭頸部・顔面部の疾患・障害について(頭頸部・顔面部の経絡・経穴)
2回目	頭痛と肩こりと鍼灸実技
3回目	頭痛と肩こりと鍼灸実技
4回目	頸肩腕痛と鍼灸実技(胸郭出口症候群)
5回目	頸肩腕痛と鍼灸実技(胸郭出口症候群)
6回目	頸肩腕痛と鍼灸実技(頸椎症・頸椎椎間板ヘルニア)
7回目	頸肩腕痛と鍼灸実技(頸椎症・頸椎椎間板ヘルニア)
8回目	腰痛・腰下肢痛のケーススタディ(問診から鍼灸治療)
9回目	肩関節痛のケーススタディ(問診から鍼灸治療)
10回目	頸肩腕痛のケーススタディ(問診から鍼灸治療)
11回目	頭痛・肩こりのケーススタディ(問診から鍼灸治療)
12回目	肘関節痛のケーススタディ(問診から鍼灸治療)
13回目	膝関節痛のケーススタディ(問診から鍼灸治療)
14回目	手・足関節痛のケーススタディ(問診から鍼灸治療)
15回目	総合まとめ
準備学習 時間外学習	1. 頭・頸部、顔面部における経穴の復習 2. 頭頸部の理学的検査の復習 3. 1学期・2学期の内容の復習・確認
評価方法	出席点(100%)
受講生への メッセージ	
<p>【使用教科書・教材・参考書】</p> <p>経穴経絡教科書</p>	

2025年度 授業概要

学 科 :

科目名 (英)	総合領域⑨ Acupuncture and Moxibustion Practical Skills	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	栗 徹義、佐藤 隆哉、多田 寿晃、原崎 舞那
		授業 形態	実技	総時間 (単位)	30 1	実務経験	○
コース	午前集中・美容スポーツ					開講区分	3セメ
						曜日・時限	

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
鍼灸業界でご活躍されている様々な流派の先生方から治療を学ぶ

※実務者経験:2012年～2017年までixas鍼灸マッサージ整骨院に勤務、2018年～2019年までゼロスポ鍼灸整骨院に勤務。

【到達目標】

様々な流派の鍼灸治療に触れ、視野を広げる。
治療方法に興味をもち、将来の施術に結び付けるよう知識を修得する。

授業計画・内容

1回目	子午治療流注による治療1(栗先生)
2回目	子午治療流注による治療2(栗先生)
3回目	北辰会流講座1(佐藤先生)
4回目	北辰会流講座2(佐藤先生)
5回目	北辰会流講座3(佐藤先生)
6回目	北辰会流講座4(佐藤先生)
7回目	Mテスト、低周波治療、治療院経営の税金対策(多田先生)
8回目	Mテスト、低周波治療、治療院経営の税金対策(多田先生)
9回目	Mテスト、低周波治療、治療院経営の税金対策(多田先生)
10回目	Mテスト、低周波治療、治療院経営の税金対策(多田先生)
11回目	Mテスト、低周波治療、治療院経営の税金対策(多田先生)
12回目	Mテスト、低周波治療、治療院経営の税金対策(多田先生)
13回目	Mテスト、低周波治療、治療院経営の税金対策(多田先生)
14回目	Mテスト、低周波治療、治療院経営の税金対策(多田先生)
15回目	鍼灸師会特別講義

準備学習
時間外学習

出席点(100%)

評価方法

受講生への
メッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

2025年度 授業概要

学 科：鍼灸科

科目名 (英)	体力測定 Physical Fitness Test	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	山田 大介
						実務経験	○
コース	美容スポーツコース スポーツ専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	1セメ
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) 最初にお互いに身体計測を行い、最後の授業に向けてトレーニングを行い、最初の授業と最後の授業でどのくらい変わったかを見ていきます。身体計測方法やトレーニングの方法、指導の仕方を座学・実技を通じて学んでいきます。</p> <p>※実務者経験：プロ野球チームのチームトレーナーを経て、現在も各種スポーツ選手の指導に従事している。</p>							
<p>【到達目標】 体力要素の理解とその体力要素を判断するテスト項目の実施ならびに測定方法の習得。 (具体的な目標) ①身体計測ができるようになる ②トレーニングの方法、指導ができるようになる</p>							

授業計画・内容	
1回目	(座学)ガイダンス 自己紹介 「体力とは…？」
2回目	(座学)「体力とは…？」 「体力要素と測定項目について」
3回目	(実技)身体測定(身長・体重・体脂肪率)
4回目	(実技)身体測定(周径圍)
5回目	(実技)身体測定(皮下脂肪厚)
6回目	(実技)フィードバック
7回目	(実技)フィールドテスト(筋力・瞬発力)
8回目	(実技)フィールドテスト(筋持久力・柔軟性)
9回目	(実技)フィールドテスト(敏捷性・平衡性)
10回目	(実技)フィールドテスト(全身持久力)
11回目	(実技)身体測定(身長・体重・体脂肪率)
12回目	(実技)身体測定(周径圍)
13回目	(実技)身体測定(皮下脂肪厚)
14回目	(座学)まとめ テスト対策
15回目	(座学)試験評価
準備学習 時間外学習	特に必要ありません
評価方法	筆記テスト 100点
受講生への メッセージ	鍼灸科のみなさんにとっては数少ない身体を実際に動かして行なう授業です。鍼灸スポーツコースが出来てから毎年この体力測定の授業を受け持たせてもらっていますが、毎年楽しく身体を動かして自分の身体を変えてもらっています。
【使用教科書・教材・参考書】	

2025年度 授業概要

学 科：鍼灸科

科目名 (英)	レジスタンストレーニング1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	井上 航
	Resistance Training Method Theory1	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	実務経験	○
コース	美容スポーツコース スポーツ専攻					開講区分	1セメ
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) テキストに関わるエクササイズを中心に実技を通して理解を深め、実技だけでなく、座学で理論を学び、トレーニングの頻度、効果を学び、実際にプログラム作成をし、自身の身体で実感してもらう。</p> <p>※実務者経験:高校部活動のチームトレーナーをはじめ、多種アスリートのパーソナルトレーナーとして現在もフリーランスにて活動中</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>①BIG3のベースアップ、補助エクササイズの習得 ②NSCA試験に出題されるエクササイズテクニックの習得 ③プログラムデザインの習得</p>							

授業計画・内容	
1回目	(座学/実技)オリエンテーション
2回目	(座学/実技)BIG3の習得
3回目	(座学/実技)BIG3の習得
4回目	(座学/実技)部位別トレーニング(胸)
5回目	(座学/実技)部位別トレーニング(背)
6回目	(座学/実技)部位別トレーニング(肩)
7回目	(座学/実技)部位別トレーニング(腕)
8回目	(座学/実技)部位別トレーニング(下肢)
9回目	(座学/実技)部位別トレーニング(下肢)
10回目	(座学/実技)部位別トレーニング(体幹)
11回目	(座学/実技)プログラム作成とエクササイズのセット法
12回目	(座学/実技)パワークリーンの習得
13回目	(座学/実技)パワークリーンの習得
14回目	(座学)筆記試験
15回目	(実技)実技試験
準備学習 時間外学習	特に必要ありません
評価方法	筆記試験 50点 実技試験 50点
受講生への メッセージ	実技を通してしっかりエクササイズの目的、方法、効果などを理解し、プログラム作成ができるようになりましょう。また自分自身のトレーニングを定期的に行なっていきましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
NSCAパーソナルトレーナーのための基礎知識 JATIトレーニング指導者テキスト 実録編	

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	レジスタンストレーニング2 Resistance Training Method Theory2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員 実務経験	井上 航 ○
コース	美容スポーツコース スポーツ専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	2セメ
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) テキストに載っていない種目も多く演習をし、人体の構造を踏まえいかに効率の良い動きとそれに対するトレーナー的アプローチができるかを考察し習得する。 また、セメスターを通して自身のトレーニングを行い、自身の身体や扱える重量にどのような変化が起きるかを体験する。</p> <p>※実務者経験：高校部活動のチームトレーナーをはじめ、多種アスリートのパーソナルトレーナーとして現在もフリーランスにて活動中</p>							
【到達目標】							
①BIG3の習熟度と最大重量アップ ②NSCA試験に出題されるエクササイズテクニックの習得 ③多くのエクササイズ種目のテクニックと指導法の習得							

授業計画・内容	
1回目	(座学/実技)オリエンテーション / BIG3 MAX測定
2回目	(実技)BIG3 MAX測定
3回目	(実技)部位別トレーニング(上半身Push系)
4回目	(実技)部位別トレーニング(上半身Rowing系)
5回目	(実技)部位別トレーニング(下半身Push系)
6回目	(実技)部位別トレーニング(下半身Rowing系)
7回目	(実技)部位別トレーニング(体幹)
8回目	(実技)部位別トレーニング(回旋系)
9回目	(実技)部位別トレーニング(瞬発系)
10回目	(実技)ハングクリーンの習得
11回目	(実技)ハングクリーンの習得
12回目	(実技)テスト対策(種目練習)
13回目	(実技)テスト対策(種目練習)
14回目	実技テスト①
15回目	実技テスト②
準備学習 時間外学習	特に必要ありません
評価方法	平常点 20点 実技試験 80点
受講生への メッセージ	1セメスターで学んだ基礎をもとに各部位のトレーニングをより発展させ、より指導の引き出しを増やしていきましょう。また、継続的にトレーニングを行うことで自分自身の最大重量を伸ばしていきましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
NSCAパーソナルトレーナーのための基礎知識 JATIトレーニング指導者テキスト 実践編	

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	スポーツ傷害① Sports Injury Theory2	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	川波有司
コース	美容スポーツコース スポーツ専攻	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2	実務経験	○
						開講区分	1セメ
						曜日・時限	
<p>【授業の学習内容】</p> <p>1.スポーツマッサージ、ストレッチの基礎知識と関連する解剖生理学を習得する。 2.スポーツマッサージ、ストレッチの基本技術を習得する。</p> <p>※実務者経験:プロバスケットボールチーム・ライジングゼファー福岡にチームトレーナーとして従事していた。</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>1.スポーツマッサージを習得し、技術の提供できるレベルを目標とする。 2.ストレッチ(パートナーストレッチ)を習得し、技術の提供できるレベルを目標とする。</p>							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション スポーツマッサージとストレッチについて
2回目	ストレッチの目的、効果、下肢のストレッチ(ハムストリングス、殿部)
3回目	下肢の筋肉、下肢のストレッチ実技
4回目	下肢の筋肉、下肢のストレッチ実技
5回目	下肢の筋肉、下肢のストレッチ実技
6回目	下肢の筋肉、下肢のストレッチ実技
7回目	腰部の筋肉 腰部のストレッチ実技
8回目	腰部の筋肉 腰部のストレッチ実技
9回目	上肢の筋肉 上肢のストレッチ実技
10回目	上肢の筋肉 上肢のストレッチ実技
11回目	スポーツマッサージ実技(下肢)
12回目	スポーツマッサージ実技(下肢)
13回目	スポーツマッサージ実技(腰部)
14回目	スポーツマッサージ実技(腰部)
15回目	スポーツマッサージ実技(上肢)
準備学習 時間外学習	
評価方法	出席点、レポート
受講生への メッセージ	筋肉(骨格筋)の解剖知識を習得し、ストレッチや手技に活用できるようにしましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	スポーツ障害②	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	宮崎 恭子
	Sports Injury Theory I					実務経験	○
コース	美容スポーツコース スポーツ専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	2セメ
						曜日・時限	

【授業の学習内容】

各部位のテーピングに関する理論を理解した上で、実際にクラスメートにテープを巻く練習を行う。

※実務者経験: 高校バスケットボール部のチームトレーナーとして現在も従事している。

【到達目標】

アスレチックテーピングについての基礎知識と基本的技術を習得する。

授業計画・内容

1回目	テーピングについて説明することができる。
2回目	テーピングの目的、効果、注意点を述べることができる。
3回目	テープの種類、必要な備品について述べることができる。
4回目	基本テクニックについて説明することができる。
5回目	足関節アンダーラップの巻き方を学び、実践できる。
6回目	足関節アンダーラップの巻き方を学び、実践できる。
7回目	足関節内反制限の巻き方を学び、実践できる。
8回目	足関節内反制限の巻き方を学び、実践できる。
9回目	足関節内反制限の巻き方を学び、実践できる。
10回目	足関節内反制限の巻き方を学び、実践できる。
11回目	足関節内反制限の巻き方を学び、実践できる。
12回目	足関節内反制限の巻き方を学び、実践できる。
13回目	足関節内反制限の巻き方を学び、実践できる。
14回目	実技テスト
15回目	足関節のいろいろな巻き方を実践できる。

準備学習 時間外学習	
評価方法	実技テストにて知識・技能の到達評価を行う。 ●実技試験(60%) ●筆記試験(30%) ●出席(10%) の割合で成績評価を行う。
受講生への メッセージ	スポーツ現場では正しい状況判断と確かな技術が求められます。そのための知識と技術を習得できるよう、経験値を交えた授業を行う予定です。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書:『やさしいスチューデントトレーナーシリーズ テーピング』(メディカル・フィットネス協会(監修) 越前野書院)

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (実)	スポーツ医学	必修 選択		年次	2	担当教員	川波 有司
		授業 形態	講義/実技	総時間 (単位)	30	実務経験	○
コース	美容スポーツコース スポーツ専攻				2	開講区分	1セメ
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>1. スポーツ外傷・障害の特徴や症状・程度の基本知識を習得する。2. スポーツ外傷・障害の理学的検査や評価を習得する。3. スポーツ外傷・障害に鍼灸を使った治療の知識と技術の向上を進める。3. スポーツ外傷・障害からスポーツ復帰ができるようにアスレチックリハビリテーションの知識を習得する。スポーツ障害におけるテーピングを習得する。</p> <p>※実務者経歴: プロバスケットボールチーム・ライジングゼファー福岡にチームトレーナーとして従事していた。</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>1. スポーツ外傷・障害の特徴や症状・程度の基本知識を習得する。2. スポーツ外傷・障害の理学的検査や評価を習得する。3. スポーツ外傷・障害に鍼灸を使った治療の知識と技術の向上を進める。3. スポーツ外傷・障害からスポーツ復帰ができるようにアスレチックリハビリテーションの知識を習得する。スポーツ障害におけるテーピングを習得する。</p>							

授業計画・内容

1回目	足関節捻挫と足部足関節部の経穴について 足関節テーピング
2回目	足関節捻挫における鍼施術(鍼通電①) 足関節テーピング
3回目	足関節捻挫の応急処置 アイシング実技 足関節テーピング
4回目	足関節捻挫における鍼施術(鍼通電②) 足関節テーピング
5回目	足関節捻挫における評価とアスレチックリハビリテーションについて 足関節テーピング
6回目	足部と足関節の外傷と障害について 下腿部の経穴について 足関節テーピング
7回目	足部と足関節の外傷と障害について 下腿部の経穴について 足関節テーピング
8回目	下腿部の障害における鍼施術(鍼通電①) 足関節テーピング
9回目	下腿部の障害における鍼施術(鍼通電②) 足関節テーピング
10回目	下腿部の障害におけるテーピング(キネシオテープ) 足関節テーピング
11回目	膝関節の外傷について 膝、大腿部の経穴について 足関節テーピング
12回目	膝関節の障害について 膝、大腿部の経穴について 足関節テーピング
13回目	膝関節の障害について 鍼施術(鍼通電①) 足関節テーピング
14回目	膝関節の障害について 鍼施術(鍼通電②) 足関節テーピング
15回目	膝関節、大腿部の障害におけるテーピング(キネシオテープ) 足関節テーピング
準備学習 時間外学習	
評価方法	出席点、レポート
受講生へのメッセージ	反復学習と反復練習で知識と技術を身につけましょう
【使用教科書・教材・参考書】	

2024年度 授業概要

学 科 :

科目名 (英)	スポーツ医学	必修 選択		年次	2	担当教員 実務経験	川波 有司 ○
コース	美容スポーツコース スポーツ専攻	授業 形態	講義/実技	総時間 (単位)	90 2	開講区分 曜日・時間	2セメ
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>1. スポーツ外傷・障害の特徴や症状・程度の基本知識を習得する。2. スポーツ外傷・障害の理学的検査や評価を習得する。3. スポーツ外傷・障害に鍼灸を使った治療の知識と技術の向上を進める。3. スポーツ外傷・障害からスポーツ復帰ができるようにアスレティックリハビリテーションの知識を習得する。スポーツ障害におけるテーピングを習得する。</p> <p>※実務者経歴:プロバスケットボールチーム・ライジングゼファー福岡にチームトレーナーとして従事していた。</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>1. スポーツ外傷・障害と鍼灸治療の理解を高め治療の観点から鍼灸実践を行っていく。鍼灸スキルの向上を図っていく。2. 腰背部・肩関節のスポーツ外傷や障害の鍼灸治療に必要な知識と技術を習得する。</p>							

授業計画・内容	
1回目	大腿部の肉離れの評価と鍼灸治療(大腿前筋・ハムストリングス)
2回目	大腿部の肉離れのテーピングと鍼灸治療(大腿前筋・ハムストリングス)
3回目	腰背部のスポーツ外傷・障害について
4回目	腰痛症の評価と鍼灸治療(慢性腰痛)
5回目	腰痛症の評価と鍼灸治療(慢性椎間板ヘルニア)
6回目	腰痛症の評価と鍼灸治療(腰椎分離すべり症)
7回目	腰痛症の評価と鍼灸治療(梨状筋症候群)
8回目	腰痛症のテーピングと鍼灸治療
9回目	肩関節のスポーツ外傷・障害について
10回目	肩-インピンジメント症候群の評価と鍼灸治療
11回目	上肢二頭筋長頭腱炎の評価と鍼灸治療
12回目	野球肩の評価と鍼灸治療
13回目	肩関節のテーピングと鍼灸治療
14回目	肩関節のテーピングとアスレティックリハビリテーション
16回目	腰痛症と肩関節の外傷・障害のまとめ
評価学習 時間外学習	1. スポーツ外傷・障害と解剖学の事前復習 2. 腰背部・肩関節の経絡と経穴の取穴ができるように事前復習
評価方法	1. レポート点(70%) 2. 出席点(30%)
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	
経穴経絡教科書	

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	コンディショニング conditioning	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	山田 大介
						実務経験	○
コース	美容スポーツコース スポーツ専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	2セメ
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) コンディショニングの基礎理論、トレーニングの基礎理論などをトレーニング指導者テキストを用いて学習、理解して、スタジオにて自分自身の身体を使ってそのトレーニングを実践する。トレーニングだけでなく、日常生活の指導や、食事の指導も学んでいく。</p> <p>※実務者経験: 2005年よりフリーランスにてプロ野球選手をはじめ、多種アスリート選手のパーソナルトレーナーとして現在も活躍中である。</p>							
<p>【到達目標】 基本的なトレーニング理論を理解し、そのトレーニングを実践することができる。15コマの授業を終えた段階で、現場に出て指導し、各個人のパフォーマンス力の向上、日常生活の指導ができるようになる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	(座学)オリエンテーション、自己紹介、コンディショニングについて
2回目	(座学/実技)体力の種類
3回目	(座学/実技)スタティックストレッチ
4回目	(座学/実技)ダイナミックストレッチ
5回目	(座学/実技)ペアストレッチ
6回目	(座学/実技)自体重、体幹エクササイズ①
7回目	(座学/実技)自体重、体幹エクササイズ②
8回目	(座学/実技)自体重、体幹エクササイズ③
9回目	(座学/実技)アジリティトレーニング① (ラダー ミニハードル使用)
10回目	(座学/実技)アジリティトレーニング② (ラダー ミニハードル使用)
11回目	(座学/実技)コアコンディショニング① (ストレッチボール使用)
12回目	(座学/実技)コアコンディショニング② (ストレッチボール使用)
13回目	(座学/実技)試験対策
14回目	(実技)実技試験
15回目	(座学)筆記試験
準備学習 時間外学習	筋肉の動きを理解しておく必要があります。 解剖学で勉強するので、予習・復習が必要になります。
評価方法	筆記試験 + 実技試験 100点
受講生への メッセージ	スポーツトレーニングを通じて、幅の広い治療家を目指してください
【使用教科書・教材・参考書】	
トレーニング指導者テキスト	

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	NSCA対策演習 NSCA Test Practice	必修 選択	選択	年次	2	担当教員 実務経験	山田 大介 ○
コース	美容スポーツコース スポーツ専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	開講区分 曜日・時限	3セメ ○
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) NSCA-CPT試験に合格するための対策授業である。NSCA資格所得者の先生が、合格するための授業をしてくれる。NSCAはスポーツトレーナーをするためには必要になる資格になる。</p> <p>※実務者経験: 現在もフリーランスにて、複数の高校サッカー部をはじめ、各種スポーツ選手の指導に従事している。</p>							
<p>【到達目標】 パーソナルトレーナーのための基礎知識(エクササイズサイエンス、エクササイズテクニック、特別な人への運動処方)を理解、習得しNSCA-CPT試験に合格するための学力を身につける。</p>							

授業計画・内容	
1回目	(座学)オリエンテーション/協会・資格についての説明
2回目	(座学)第12章 柔軟性、自重、スタビリティボール・エクササイズ
3回目	(座学)第13章 レジスタンストレーニングのエクササイズテクニック
4回目	(座学)第14章 心臓血管系活動のテクニック
5回目	(座学)模擬試験
6回目	(座学)第18章 妊婦、高齢者、青年期直前のクライアント
7回目	(座学)第19章 栄養と代謝に問題を抱えるクライアント
8回目	(座学)第20章 心臓血管系疾患および呼吸器系疾患を有するクライアント
9回目	(座学)第21章 整形外科的疾患や傷害を有するクライアントとリハビリテーション
10回目	(座学)第22章 脊髄損傷、多発性硬化症、てんかん、脳性麻痺患者について
11回目	(座学)第23章 アスリートを対象にしたレジスタンストレーニング
12回目	(座学)模擬試験
13回目	(座学)第24・25章 施設と機器の配置およびメンテナンス/法的問題
14回目	(座学)模擬試験
15回目	(座学)模擬試験
準備学習 時間外学習	特に必要ありません
評価方法	筆記テスト 100点
受講生への メッセージ	試験日に向けてテキストを熟読し、継続した勉強を行なってください。また、勉強した内容を実践的に理解するために実技(トレーニング)も行いましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
NSCAパーソナルトレーナーのための基礎知識 解剖学、運動生理学テキスト	

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	NSCA対策I NSCA Test Preparation 1	必修 選択	選択	年次	2	担当教員 実務経験	諒田 健司 ○
コース	美容スポーツコース スポーツ専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	45 3	開講区分 曜日・時限	1セメ

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

NSCAとはストレングスとコンディショニングを合わせたものです。筋力や筋持久力を向上させるだけでなく、柔軟性、全身持久力など競技パフォーマンスの向上も目指していく講義である。座学で理論を学び、その後自分自身の身体を使ってトレーニングを実践していく。

※実務者経験: 中学～社会人年代までのスポーツ選手の治療、トレーニング、コンディショニング指導経験があり、現在、高校野球チームのトレーナーを務める。

【到達目標】

NSCAの理論を学び理解し、実技についても自分自身の身体を使って実践できるようになり、指導できるようになる。全授業を終えた後、資格試験を受け、NSCA-CPTの資格を所得する。

〈具体的な目標〉

- ①資格所得
- ②トレーニングの方法・効果を理解し、効率の良い指導をすることができる

授業計画・内容

1回目	(座学)オリエンテーション
2回目	(実技)BIG3エクササイズの実技
3回目	(実技)スクワットの実技
4回目	(実技)デットリフトの実技
5回目	(実技)ベンチプレスの実技
6回目	(実技)スクワットに関わる種目
7回目	(実技)デットリフトに関わる種目
8回目	(実技)ベンチプレスに関わる種目
9回目	(実技)ベントオーバーローイングの実技
10回目	(実技)ショルダープレスの実技
11回目	(実技)スクワットの指導練習
12回目	(実技)デットリフトの指導練習
13回目	(実技)ベンチプレスの指導練習
14回目	(実技)実技テスト
15回目	(実技)評価
準備学習 時間外学習	特に必要ありません
評価方法	BIG3エクササイズのフォーム(実技)
受講生への メッセージ	この授業でトレーニングスキルを習得しましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

NSCA/パーソナルトレーナーのための基礎知識

2025年度 授業概要

学 科：鍼灸科

科目名 (英)	NSCA対策1	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	藤田 健司
	NSCA Test Preparation 1					実務経験	○
コース	美容スポーツコース スポーツ専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	1セメ
<p>【授業の学習内容】</p> <p>NSCAとはストレングスとコンディショニングを合わせたものであり、筋力や筋持久力を向上させるだけでなく、柔軟性、全身持久力など競技パフォーマンスの向上も目指していく講義である。座学で理論を学び、NSCA CPT合格を目指すとともに、その理論を実践できるようにしていく。</p> <p>※実務者経験：中学～社会人年代までのスポーツ選手の治療、トレーニング、コンディショニング指導経験があり、現在、高校野球チームのトレーナーを務める。</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>①資格取得 ②トレーニングの方法・効果を理解し、効率の良い指導をすることができる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション、第1章筋系、神経系、骨格系の構造と機能
2回目	第1章筋系、神経系、骨格系の構造と機能
3回目	第2章心肺系とガス交換
4回目	第3章生体エネルギー機構
5回目	第4章バイオメカニクス
6回目	第5章レジスタンストレーニングの適応
7回目	第5章レジスタンストレーニングの適応、第2～第5章の復習
8回目	第2～5章の復習、中間テスト
9回目	第6章有酸素性持久カトレーニングへの生理学的な応答と適応
10回目	第7章パーソナルトレーニングにおける栄養
11回目	第7章パーソナルトレーニングにおける栄養
12回目	第8章パーソナルトレーナーのための運動心理学
13回目	第9章クライアントの面談と健康評価
14回目	期末試験
15回目	評価
準備学習 時間外学習	
評価方法	筆記テスト
受講生への メッセージ	スポーツ選手のサポートをするためには、解剖学・生理学の知識とそれを実践に繋げるための知識・技術・コミュニケーション能力が必要です。まずは基礎的な生理学・トレーニング科学・コンディショニング理論を学び、実践に繋げていくことが、現場に立つための第一歩になると思います。私の経験談等も含みながら進めますので、積極的な授業参加を待っています。
【使用教科書・教材・参考書】	
NSCAパーソナルトレーナーのための基礎知識	

2025年度 授業概要

学 科：鍼灸科

科目名 (英)	ヨーガ Yoga	必修 選択	必修	年次	1	担当教員 実務経験	興梠 百加
	コース	美容スポーツコース 美容専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分 曜日・時限
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) 講義では東洋医学概論をもとにヨーガと東洋医学の関係やヨーガについての基本理論、ヨーガ療法について学習していく。(座学約20分) 実技では種々あるヨーガのポーズ(アーサナ)の中からいくつかを体験し、呼吸法(ブラーナヤマ)、瞑想(メディテーション)を行いながら自身のところとからだを観察していく。(実技約60分)</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>目標①ヨーガの基本概念を学び実践することにより、普段から自分自身の健康の維持、健康増進に関心を持つ。さらに自分の体とところに意識を向ける力を身につける。 目標②ヨーガ療法としてのヨーガを学び、習得し実際の運動効果を体感する。 目標③東洋療法とヨーガの関係性を学び理解する。 目標④柔軟性、筋持久力、心肺機能などの基礎体力の向上、集中力アップ、精神の安定、自己コントロール力を獲得する。</p>							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション ヨーガの概要、座法、呼吸法について説明できる。
2回目	陰陽理論、五行理論 ヨーガで使う用語について説明できる。
3回目	足指回しと臓腑の関係について説明できる。
4回目	臓腑の不調とその特徴的な症状について説明できる。
5回目	小テスト 経穴とチャクラの関係について説明できる。
6回目	顔面・腹部・舌と五臓の関係について説明できる。
7回目	意識とからだ つま先～頭部のセルフケア、全身のほぐしについて説明できる。
8回目	体のバランスを整える、操体法、三軸修正法について説明できる。
9回目	ヨーガ療法、肩こり腰痛改善のためのアーサナについて説明できる。
10回目	期末テスト対策 各種ポーズを実践できる。
11回目	マクロビオティックについて説明できる。
12回目	マインドフルネスについて説明できる。
13回目	生活の中でのヨーガ 身近なものを使ったポーズについて説明できる。
14回目	セルフケアと全身のほぐしを実践できる。
15回目	期末テスト
準備学習 時間外学習	(目標①)前提:この授業を受けるには、臨床医学呼吸器疾患の理解が不可欠です。さらに解剖学、呼吸・血液生理学、運動学について予習が必要です。 (目標②)フィジカルアセスメントでは肺の構造と触診に必要な解剖学、呼吸機能検査のスパイロメトリー、血液ガスの予習が必要です。 (目標③)フィジカルアセスメントと体位廃淡法の実習前に確認テストを行いますので、講義の復習が必要です。 (目標④)気道内分泌吸引実習の前に確認テストを行いますので、講義の復習が必要です。
評価方法	●期末テスト(50%) ●平常点(40%) ●小テスト(10%) 割合で成績評価を行う。 ※平常点は授業態度や決まりごとによりにどのように取り組んでいるかを評価します。
受講生への メッセージ	講義の後にヨーガ実技を行いますので運動着、タオル(ポーズの補助具としても使用します)、水分補給のための水分(カフェイン・糖類の入っていないもの)を準備してください。資料を配布します。筆記用具を持参してください。 ヨーガを実践する場合には安全を配慮し、体調やケガなどの状態に留意して行ってください。
【使用教科書・教材・参考書】	

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	外国語 (Foreign Language)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	金子 知恵
	コース	午前集中・美容スポーツ	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	実務経験 開講区分 曜日・時限

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
 医療現場での英会話を想定し、会話に必要な英語による医療用語を学び、コミュニケーションを中心とした授業を行う。また、海外研修に必要な最低限の日常会話能力や講義内で使用される専門用語の理解に寄与する。
 ※実務経験: 高校教師資格をもち、長年の英語教師の経験を持つ。

【到達目標】

昨今、医療現場でもグローバル化が進み、患者像の多様化がみられる。その変化に対応すべく、世界の共通言語である英語を学ぶことによって、グローバルな感性を養い、最低限のコミュニケーション能力を習得する。

〈具体的な目標〉

- ①英語による医療用語を学び、医療現場における最低限の会話ができる。
- ②英語による医療用語や日常英会話を学び、アメリカで実施される海外研修に積極的に参加できる。

授業計画・内容

1回目	Orientation & Chapter 1 受付で使用する重要単語を理解できる。
2回目	Chapter 1 受付で対象者と基本的な英語対応ができる。
3回目	Chapter 2 病院案内において医療に特化した用語を理解できる。
4回目	Chapter 2 病院案内において英語で対応できるよう整形外科や小児科、眼科などを英語で表現でき、また案内もできる。
5回目	Chapter 3 基本的な体の部位の名称を英語で理解し、患者の症状や痛みなどを英語で正確に聴取し情報を収集できる。
6回目	Chapter 4 様々な患者の症状や痛みなどを英語で正確に聴取し情報を収集できる。
7回目	Chapter 5 問診(既往歴・家族歴)に関する基本的な英語対応ができる。
8回目	Chapter 5 問診(既往歴・家族歴)に関する様々な英語対応がスムーズにできる。
9回目	Chapter 6 問診(アレルギー・生活習慣)に関する基本的な英語対応ができる。
10回目	Chapter 6 問診(アレルギー・生活習慣)に関する様々な英語対応がスムーズにできる。
11回目	Chapter 7 内科1(身体測定・診察時の表現)に関する英語対応ができる。
12回目	Chapter 8 内科2(バイタルサインの測定)に関する基本的な英語対応ができる。
13回目	Chapter 15 鍼灸関連の英語表現を使った患者への対応ができる。
14回目	定期試験
15回目	試験返却、解説

準備学習は特に必要ありませんが、医療分野での専門用語が多く出てくるため、その他の基本的な単語力や文法の理解力が足りていないと、授業についていくのが難しくなってきます。必要に応じて、事前にテキストに目を通して単語を確認しておく、授業後に分からなかった箇所を再確認しておくことをおすすめします。

定期試験にて知識・技能の到達評価を行う。
 ●定期試験(100%)
 成績評価を行う。

受講生へのメッセージ
 グローバル化している現代社会において、英会話はコミュニケーションスキルとして必要となってきています。臨床現場や海外研修時に、英語で対応できるスキルを身に付けることで、より充実した、楽しい時間を過ごすことができます。
 体調管理には気を付けて、欠席をしないようにしてください。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書: ILG国際語学センター: 医療英語コミュニケーション、特定非営利活動法人 医療・福祉英語検定協会

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	外国語 (Foreign Language)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員 実務経験	末永 真理子
	コース	美容スポーツ	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	開講区分 曜日・時限

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
 医療現場での英会話を想定し、会話に必要な英語による医療用語を学び、コミュニケーションを中心とした授業を行う。また、海外研修に必要な最低限の日常会話能力や講義内で使用される専門用語の理解に寄与する。
 ※実務経験: 高校教師資格をもち、長年の英語教師の経験を持つ。

【到達目標】
 昨今、医療現場でもグローバル化が進み、患者像の多様化がみられる。その変化に対応すべく、世界の共通言語である英語を学ぶことによって、グローバルな感性を養い、最低限のコミュニケーション能力を習得する。
 (具体的な目標)
 ①英語による医療用語を学び、医療現場における最低限の会話ができる。
 ②英語による医療用語や日常英会話を学び、アメリカで実施される海外研修に積極的に参加できる。

授業計画・内容	
1回目	Orientation & Chapter 1 受付で使用する重要単語を理解できる。
2回目	Chapter 1 受付で対象者と基本的な英語対応ができる。
3回目	Chapter 2 病院案内において医療に特化した用語を理解できる。
4回目	Chapter 2 病院案内において英語で対応できるよう整形外科や小児科、眼科などを英語で表現でき、また案内もできる。
5回目	Chapter 3 基本的な体の部位の名称を英語で理解し、患者の症状や痛みなどを英語で正確に聴取し情報を収集できる。
6回目	Chapter 4 様々な患者の症状や痛みなどを英語で正確に聴取し情報を収集できる。
7回目	Chapter 5 問診(既往歴・家族歴)に関する基本的な英語対応ができる。
8回目	Chapter 5 問診(既往歴・家族歴)に関する様々な英語対応がスムーズにできる。
9回目	Chapter 6 問診(アレルギー・生活習慣)に関する基本的な英語対応ができる。
10回目	Chapter 6 問診(アレルギー・生活習慣)に関する様々な英語対応がスムーズにできる。
11回目	Chapter 7 内科1(身体測定・診察時の表現)に関する英語対応ができる。
12回目	Chapter 8 内科2(バイタルサインの測定)に関する基本的な英語対応ができる。
13回目	Chapter 15 鍼灸関連の英語表現を使った患者への対応ができる。
14回目	定期試験
15回目	試験返却、解説
準備学習 時間外学習	準備学習は特に必要ありませんが、医療分野での専門用語が多く出てくるため、その他の基本的な単語力や文法の理解力が足りていないと、授業についていくのが難しくなってきます。必要に応じて、事前にテキストに目を通して単語を確認しておく、授業後に分からなかった箇所を再確認しておくことをおすすめします。
評価方法	定期試験にて知識・技能の到達評価を行う。 ●定期試験(100%) 成績評価を行う。
受講生への メッセージ	グローバル化している現代社会において、英会話はコミュニケーションスキルとして必要となってきています。臨床現場や海外研修時に、英語で対応できるスキルを身に付けることで、より充実した、楽しい時間を過ごすことができます。 体調管理には気を付けて、欠席をしないようにしてください。
【使用教科書・教材・参考書】	
教科書: ILC国際語学センター、医療英語コミュニケーション、特定非営利活動法人 医療・福祉英語検定協会	

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	コミュニケーション	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	吉田 昌宏
	communication					実務経級	
コース	午前集中・美容スポーツ	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	開講区分 曜日・時間	1セメ
<p>【授業の学習内容】</p> <p>通信教育 医道従事者として必要なコミュニケーションについて学び、患者と信頼関係が構築できるようになる。</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>「こころ」を科学的に解明することで、自分や自分の思いやり気持ちを論理的、客観的に理解することができる。 この理解により、仕事や生活の場でのより良いコミュニケーションスキルの修得を目指す。</p>							

授業計画・内容	
1回目	
2回目	
3回目	
4回目	
5回目	
6回目	
7回目	
8回目	
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 特 別学習	
評価方法	課題の提出、期末テスト(100点満点)
受講生への メッセージ	
<p>【使用教科書・教材・参考書】</p> <p>心理学のすべてがわかる本</p>	

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	セルフプロモーション Carria and Selfpromotion	必修 選択	必修	年次	1	担当教員 実務経験	久住 真理・矢島 孔明
コース	午前集中・美容スポーツ	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	開講区分 曜日・時限	2セメ
【授業の学習内容】 通信教育 自分自身を理解しながら主体性を養い、自らの意思で人生を歩むための行動力を習得することができる。							
【到達目標】 自分自身を理解し、自らの意思で、自らの願いやイメージを実現するためのヒントを科学の環からひも解く。 あなた自身のこれからの人生の中で「生き生きと輝く」ために大いに役立つ、よりよく生きるための知恵を学び、明日の行動に繋げるための科目。							

授業計画・内容	
1回目	
2回目	
3回目	
4回目	
5回目	
6回目	
7回目	
8回目	
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
卒業学習 時 間外学習	
評価方法	課題の提出、期末テスト(100点満点)
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】 運命を変える心と体の磨き方	

2025年度 授業概要

学 科 : 鍼灸科

科目名 (英)	外国語	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	ILC
	(Foreign Language)					実務経験	
コース	午前集中・美容スポーツ	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	開講区分	2セメ
						曜日・時間	

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

医療現場での英会話を想定し、会話に必要な英語による医療用語を学び、コミュニケーションを中心とした授業を行う。また、海外研修に必要な最低限の日常会話能力や講義内で使用される専門用語の理解に寄与する。

※実務経験: 高校教師資格をもち、長年の英語教師の経験を持つ。

【到達目標】

昨今、医療現場でもグローバル化が進み、患者像の多様化がみられる。その変化に対応すべく、世界の共通言語である英語を学ぶことによって、グローバルな感性を養い、最低限のコミュニケーション能力を習得する。

(具体的な目標)

①英語による医療用語を学び、医療現場における最低限の会話ができる。

②英語による医療用語や日常英会話を学び、アメリカで実施される海外研修に積極的に参加できる。

授業計画・内容

1回目	Orientation & Chapter 1 受付で使用する重要単語を理解できる。
2回目	Chapter 1 受付で対象者と基本的な英語対応ができる。
3回目	Chapter 2 病院案内において医療に特化した用語を理解できる。
4回目	Chapter 2 病院案内において英語で対応できるよう整形外科や小児科、眼科などを英語で表現でき、また案内もできる。
5回目	Chapter 3 基本的な体の部位の名称を英語で理解し、患者の症状や痛みなどを英語で正確に聴取し情報を収集できる。
6回目	Chapter 4 様々な患者の症状や痛みなどを英語で正確に聴取し情報を収集できる。
7回目	Chapter 5 問診(既往歴・家族歴)に関する基本的な英語対応ができる。
8回目	Chapter 5 問診(既往歴・家族歴)に関する様々な英語対応がスムーズにできる。
9回目	Chapter 6 問診(アレルギー・生活習慣)に関する基本的な英語対応ができる。
10回目	Chapter 6 問診(アレルギー・生活習慣)に関する様々な英語対応がスムーズにできる。
11回目	Chapter 7 内科1(身体測定・診察時の表現)に関する英語対応ができる。
12回目	Chapter 8 内科2(バイタルサインの測定)に関する基本的な英語対応ができる。
13回目	Chapter 15 鍼灸関連の英語表現を使った患者への対応ができる。
14回目	定期試験
15回目	試験返却、解説

準備学習
時間外学習

準備学習は特に必要ありませんが、医療分野での専門用語が多く出てくるため、その他の基本的な単語力や文法の理解力が足りていないと、授業についていくのが難しくなってきます。必要に応じて、事前にテキストに目を通して単語を確認しておく、授業後に分からなかった箇所を再確認しておくことをおすすめします。

評価方法

定期試験にて知識・技能の到達評価を行う。
●定期試験(100%)
成績評価を行う。

受講生への
メッセージ

グローバル化している現代社会において、英会話はコミュニケーションスキルとして必要となってきています。臨床現場や海外研修時に、英語で対応できるスキルを身に付けることで、より充実した、楽しい時間を過ごすことができます。

体調管理には気を付けて、欠席をしないようにしてください。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書: ILC国際語学センター、医療英語コミュニケーション、特定非営利活動法人 医療・福祉英語検定協会